

## 8-4-2 植物

工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地）の存在により、対象事業実施区域及びその周囲で、重要な種及び群落への影響のおそれがあることから、環境影響評価を行った。

### (1) 調査

#### 1) 調査すべき項目

##### ア. 植物に係る植物相及び植生の状況

調査項目は、植物に係る植物相及び植生の状況について調査した。

##### イ. 植物に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

調査項目は、植物に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況とした。

##### ウ. 蘚苔類及び地衣類に係る重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況

調査項目は、文献等で分布情報が得られた蘚苔類及び地衣類に係る重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況とした。

#### 2) 調査の基本的な手法

##### ア. 植物に係る植物相及び植生の状況

文献調査により、地域に生育する植物関連の文献、資料を収集し整理した。なお、必要に応じて専門家へのヒアリングを行った。

現地調査の方法を、表 8-4-2-1 に示す。

表 8-4-2-1 植物の調査方法

調査項目	調査方法	
植物に係る植物相	任意確認	調査地域内を任意に踏査し、確認された種を記録した。調査の対象はシダ植物・種子植物とし、現地での同定が困難な種は標本を持ち帰り、室内で同定を行った。
植物に係る植生	コドラート法	植生及び土地の利用の状況によって区分された植物群落について、方形枠（コドラート）を設定し、植生の状況を調査した。調査した植生はブラン-ブランケ法により、その特徴の把握を行った。

##### イ. 植物に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

生育が確認された植物に係る種及び分布が確認された群落の内、表 8-4-2-2 に示す基準に該当するものを植物に係る重要な種及び群落として選定した。

なお、重要な種の選定にあたっては、必要に応じて専門家の指導・助言を受け、選定した。

表 8-4-2-2 植物に係る重要な種及び群落の選定基準

番号	文献及び法令名	区分
①	文化財保護法（昭和 25 年、法律第 214 号）	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年、法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	自然環境保全法（昭和 47 年、法律第 85 号）	○：指定の地域
④	長野県文化財保護条例（昭和 50 年、長野県条例第 44 号）	県天：県指定天然記念物
⑤	長野県希少野生動植物保護条例（平成 15 年、長野県条例第 32 号）	指：指定希少野生動植物 特：特別指定希少野生動植物
⑥	長野県自然環境保全条例（昭和 46 年、長野県条例第 35 号）	○：自然環境保全地域
⑦	大鹿村文化財保護条例（昭和 47 年、大鹿村条例第 21 号） 文化財保護条例（昭和 49 年、豊丘村条例第 17 号） 喬木村文化財保護条例（昭和 45 年、喬木村条例第 19 号） 高森町文化財保護に関する条例（昭和 44 年、高森町条例第 25 号） 飯田市文化財保護条例（昭和 41 年、飯田市条例第 33 号） 阿智村文化財保護に関する条例（昭和 42 年、阿智村条例第 11 号） 南木曾町文化財保護条例（昭和 51 年、南木曾町条例第 12 号）	○：市町村指定天然記念物
⑧	環境省第 4 次レッドリスト 植物 I（維管束植物） 植物 II（維管束植物以外）（平成 24 年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑨	長野県レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～維管束植物編（平成 14 年、長野県） 長野県レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～非維管束植物・植物群落編（平成 17 年、長野県）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN+VU：絶滅危惧 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 RH：希少雑種 A：総合評価 A ランク B：総合評価 B ランク C：総合評価 C ランク
⑩	植物群落レッドデータ・ブック（平成 8 年、我が国における保護上重要な植物種及び植物群落研究会植物群落分科会）	1：要注意 2：破壊の危惧 3：対策必要 4：緊急に対策が必要
⑪	国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑－関東・中部（山岳）編－（昭和 57 年、環境庁）	指：指定植物
⑫	第 2 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 甲信越版（新潟県・山梨県・長野県）（昭和 55 年、環境庁） 第 3 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 II 甲信越版（新潟県・山梨県・長野県）（昭和 63 年、環境庁） 第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書（平成 12 年、環境庁）	指定：指定されている特定植物群落
⑬	専門家の助言により選定した種	○：選定した種

注 1. ⑦は該当する市町村でのみ、⑩は該当する国立公園・国定公園でのみの選定基準とする。

#### ウ. 蘚苔類及び地衣類に係る重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況

文献調査により、地域に生育する重要な蘚苔類及び地衣類関連の文献、資料を収集し整理した。なお、必要に応じて専門家へのヒアリングを行った。表 8-4-2-2 に示す基準に該当するものを重要な種として選定した。

現地調査の方法を、表 8-4-2-3 に示す。

**表 8-4-2-3 蘚苔類及び地衣類の調査方法**

調査項目	調査方法
蘚苔類及び地衣類	調査地域内を踏査し、目視により確認を行った。現地での同定が困難な場合は写真又は標本により同定を行った。

#### 3) 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲の内、山岳トンネル、非常口（山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、地上駅、変電施設、保守基地、工事用道路を対象に工事の実施又は鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地）の存在に係る植物への影響が生じるおそれがあると認められる地域とした。

#### 4) 調査地点

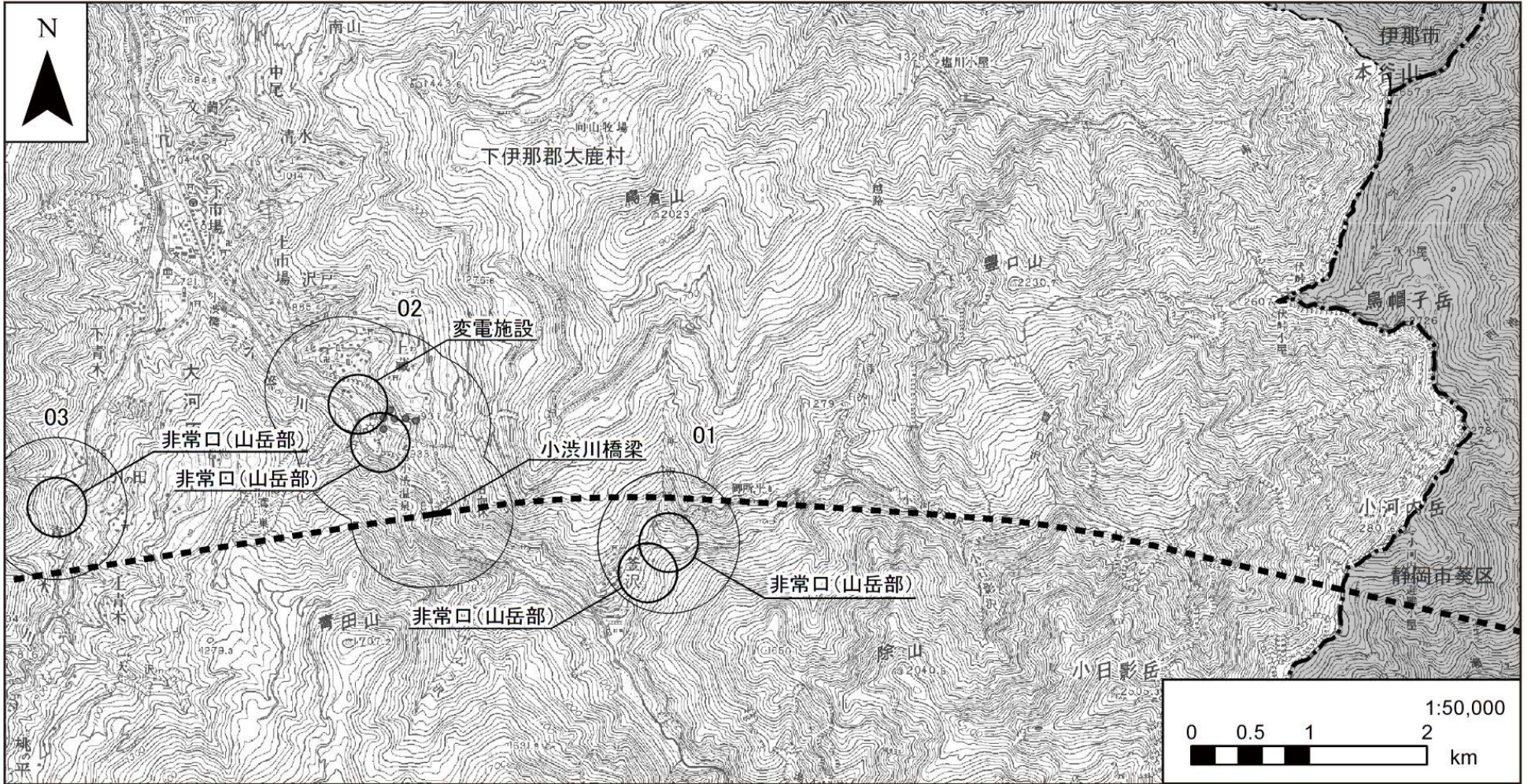
植物は、調査地域の内、自然環境の状況及び利用状況等を考慮し、植物の生育環境を適切に把握することができる範囲とした。調査範囲は土地改変区域から概ね 600m の範囲とした。

蘚苔類及び地衣類は、調査地域の内、蘚苔類及び地衣類の生育環境を適切に把握することができる範囲として文献調査等に基づき設定した。調査範囲は土地改変区域から概ね 600m の範囲とした。

調査範囲を、表 8-4-2-4 及び図 8-4-2-1 に示す。

表 8-4-2-4 調査範囲の概要

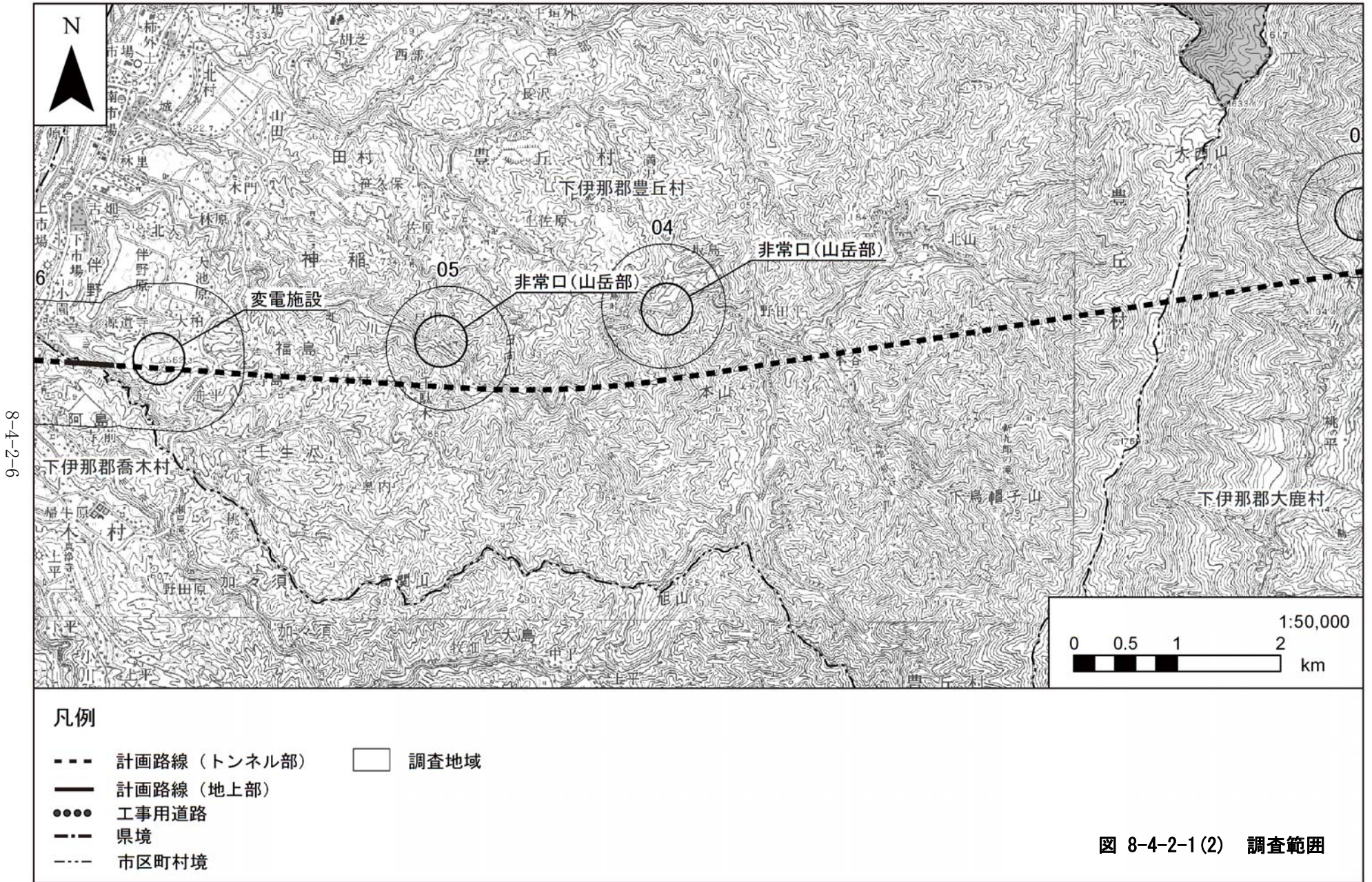
地点番号	地域名称	対象施設
01	釜沢地区	非常口（山岳部）
02	上蔵地区	山岳トンネル、橋梁、非常口（山岳部）、変電施設、工事用道路
03	上青木地区	非常口（山岳部）
04	坂島地区	非常口（山岳部）
05	戸中地区	非常口（山岳部）
06	神稲・阿島・座光寺・上郷飯沼地区	山岳トンネル、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、非常口（山岳部）、地上駅、変電施設、保守基地
07	黒田地区	非常口（山岳部）
08	松川地区	山岳トンネル、橋梁
09	萩の平地区	非常口（山岳部）
10	広瀬地区	非常口（山岳部）
11	尾越地区	非常口（山岳部）

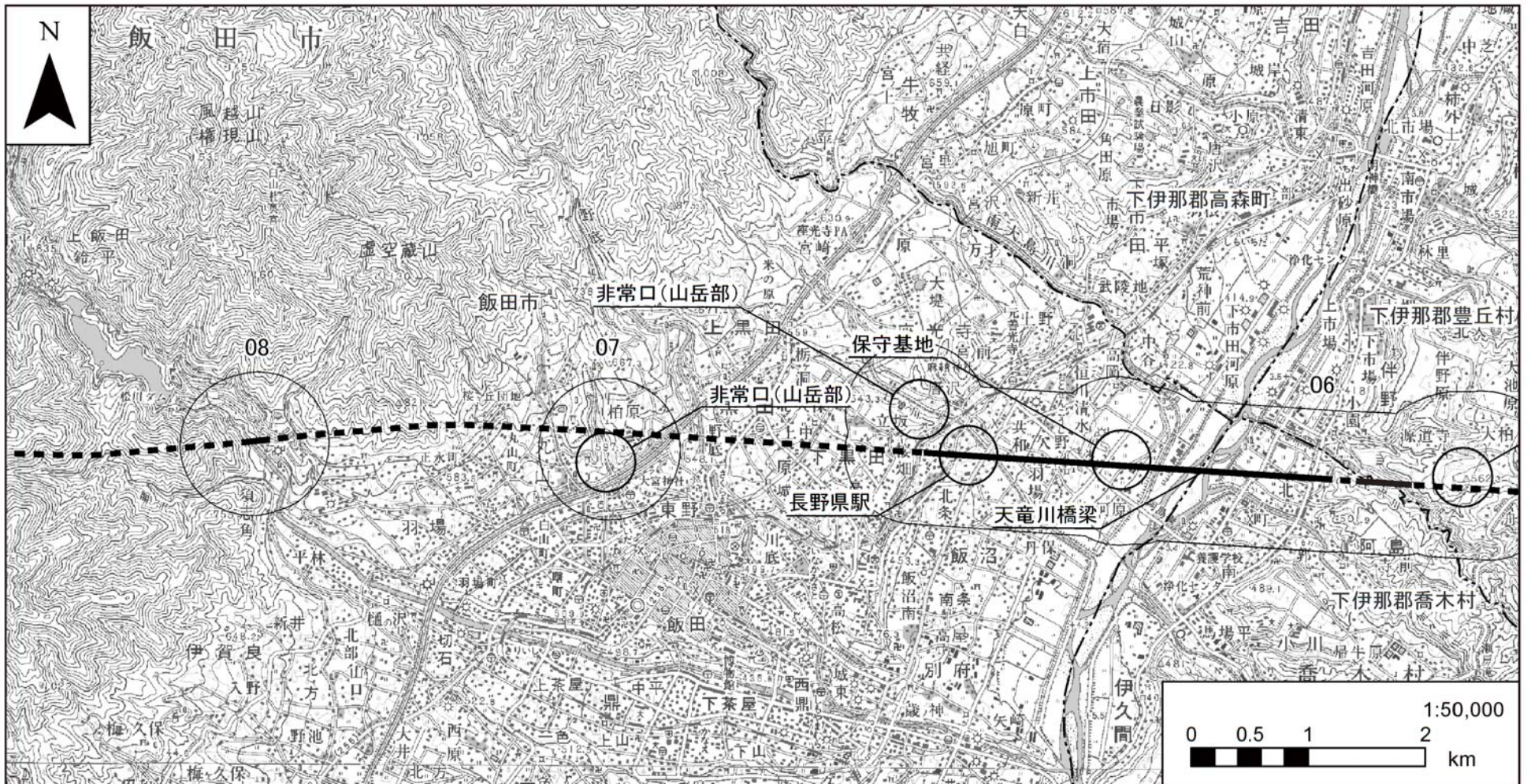


凡例

- 計画路線 (トンネル部)    □ 調査地域
- 計画路線 (地上部)
- 工事用道路
- - - 県境
- - - 市区町村境

図 8-4-2-1(1) 調査範囲

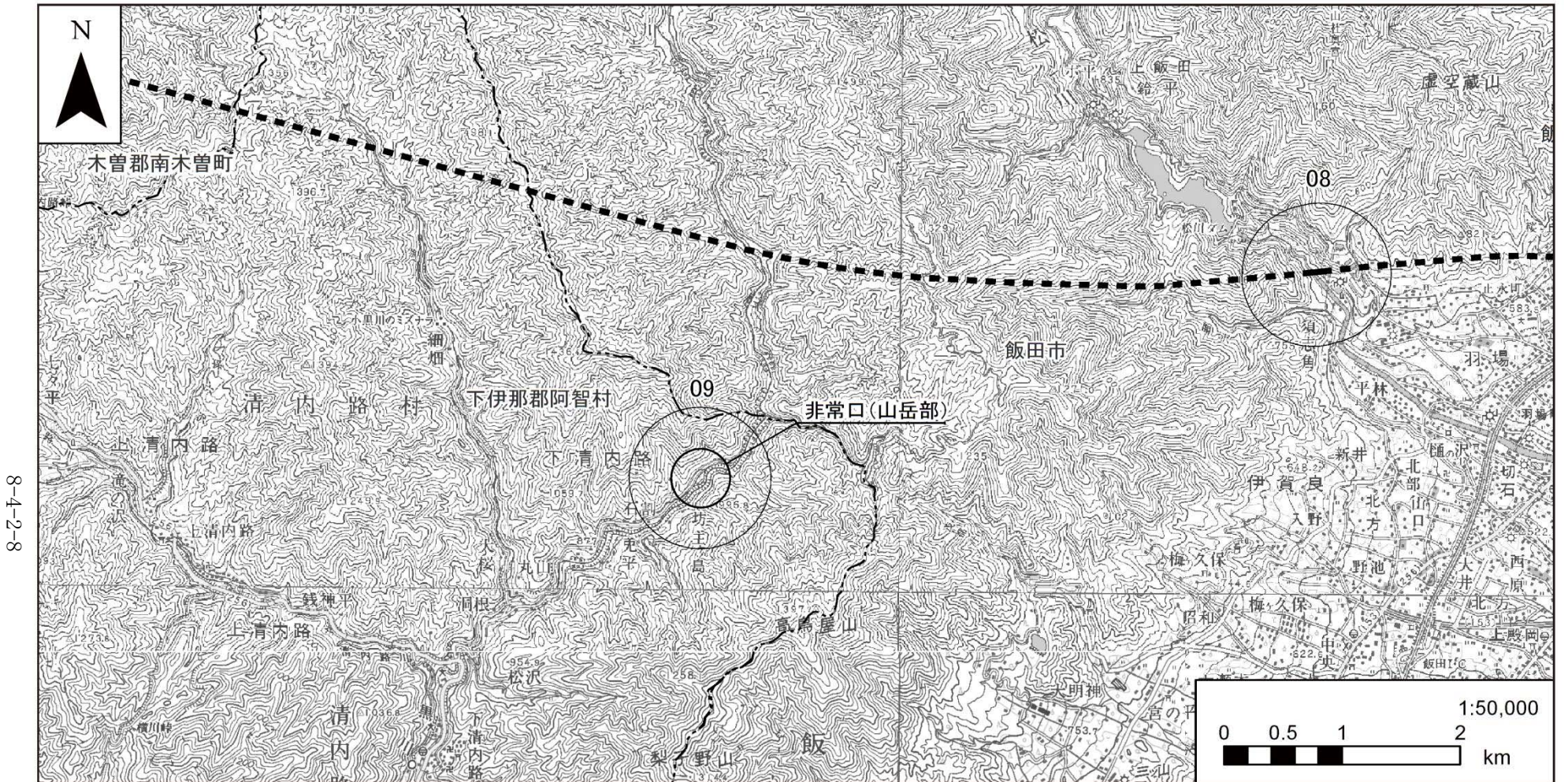




凡例

- 計画路線 (トンネル部)      □ 調査地域
- 計画路線 (地上部)
- 工事用道路
- - - 県境
- · - · 市区町村境

図 8-4-2-1(3) 調査範囲



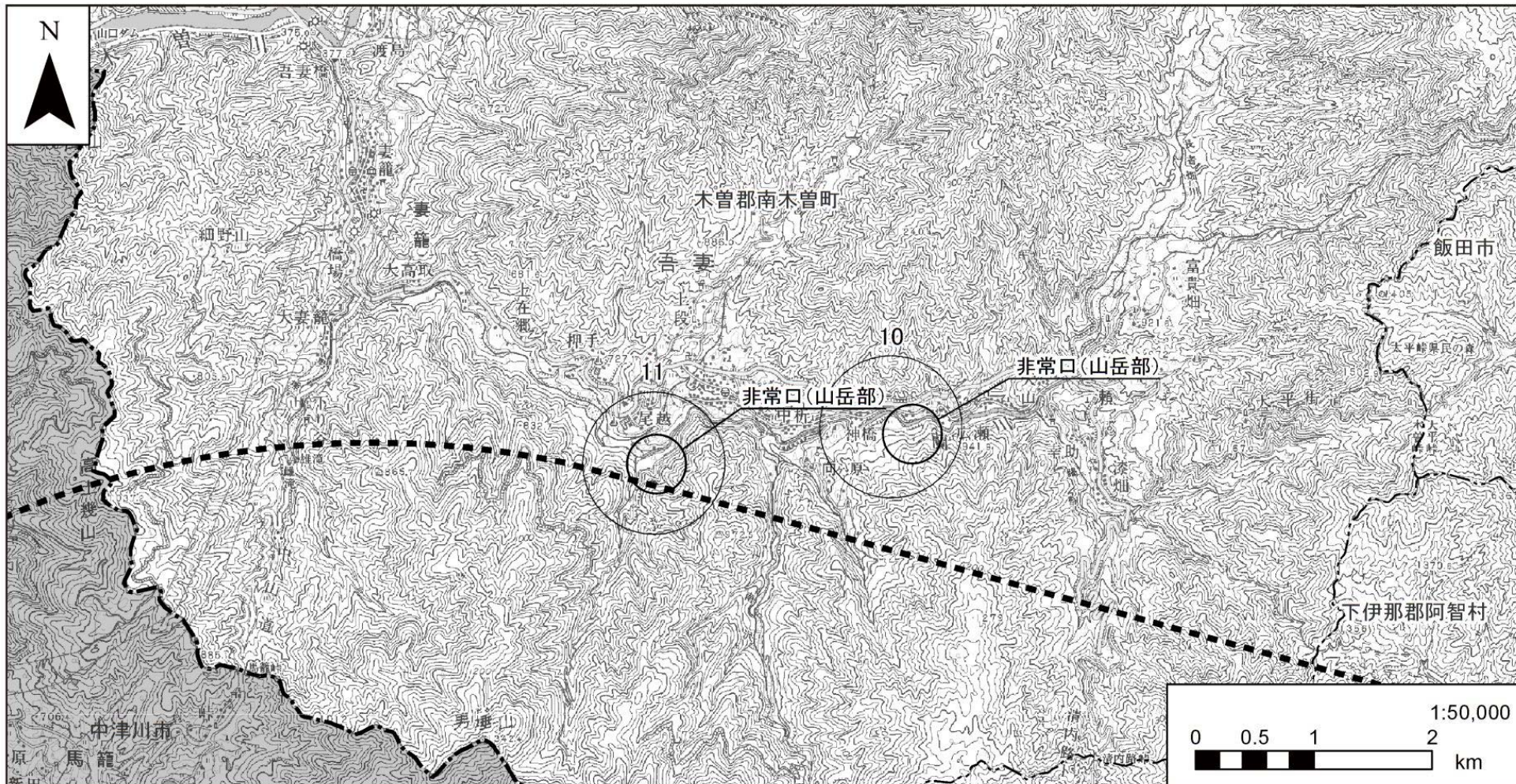
8-4-2-8

凡例

- 計画路線 (トンネル部)      □ 調査地域
- 計画路線 (地上部)
- 工事用道路
- - - 県境
- - - 市区町村境

図 8-4-2-1(4) 調査範囲





凡例

- 計画路線 (トンネル部)      □ 調査地域
- 計画路線 (地上部)
- 工事用道路
- 県境
- 市区町村境

図 8-4-2-1(5) 調査範囲

## 5) 調査期間

植物、蘚苔類及び地衣類の現地調査は、表 8-4-2-5 に示す時期に実施した。

**表 8-4-2-5 調査期間**

調査項目	調査実施日	
植物に係る植物相	早春季	平成 24 年 4 月 2 日～8 日 平成 25 年 4 月 8 日～12 日
	春季	平成 24 年 5 月 25 日～31 日 平成 25 年 5 月 27 日～30 日
	夏季	平成 24 年 7 月 26 日～8 月 1 日 平成 24 年 8 月 13 日～16 日 平成 25 年 7 月 24 日～26 日
	秋季	平成 24 年 10 月 9 日～14 日 平成 24 年 10 月 30 日
植物に係る植生	夏季	平成 24 年 7 月 26 日～8 月 1 日 平成 24 年 8 月 13 日～16 日
	秋季	平成 24 年 10 月 31 日～11 月 2 日 平成 24 年 11 月 13 日～15 日
蘚苔類	秋季	平成 24 年 8 月 20 日～25 日
地衣類	秋季	平成 24 年 9 月 3 日～5 日 平成 24 年 11 月 6 日～9 日

## 6) 調査結果

植物に係る植物相、植生、蘚苔類及び地衣類について現地調査の結果を以下に示す。なお、確認地点における改変の可能性のある範囲からの位置関係は、表 8-4-2-6 に基づいて整理した。

**表 8-4-2-6 改変区域と確認位置の距離に関する定義**

用語		定義
範囲内	改変の可能性のある範囲	計画施設及び工事施工ヤードが設置され、改変される可能性がある範囲
範囲外	改変の可能性のある範囲の近傍	改変の可能性のある範囲の端部から100mの範囲内
	相当離れた地域	改変の可能性のある範囲の端部から100m以上離れている

## ア. 植物に係る植物相

### 7) 植物に係る植物相の状況

現地調査において、155 科 1,352 種類の植物を確認した（「資料編 15-2-1 植物」参照）。現地調査の結果を表 8-4-2-7 に示す。

表 8-4-2-7 植物に係る植物相の現地調査結果

分類			調査時期						合計			
			早春季		春季		夏季				秋季	
			科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シダ植物			16	68	18	112	19	113	17	112	20	132
種子植物	裸子植物		6	16	5	16	6	17	5	15	6	20
	被子植物	双子葉植物	48	186	69	431	73	446	72	442	77	550
		離弁花類 合弁花類	24	90	30	217	31	260	32	262	32	330
	単子葉植物		11	67	18	185	17	216	20	205	20	320
合計			105	427	140	961	146	1052	146	1036	155	1352

注 1. 分類、配列などは「植物目録 1987」（昭和 62 年、環境庁）に準拠した。

調査地域には市街地から山地までの間に多様な環境が存在し、多くの植物種を確認した。

樹林環境としてはコナラを主体とした落葉広葉樹林が広い地域で見られ、その下層においてソヨゴ、ネジキ、ダンコウバイ等の低木、シシガシラ、クマワラビ、ベニシダ等のシダ植物、タチツボスミレ、ツルリンドウ及びタガネソウなどの草本を確認した。大鹿村、阿智村等の標高の高い地域ではミズナラ、イヌブナの樹林が見られ、下層にはアズキナシ、ウラジロノキ等の木本が生育していた。針葉樹林としては広い地域で尾根上にアカマツが見られ、南木曾町ではヒノキ、アスナロの天然林が見られた。樹林環境全体に林床の組成が単純な林分が多かった。これはシカの食害によるものと考えられる。

その他の環境として、天竜川に広がる河原ではカワヂシャ、カワラヨモギ、カワラニガナ及びシナダレスズメガヤ等不安定な環境に生育する草本を確認した他、天竜川兩岸の平野部から丘陵帯には市街地、水田・畑・果樹園等の耕作地が広がり、エノキグサ、コハコベ、ヒメオドリコソウ及びメヒシバといった耕地雑草、シロツメクサ、オオバコ、カゼクサ、セイヨウタンポポ及びコスズメガヤといった人為的環境に多い草本などを確認した。

特筆すべき環境としては大鹿村の石灰岩地と蛇紋岩地があげられ、石灰岩地ではヒメイワトラノオ、クモノスシダ、オオビランジ等の好石灰岩植物を確認した他、蛇紋岩地ではイワウサギシダ、イワシモツケ、カワラウスユキソウ等特有の植物を確認した。

現地調査の結果概要を表 8-4-2-8 に示す。

表 8-4-2-8 植物に係る植物相現地調査結果の概要

主な生育環境	主な確認種
樹林	コナラ、アカマツ、ソヨゴ、ダンコウバイ、タチツボスミレ、ツルリンドウ、ナギナタコウジュ、タガネソウ、スズタケ、シシガシラ等
草地	ススキ、ヒメムカシヨモギ、ヨモギ、メドハギ、チカラシバ、ヤブマメ、エゾノギシギシ、イヌビエ等
湿地・河川	イ、セリ、ミゾソバ、ミゾホオズキ、イボクサ、カワラヨモギ、シナダレスズメガヤ、ニセアカシア（ハリエンジュ）※、オニグルミ、ツルヨシ等
耕作地	エノキグサ、スベリヒユ、オモダカ、コナギ、ウキクサ、マツバイ、アゼスゲ、イヌナズナ、エビモ、ヤナギモ等
市街地	オオバコ、コニシキソウ、ツメクサ、ツユクサ、コスズメガヤ、トラノオシダ、イノモトソウ等
その他	(石灰岩地) ヒメイワトラノオ、クモノスシダ、オオビランジ等 (蛇紋岩地) イワウサギシダ、イワシモツケ、カワラウスユキソウ等

注：植物相に係る「植物目録1987」（昭和62年、環境庁）では「ハリエンジュ」を使用しており、植生に係る「自然環境保全基礎調査（環境省）・統一凡例」では「ニセアカシア群落」を使用していることから、「ニセアカシア（ハリエンジュ）」とした。

#### 1) 植物に係る重要な種の確認状況

文献調査及び現地調査により確認された植物に係る重要な種は115科958種類であった。文献及び現地で確認された植物に係る重要な種とその選定基準を表 8-4-2-9 に示す。

表 8-4-2-9(1) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬	
1	ヒカゲノカズラ	チシマヒカゲノカズラ	○							EN	EN	指		
2		ミヤマヒカゲノカズラ	○								EN	指		
3		タカネスギカズラ	○									指		
4		ヒメスギラン	○									指		
5		スギラン	○	○						VU	EN			
6		タカネヒカゲノカズラ	○									指		
7		マンネンスギ	○									指		
8		チシマスギラン	○									指		
9	イワヒバ	エゾヒメクラマゴケ	○									指		
10		ヒモカズラ	○									指		
11	ハナヤスリ	オオハナワラビ	○	○							VU			
12		ミヤマハナワラビ	○							CR	CR	指		
13		ヒメハナワラビ	○							VU	NT	指		
14		ヤマハナワラビ	○									指		
15		エゾフユノハナワラビ	○									指		
16		コハナヤスリ	○									DD		
17	キジノオシダ	フタツキジノオ	○								RH			
18	コケシノブ	ハイホラゴケ	○								CR			
19		チチブホラゴケ	○								EN			
20		キヨスミコケシノブ	○								EN			
21	コバノイシカグマ	オオフジシダ	○								CR			
22		アイフジシダ	○								RH			
23	ホングウシダ	ホラシノブ	○								EN			
24	ミズワラビ	イヌイワガネソウ	○								RH			
25		ヤツガタケシノブ	○							NT	EN	指		
26	シシラン	シシラン	○								EN			
27		ナカミシシラン	○								EN			
28	イノモトソウ	アマクサシダ	○								EX			
29		オオバノハチジョウシダ	○								EN			
30		マツザカシダ	○								CR			
31		セフリイノモトソウ	○								RH			
32	チャセンシダ	ヤマドリトラノオ	○							CR	RH			
33		ヌリトラノオ	○								EN			
34		シモツケヌリトラノオ	○								CR			
35		トキワトラノオ	○								VU			
36		オクタマシダ	○							VU	EN			
37		クモノスシダ	○									指		
38		イチョウシダ	○	○							NT			
39		イヌチャセンシダ	○									EN		
40	アオチャセンシダ	○										指		
41	クモイワトラノオ	○									RH			
42	オシダ	オオカナワラビ	○								EN			
43		ナンタイシダ	○									指		
44		キヨスミヒメワラビ	○	○							VU			
45		ツクシヤブソテツ	○									EN		
46		オクヤマシダ	○									EN		
47		イワヘゴ	○	○								CR		
48		カラフトメンマ	○										指	
49		キノクニベニシダ	○									EN		
50		イワカゲワラビ	○								VU	VU		
51		エンシュウベニシダ	○									EN		
52		ハコネオオクジャク	○									RH		

表 8-4-2-9(2) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬	
53	オシダ	タカヤマナライシダ	○								RH			
54		センジョウデンダ	○					指		EN	CR	指		
55		チャボイノデ	○	○							VU			
56		イナデンダ	○							NT	EN	指		
57		タカネシダ	○							CR	EN	指		
58		ヒイラギデンダ	○							EN		指		
59		カタイノデ	○								EN			
60		ヤシャイノデ	○					特		EN	CR	指		
61		トヨグチイノデ	○									指		
62		フジイノデ	○								DD			
63		オニイノデ	○							VU	CR			
64		ヒメカナワラビ	○								EN			
65		ドウリョウイノデ	○								RH			
66		ハコネイノデ	○								RH			
67		ハタジュクイノデ	○								RH			
68		フナコシイノデ	○								RH			
69		カタイノデモドキ	○								RH			
70		ナメライノデ	○								RH			
71		オンガタイノデ	○								RH			
72		ツヤナシイノデモドキ	○								RH			
73		タカオイノデ	○								RH			
74		ゴテンバイノデ	○								RH			
75		ヒメシダ	ホシダ	○								CR		
76			ヨコグラヒメワラビ	○								CR		
77	ツクシヤワラシダ		○								EN			
78	メシダ	テバコワラビ	○							VU				
79		オクヤマワラビ	○									指		
80		ユノツルイヌワラビ	○								RH			
81		ヘビヤマイヌワラビ	○								RH			
82		タカオシケチシダ	○								CR			
83		ナヨシダ	○									指		
84		ムクゲシケシダ	○								EN			
85		ウスミヤマノコギリシダ	○								EN			
86		キタノミヤマシダ	○									指		
87		ヘラシダ	○								CR			
88		ノコギリシダ	○								DD			
89		ダンドシダ	○								RH			
90		ウサギシダ	○									指		
91		オオエビラシダ	○								RH			
92		トガクシデンダ	○									指		
93		ヒメデンダ	○								CR	指		
94		ウラボシ	ミヤマウラボシ	○									指	
95	クラガリシダ		○	○						EN	VU			
96	トヨグチウラボシ		○							EN	CR	指		
97	ウロコノキシノブ		○					特		CR	CR	指		
98	イナノキシノブ		○								RH			
99	クリハラン		○								CR			
100	アオネカズラ		○								CR			
101	イワオモダカ	○	○							VU				
102	ヒメウラボシ	キレハオオクボシダ	○							EN	EX			
103		ヤツシロヒトツバ	○								RH			
104		オオクボシダ	○	○							NT			
105	デンジソウ	デンジソウ	○							VU	EN			

表 8-4-2-9(3) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準												
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬				
106	サンショウモ	サンショウモ	○								VU	VU					
107	アカウキクサ	オオアカウキクサ	○								EN	EN					
108	マツ	イイダモミ	○									CR					
109		イラモミ	○									NT					
110		ヒメバラモミ	○	○								VU	VU				
111		ヒメマツハダ	○										VU				
112		ハイマツ	○												指		
113	ヒノキ	ミヤマビャクシン	○									VU		指			
114		ホンドミヤマネズ	○												指		
115	ヤナギ	タカネイワヤナギ	○											指			
116		コマイワヤナギ	○									VU	NT				
117	カバノキ	カワラハンノキ	○	○									VU				
118		サクラバハンノキ	○	○								NT	CR				
119		ジゾウカンバ	○										VU				
120	ブナ	アカガシ	○										CR				
121		ナラガシワ	○										VU				
122	ニレ	ムクノキ	○										EN				
123	イラクサ	トキホコリ		○								VU					
124		ヒメウワバミソウ	○	○									VU				
125		タチゲヒカゲミズ	○										VU	VU			
126		コケミズ	○											EN			
127	ヤドリギ	マツグミ	○	○										NT			
128	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ	○									VU	NT		指		
129	タデ	オンタデ	○												指		
130		イブキトラノオ	○													指	
131		ハルトラノオ	○												NT		
132		ムカゴトラノオ	○													指	
133		マルバギンギシ	○													指	
134		ウナギツカミ	○												DD		
135		ヒメタデ	○											VU			
136		ヤナギヌカボ	○											VU	EN		
137		サデクサ	○												CR		
138		ヌカボタデ	○											VU	DD		
139		タカネスイバ	○													指	
140		ノダイオウ	○											VU	NT		
141		ヤマゴボウ	マルミノヤマゴボウ	○											VU		
142		ナデシコ	タガソデソウ	○										VU	NT		
143	タカネミミナグサ		○											VU	EN		
144	ミヤマミミナグサ		○													指	
145	ミヤマナデシコ		○													指	
146	タカネナデシコ		○													指	
147	センジュガンピ		○													指	
148	エンビセンノウ		○												指		
149	タカネツメクサ		○													指	
150	ミヤマツメクサ		○													指	
151	ホソバツメクサ		○													指	
152	オオビランジ		○	○											NT	VU	指
153	タカネビランジ		○													VU	指
154	ビランジ		○													EN	指
155	タカネマンテマ		○												CR	CR	指
156	カンチヤチハコベ		○												CR	CR	指
157	シラオイハコベ		○														指
158	イワツメクサ	○														指	

表 8-4-2-9(4) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準								
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬
159	ナデシコ	エゾオオヤマハコベ	○								EN		
160		シコタンハコベ	○							VU	NT	指	
161	アカザ	ミドリアカザ	○							CR			
162		イワアカザ	○							CR			
163	モクレン	オオヤマレンゲ	○									指	
164	マツブサ	サネカズラ	○	○							VU		
165	クスノキ	カゴノキ	○								EX		
166		ヤブニッケイ	○								CR		
167		シロダモ	○								DD		
168		キンポウゲ	アカイシトリカブト	○									指
169	レイジンソウ		○									指	
170	オンタケブシ		○							CR	CR		
171	キタザワブシ		○							VU	VU		
172	アズマレイジンソウ		○									指	
173	ホソバトリカブト		○									指	
174	タカネトリカブト		○							VU	EN		
175	ミチノクフクジュソウ		○							NT	NT		
176	フクジュソウ		○	○							NT		
177	ヒメイチゲ		○									指	
178	ミスミソウ		○							NT	EN		
179	ハクサンイチゲ		○									指	
180	イチリンソウ		○									指	
181	アズマイチゲ		○									指	
182	サンリンソウ		○									指	
183	レンゲショウマ		○									指	
184	ミヤマオダマキ		○									指	
185	キタダケソウ		○			国内				VU		指	
186	エンコウソウ		○								EN		
187	ミヤマハンショウヅル		○									指	
188	カザグルマ		○					指		NT	EN		
189	オウレン		○								EN		
190	バイカオウレン		○									指	
191	ミツバオウレン		○									指	
192	サバノオ		○								CR		
193	チチブシロカネソウ		○								NT		
194	トウゴクサバノオ		○								EN		
195	オキナグサ	○					指		VU	EN			
196	ミヤマキンポウゲ	○									指		
197	キタダケキンポウゲ	○							EN		指		
198	クモマキンポウゲ	○							CR	DD			
199	ハイキツネノボタン	○								DD			
200	セツブンソウ	○							NT	VU	指		
201	ヒメカラマツ	○								VU	指		
202	マンセンカラマツ	○							EN				
203	ミヤマカラマツ	○									指		
204	イワカラマツ	○							VU	VU			
205	モミジカラマツ	○									指		
206	キンバイソウ	○									指		
207	シナノキンバイ	○									指		
208	メギ	ヘビノボラズ	○								EN		
209		オオバメギ	○								NT		
210		サンカヨウ	○									指	
211	スイレン	ジュンサイ	○								NT		



表 8-4-2-9(5) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準										
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑩	⑬		
212	マツモ	マツモ	○									EN			
213	ウマノスズクサ	マルバウマノスズクサ	○								VU	VU			
214		ウマノスズクサ	○									VU			
215		オオバウマノスズクサ	○										DD		
216		ヒメカンアオイ	○	○									NT		
217	ボタン	ヤマシャクヤク	○						指		NT	VU	指		
218		ベニバナヤマシャクヤク	○						指		VU	CR			
219		ヤマシャクヤクの一種		○					指		VUor NT	CRor VU			
220	ツバキ	ヒメシャラ	○									CR			
221	オトギリソウ	フジオトギリ	○									DD	指		
222		アカテンオトギリ	○									NT			
223		ウツクシオトギリ	○									CR	指		
224		シナノオトギリ	○											指	
225		アゼオトギリ	○								EN	CR			
226		タコアシオトギリ	○										DD		
227	ケシ	エゾエンゴサク	○									VU	指		
228		ジロボウエンゴサク	○									EX			
229		ツルキケマン	○								EN				
230		ナガミノツルキケマン	○	○								NT			
231		オサバグサ	○										指		
232	アブラナ	ヘラハタザオ	○								CR	CR			
233		ミヤマハタザオ	○										指		
234		イワハタザオ	○										指		
235		クモイナズナ	○								VU	EN	指		
236		ミツパコンロンソウ	○									CR			
237		ミヤマタネツケバナ	○											指	
238		ハナハタザオ	○								CR	EX			
239		キタダケナズナ	○								EN		指		
240		クモマナズナ	○	○							VU	NT	指	指	
241		シロウマナズナ	○								EN	EN	指		
242		ハクセンナズナ	○									VU	指		
243		ミチバタガラシ	○	○								DD			
244	マンサク	キリシマミズキ	○								NT	VU			
245		コウヤミズキ	○	○							○				
246	ベンケイソウ	アオベンケイ	○									EN			
247		ツメレンゲ	○	○								NT	NT		
248		イワベンケイ	○											指	
249		ミヤママンネングサ	○											指	
250		マルバマンネングサ	○										VU		
251			チチブベンケイ		○								CR		
252	ユキノシタ	ハナチダケサシ	○											指	
253		アラシグサ	○											指	
254		キバナハナネコノメ	○									NT	CR		
255		ハナネコノメ	○										VU	指	
256		ヒダボタン	○										DD		
257		タチネコノメソウ	○										VU		
258		マルバチャルメルソウ	○									VU	CR	指	
259		シラヒゲソウ	○							指			VU	指	
260		ウメバチソウ	○											指	
261		コウメバチソウ	○											指	
262		ヤワタソウ	○											指	
263		タコノアシ	○									NT	VU		

表 8-4-2-9(6) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬	
264	ユキノシタ	ヤシャビシヤク	○							NT	VU	指		
265		エゾスグリ	○								CR	指		
266		トガスグリ	○									指		
267		エチゼンダイモンジソウ	○							VU				
268		ムカゴユキノシタ	○								CR	指		
269		シコタンソウ	○									指		
270		ジンジソウ	○	○							NT	指		
271		ミヤマダイモンジソウ	○									指		
272		ダイモンジソウ	○									指		
273		ウチワダイモンジソウ	○									指		
274		クロクモソウ	○									指		
275		クモマグサ	○								EN			
276		バラ	チョウセンキンミズヒキ	○							VU	NT		
277			ハゴロモグサ	○							VU	VU	指	
278	チョウノスケソウ		○									指		
279	シモツケソウ		○									指		
280	アカバナシモツケ		○									指		
281	シロバナノヘビイチゴ		○									指		
282	ミヤマダイコンソウ		○									指		
283	チングルマ		○									指		
284	イワキンバイ		○									指		
285	キンロバイ		○							VU	EN	指		
286	ハクロバイ		○								EN	指		
287	ミヤマキンバイ		○									指		
288	ウラジロキンバイ		○							VU	VU	指		
289	ミネザクラ		○									指		
290	チシマザクラ		○									指		
291	アカツキザクラ		○								RH			
292	リンボク		○								EN			
293	カシオザクラ		○								CR			
294	チチブザクラ		○								RH			
295	エボシザクラ		○								RH			
296	ヤツガタケザクラ		○								RH			
297	ナルサワザクラ		○								RH			
298	ニッコウザクラ		○								RH			
299	タカネイバラ		○									指		
300	サナギイチゴ		○							VU				
301	キソキイチゴ		○								NT			
302	コガネイチゴ		○									指		
303	ハスノハイチゴ		○								NT	NT		
304	ミヤマモミジイチゴ		○								NT	NT		
305	コジキイチゴ		○								EN			
306	タテヤマキンバイ		○								NT	指		
307	イワシモツケ		○									指		
308	マメ	タイツリオウギ	○									指		
309		モメンヅル	○								NT			
310		リシリオウギ	○							VU	VU			
311		シロウマオウギ	○									指		
312		タヌキマメ	○					指			CR			
313		イワオウギ	○									指		
314		レンリソウ	○								NT			
315		イヌハギ	○							VU	NT			
316		オヤマノエンドウ	○									指		

表 8-4-2-9(7) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬	
317	マメ	ミヤマタニワタシ	○									NT		
318		ヤマフジ	○									EN		
319	カタバミ	オオヤマカタバミ	○								VU	NT		
320	フウロソウ	グンナイフウロ	○										指	
321		イヨフウロ	○								NT	CR	指	
322		アサマフウロ	○								NT	NT		
323		コフウロ	○									EN	指	
324		ハクサンフウロ	○										指	
325		ビッチュウフウロ	○									EN		
326		アマ	マツバニンジン	○								CR	DD	
327	トウダイグサ	ノウルシ	○								NT	EN		
328		ニシキソウ	○									VU		
329		ヒメナツトウダイ	○									EN		
330	ユズリハ	ユズリハ	○	○								NT		
331	ヒメハギ	ヒナノキンチャク	○								EN	CR		
332	カエデ	シバタカエデ	○								EN	EN		
333		ハナノキ	○						指		VU	VU		
334	ツリフネソウ	エンシュウツリフネソウ	○								EN	CR		
335	モチノキ	キソオニツルツゲ	○									RH		
336	ニシキギ	ムラサキマユミ	○									NT		
337	ミツバウツギ	ゴンズイ	○									CR		
338	ツゲ	ツゲ	○									EN		
339	クロウメモドキ	ミヤマクマヤナギ	○									NT		
340	ブドウ	アマヅル	○									EN		
341	ジンチョウゲ	チョウセンナニワズ	○								VU	VU		
342	スマレ	キバナノコマノツメ	○										指	
343		アカイシキバナノコマノツメ	○									EN		
344		ウスバスマレ	○										指	
345		ヒメミヤマスマレ	○									EN		
346		キクバワカミヤスマレ	○									RH		
347		ヒラツカスマレ	○									RH		
348		アソキクバスマレ	○									RH		
349		キクバヒナスミレ	○									RH		
350		フギレサクラスマレ	○									RH		
351		ワカミヤスマレ	○									RH		
352		フギレアカネスミレ	○									RH		
353		ウンゼンスミレ	○									RH		
354		アルガスマレ	○									RH		
355		コワシミズスマレ	○									RH		
356		ヤシュウスミレ	○									RH		
357		キタザワスマレ	○									RH		
358		ミハシスマレ	○									RH		
359		サクラマルバスマレ	○									RH		
360		アカネマルバスマレ	○									RH		
361		オノスマレ	○									RH		
362	キリガミネスミレ	○									RH			
363	コミヤマスマレ	○									CR			
364	ナギソスマレ	○									RH			
365	ナガバタチツボスマレ	○									DD			
366	カクマスマレ	○									RH			
367	アカネノジスマレ	○									RH			
368	フギレミヤマスマレ	○									RH			
369	ミヤマスマレ	○										指		

表 8-4-2-9(8) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬	
370	スミレ	シコクスミレ	○										指	
371		シナノスミレ	○									CR		
372		マルバヒナスミレ	○									RH		
373		オサカスミレ	○									RH		
374		フクザワスミレ	○									RH		
375		フィリヤシロスミレ	○									RH		
376		マキノヒナスミレ	○									RH		
377		ヒメスミレサイシン	○										指	
378		フィリシハイマキノスミレ	○									RH		
379		フィリシハイヒナスミレ	○									RH		
380		サクラヒカゲスミレ	○									RH		
381		スワタチツボスミレ	○									RH		
382		スワキクバスミレ	○									RH		
383		コマガタケスミレ	○									RH		
384		スルガキクバスミレ	○									RH		
385		キソスミレ	○									RH		
386		アスマスミレ	○									RH		
387		スワスミレ	○									RH		
388		ニオイエゾノタチツボスミレ	○									RH		
389		マルバタチツボ	○									RH		
390		フィリカツラギスミレ	○									RH		
391		オクハラスミレ	○									RH		
392		ミツモリスミレ	○									RH		
393		オクタマスミレ	○									RH		
394	フィリフギレシノイスミレ	○									RH			
395	カワギシスミレ	○									RH			
396	ウリ	カラスウリ	○								DD			
397	ミソハギ	ヒメキカシグサ	○							CR	CR			
398		ミズキカシグサ	○							VU	DD			
399		ミズマツバ	○	○							VU	VU		
400	ヒシ	ヒメビシ	○							VU	CR			
401	アカバナ	ヤナギラン	○									指		
402		アシボソアカバナ	○									EN		
403		ヒメアカバナ	○										指	
404		トダイアカバナ	○	○							VU	VU	指	
405		ミヤマアカバナ	○										指	
406		エゾアカバナ	○									CR		
407		シロウマアカバナ	○									NT		
408	アリノトウグサ	タチモ	○							NT	DD			
409		フサモ	○								NT			
410	スギナモ	スギナモ	○								EX			
411	ミズキ	ゴゼンタチバナ	○									指		
412	ウコギ	ミヤマウコギ	○								CR			
413	セリ	イワニンジン	○								CR	指		
414		オオハクサンサイコ	○										指	
415		ハクサンサイコ	○										指	
416		ミシマサイコ	○								VU			
417		ツボクサ	○									DD		
418		ミヤマゼンゴ	○										指	
419		ミヤマセンキュウ	○										指	
420		ホソバハナウド	○								CR	EN	指	
421		オオバチドメ	○									EN		
422		タカネイブキボウフウ	○										指	

表 8-4-2-9(9) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準										
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑩	⑬		
423	セリ	ミヤマニンジン	○									VU			
424		ハクサンボウフウ	○										指		
425		オオカサモチ	○										指		
426		ヤマナシウマノミツバ	○								EN	VU			
427		クロバナウマノミツバ	○									NT			
428		シラネニンジン	○										指		
429		イブキゼリ	○										指		
430		イワウメ	イワウメ	○										指	
431			ナンカイイワカガミ	○									CR		
432	ヒメイワカガミ		○										指		
433	ヤマイワカガミ		○										指		
434	イワカガミ		○										指		
435	オオイワカガミ		○										指		
436	イチヤクソウ	ウメガサソウ	○										指		
437		シヤクジョウソウ	○										指		
438		ギンリョウソウ	○										指		
439		コイチヤクソウ	○										指		
440		コバノイチヤクソウ	○										指		
441		ベニバナイチヤクソウ	○										指		
442		エゾイチヤクソウ	○								EN	DD			
443		マルパイイチヤクソウ	○										指		
444		ジンヨウイチヤクソウ	○										指		
445	ツツジ	コメバツガザクラ	○										指		
446		ウラシマツツジ	○										指		
447		イワヒゲ	○										指		
448		サラサドウダン	○							○			指		
449		ベニドウダン	○							○					
450		チチブドウダン	○										指		
451		コアブラツツジ	○										CR		
452		ハリガネカズラ	○										指		
453		シラタマノキ	○										指		
454		イワナンテン	○										指		
455		ミネズオウ	○										指		
456		ウスギヨウラク	○										指		
457		ウラジロヨウラク	○										指		
458		アオノツガザクラ	○										指		
459		オオツガザクラ	○										指		
460		ツガザクラ	○										指		
461		キバナシヤクナゲ	○										指		
462		ハクサンシヤクナゲ	○										指		
463		シロバナシヤクナゲ	○										指		
464		ネモトシヤクナゲ	○										指		
465		アズマシヤクナゲ	○							○			指		
466		キョウマルシヤクナゲ	○								VU	NT			
467		ミツバツツジ	○										指		
468		サツキ	○										指		
469		レンゲツツジ	○										指		
470		ヒカゲツツジ	○										指		
471		ダイセンミツバツツジ	○										NT		
472		アカヤシオ	○										NT		
473		シロヤシオ	○										EN	指	
474		オオヤマツツジ	○										DD		
475		コメツツジ	○										指		

表 8-4-2-9(10) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬	
476	ツツジ	トウゴクミツバツツジ	○										指	
477		ハンノウツツジ	○									RH		
478		ニッコウキバシヤクナゲ	○									RH		
479		ムサシミツバツツジ	○									RH		
480		ミヤコツツジ	○									RH		
481		ミヤマホツツジ	○										指	
482		ヒメツルコケモモ	○								VU	CR		
483		イワツツジ	○									CR		
484		クロマメノキ	○										指	
485		コケモモ	○							○			指	
486		ガンコウラン	ガンコウラン	○									指	
487	サクラソウ	ノジトラノオ	○							VU	VU			
488		クリンソウ	○									指		
489		オオサクラソウ	○									指		
490		ユキワリソウ	○								EN	指		
491		クモイコザクラ	○							VU	CR	指		
492		サクラソウ	○					指		NT	VU	指		
493		シナノコザクラ	○	○				特		NT	EN	指		
494		ツマトリソウ	○									指		
495		ハイノキ	クロミノニシゴリ	○							EN			
496	モクセイ	ヒトツバタゴ	○							VU	CR			
497	マチン	アイナエ	○								EX			
498	リンドウ	サンブクリンドウ	○							EN	CR	指		
499		トウヤクリンドウ	○									指		
500		ヒナリンドウ	○							CR	CR	指		
501		コヒナリンドウ	○							EN	CR	指		
502		キタダケリンドウ	○								CR			
503		オヤマリンドウ	○									指		
504		ミヤマリンドウ	○									指		
505		リンドウ	○									指		
506		コケリンドウ	○									EX		
507		オノエリンドウ	○								EN	NT	指	
508		チチブリンドウ	○								EN	CR	指	
509		アカイシリンドウ	○								EN	CR	指	
510		ヒメセンブリ	○								EN	CR	指	
511		ホソバツルリンドウ	○	○							VU		指	
512		イヌセンブリ	○								VU	EX	指	
513		ミヤマアケボノソウ	○										指	
514	テングノコヅチ	○								NT	NT			
515	ガガイモ	フナバラソウ	○							VU	VU			
516		スズサイコ	○	○							NT	NT		
517		コバノカモメヅル	○									EN		
518		シロバナカモメヅル	○									VU		
519	アカネ	ビンゴムグラ	○								CR			
520		ハナムグラ	○								VU	CR		
521		ヤツガタケムグラ	○								CR	VU		
522		フタバムグラ	○									CR		
523		ツルアリドオシ	○										指	
524	ハナシノブ	ミヤマハナシノブ	○							VU		指		
525	ムラサキ	サワリソウ	○								NT			
526		ミヤマムラサキ	○									指		
527		イヌムラサキ	○									CR		
528		ムラサキ	○								EN	CR		

表 8-4-2-9(11) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準										
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑩	⑬		
529	ムラサキ	エゾムラサキ	○								VU	指			
530		ルリソウ	○					指			EN				
531		ハイルリソウ	○							CR	DD				
532	クマツヅラ	コムラサキ	○	○							EN				
533		カリガネソウ	○								NT				
534	シソ	カイジンドウ	○							VU	NT	指			
535		タチキランソウ	○	○							NT	NT			
536		ミヤマクマバナ	○									NT			
537		フトボナギナタコウジュ	○									EN			
538		シモバシラ	○										指		
539		マネキグサ	○								NT	VU			
540		ヤマジオウ	○									EN			
541		キセワタ	○	○							VU	NT			
542		ミカエリソウ	○									CR			
543		ヤマジソ	○								NT	NT			
544		アキチョウジ	○									VU			
545		タカクマヒキオコシ	○									EN			
546		イヌヤマハッカ	○									EN			
547		ナツノタムラソウ	○									EX			
548		ダンドタムラソウ	○									VU			
549		キソキバナアキギリ	○									EN			
550		エゾタツナミソウ	○									EN			
551		イブキジャコウソウ	○										指		
552		ナス	アオホオズキ	○	○							VU	CR		
553			オオマルバノホロシ	○									VU		
554			ハダカホオズキ	○									VU		
555		ゴマノハグサ	サウトウガラシ	○	○							VU			
556			アブノメ	○									CR		
557			ヒメコゴメグサ	○										指	
558			シライワコゴメグサ	○									CR		
559			ツクシコゴメグサ	○								EN			
560			イナコゴメグサ	○								CR	CR		
561	シソクサ		○									CR			
562	キクモ		○									EN			
563	ウリクサ		○									VU			
564	タカネママコナ		○								VU	NT	指		
565	ツシマママコナ		○									NT			
566	スズメハコベ		○								VU	CR			
567	クチナシグサ		○	○								EN			
568	ミヤマシオガマ		○										指		
569	ヨツバシオガマ		○										指		
570	ハンカイシオガマ		○									CR			
571	セリバシオガマ		○										指		
572	トモエシオガマ		○										指		
573	タカネシオガマ		○										指		
574	エゾシオガマ		○										指		
575	キタダケトラノオ		○								VU	EN			
576	ミヤマクワガタ		○										指		
577	ゴマノハグサ		○								VU	EN			
578	イナサツキヒナノウスツボ		○									EN			
579	オオヒキヨモギ		○								VU	EX			
580	シナノヒメクワガタ		○										指		
581	ゲンバイヅル		○								VU	NT			

表 8-4-2-9(12) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬	
582	ゴマノハグサ	イヌノフグリ	○							VU	VU			
583		カワヂシャ	○	○						NT	NT			
584		クガイソウ	○										指	
585	キツネノマゴ	ハグロソウ	○	○							VU			
586		セイタカスズムシソウ	○								CR			
587	イワタバコ	イワタバコ	○										指	
588		イワギリソウ	○							VU				
589	ハマウツボ	ナンバンギセル	○								EX			
590		オオナンバンギセル	○								EN			
591		オニク	○								NT	指		
592		ヤマウツボ	○								EN			
593		ケヤマウツボ	○								EN			
594		ハマウツボ	○							VU	CR			
595		キヨスミウツボ	○								EN	指		
596		タヌキモ	ムシトリスミレ	○									指	
597	タヌキモ	タヌキモ	○							NT	CR			
598		ミミカキグサ	○								VU			
599		ホザキノミミカキグサ	○								EN			
600		コタヌキモ	○								CR			
601		ヒメタヌキモ	○							NT	VU			
602		イヌタヌキモ	○							NT	NT			
603		ムラサキミミカキグサ	○							NT	VU			
604		スイカズラ	ベニサノツクハネウツギ	○										指
605	リンネソウ		○										指	
606	スルガヒョウタンボク		○							EN	EN	指		
607	クロミノウグイスカグラ		○								VU	指		
608	チシマヒョウタンボク		○							VU	CR	指		
609	イボタヒョウタンボク		○									指		
610	コゴメヒョウタンボク		○							EN	NT	指		
611	ニッコウヒョウタンボク		○								EN			
612	アラゲヒョウタンボク		○									指		
613	オオヒョウタンボク		○									指		
614	ソクズ		○								EN			
615	ゴマギ		○								NT			
616	キバナウツギ		○								EN	指		
617	オミナエシ		キンレイカ	○									指	
618		ツルカノコソウ	○								EN			
619	キキョウ	フクシマシャジン	○									指		
620		ヒメシャジン	○									指		
621		ミヤマシャジン	○									指		
622		イワシャジン	○								CR			
623		ホウオウシャジン	○							EN		指		
624		シライワシャジン	○							VU	EN	指		
625		チシマギキョウ	○									指		
626		イワギキョウ	○									指		
627		ヤマホタルブクロ	○									指		
628		バアソブ	○							VU				
629		タニギキョウ	○									指		
630		キキョウ	○	○						VU	NT			
631		キク	ヌマダイコン	○								DD		
632			トダイハハコ	○							VU	NT	指	
633	エゾウサギギク		○									指		
634	ウサギギク		○									指		



表 8-4-2-9(13) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準								
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑩	⑬
635	キク	ハハコヨモギ	○							VU	EN	指	
636		キタダケヨモギ	○							EN	EX	指	
637		ミヤマオトコヨモギ	○									指	
638		タカネヨモギ	○									指	
639		チシマヨモギ	○									指	
640		タテヤマギク	○							NT		指	
641		カワラノギク	○							VU	CR		
642		サワシロギク	○								EN		
643		シオン	○							VU			
644		タカネコンギク	○								NT	指	
645		カニコウモリ	○									指	
646		ミヤマコウモリソウ	○							EN			
647		オクヤマコウモリ	○									指	
648		テバコモミジガサ	○								NT	指	
649		ヒメガンクビソウ	○								CR		
650		リュウノウイワインチン	○								RH		
651		ウラジロカガノアザミ	○								NT		
652		キソアザミ	○								NT		
653		ハリカガノアザミ	○								EN		
654		ミヤマホソエノアザミ	○								VU		
655		リュウノウアザミ	○								VU		
656		ヒダアザミ	○							VU	EN		
657		センジョウアザミ	○									指	
658		キセルアザミ	○								VU		
659		ワタムキアザミ	○							VU	VU		
660		イズハハコ	○							VU	EX		
661		イワインチン	○									指	
662		エゾムカシヨモギ	○									指	
663		ホソバムカシヨモギ	○							VU	CR		
664		アズマギク	○								NT		
665		フジバカマ	○							NT			
666		アキノハハコグサ	○	○						EN	NT		
667		ツツザキヤマジノギク	○	○				指	○		CR		
668		ヤマジノギク	○								CR		
669		ミヤマコウゾリナ	○									指	
670		スイラン	○								EN		
671		タカサゴソウ	○							VU	VU		
672		タカネニガナ	○									指	
673		クモマニガナ	○									指	
674		ミヤマイワニガナ	○								EN		
675		キクバヂシバリ	○									指	
676		カワラニガナ	○	○						NT	VU		
677		オオユウガギク	○								DD		
678		カントウヨメナ	○								VU		
679		ムラサキニガナ	○								VU		
680		ウスユキソウ	○									指	
681		タカネウスユキソウ	○									指	
682		カワラウスユキソウ	○	○						VU	EN	指	
683		マルバダケブキ	○									指	
684		オタカラコウ	○									指	
685		ハンカイソウ	○								EX		
686		カイタカラコウ	○									指	
687		オオモミジガサ	○									指	

表 8-4-2-9(14) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準								
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬
688	キク	ミヤマヨメナ	○								VU		
689		アカイシコウゾリナ	○									指	
690		タカネコウゾリナ	○									指	
691		オオニガナ	○								NT		
692		シュウブンソウ	○	○							NT		
693		コウシュウヒゴタイ	○									指	
694		ホクチアザミ	○								EN		
695		イナトウヒレン	○	○						VU	EN		
696		マルバミヤコアザミ	○								EN		
697		アサマヒゴタイ	○									指	
698		ヒメヒゴタイ	○							VU	VU		
699		ヤハズトウヒレン	○									指	
700		タカオヒゴタイ	○									指	
701		シラネヒゴタイ	○									指	
702		ミヤマヒゴタイ	○									指	
703		タカネヒゴタイ	○									指	
704		キクアザミ	○									指	
705		ホクチキクアザミ	○								RH		
706		コウリンカ	○							VU	NT	指	
707		タカネコウリンカ	○							NT	NT	指	
708		ミヤマアキノキリンソウ	○									指	
709		アオヤギバナ	○								CR		
710		ヤマボクチ	○								VU		
711		ミヤマタンポポ	○									指	
712	シロウマタンポポ	○									指		
713	ヒロハタンポポ	○								NT			
714	ウスギタンポポ	○								VU			
715	ヤツガタケタンポポ	○									指		
716	オナモミ	○							VU				
717	オモダカ	サジオモダカ	○							CR			
718		マルバオモダカ	○						VU	EX			
719		アギナシ	○						NT	EN			
720		ウリカワ	○	○						VU			
721	トチカガミ	スブタ	○						VU	EN			
722		ヤナギスブタ	○							NT			
723		クロモ	○							CR			
724		トチカガミ	○						NT	EX			
725		ミズオオバコ	○						VU	VU			
726		セキショウモ	○							EN			
727	ヒルムシロ	ホソバヒルムシロ	○						VU	EN			
728		コバノヒルムシロ	○						VU				
729		ササバモ		○						EN			
730		ホソバミズヒキモ	○	○						NT			
731		ヤナギモ	○	○						VU			
732		ヒロハノエビモ	○							VU			
733		イトモ	○	○					NT	VU			
734		アイノコイトモ	○	○						EN			
735	イバラモ	ホッサモ	○	○						CR			
736		イトトリゲモ	○						NT	CR			
737		イバラモ	○							CR			
738		トリゲモ	○						VU	CR			
739	ユリ	ミヤマラッキョウ	○								指		
740		シライトソウ	○					指		CR			

表 8-4-2-9(15) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬	
741	ユリ	ツバメオモト	○										指	
742		スズラン	○										指	
743		ミヤマクロユリ	○										指	
744		ヒメアマナ	○								EN	CR	指	
745		ショウジョウバカマ	○										指	
746		ゼンテイカ	○										指	
747		ユウスゲ	○										指	
748		イワギボウシ	○										指	
749		ヤマユリ	○	○					指				NT	指
750		ヒメユリ	○								EN			
751		ササユリ	○						指				NT	
752		コオニユリ	○											指
753		ホソバコオニユリ	○											指
754		クルマユリ	○											指
755		コヤブラン	○										DD	
756		チシマアマナ	○											指
757		クルマバツクバネソウ	○											指
758		サクライソウ	○								EN	CR		
759		ヒロハノユキザサ	○											指
760		オオバタケシマラン	○											指
761		イワショウブ	○											指
762		ヒメイワショウブ	○											指
763		ホトトギス	○										NT	
764		イワホトトギス	○										EN	
765		タマガワホトトギス	○											指
766		エンレイソウ	○											指
767		シロバナエンレイソウ	○											指
768		アマナ	○									EN		
769		ムラサキタカネアオヤギソウ	○											指
770		タカネアオヤギソウ	○											指
771		コバイケイソウ	○											指
772		ウラゲコバイケイ	○											指
773		ミカワバイケイソウ	○						指		VU	CR		
774	ミズアオイ	○								NT	CR			
775	アヤメ	○	○					指		NT	VU			
776	カキツバタ	○	○							NT	NT			
777	イグサ	○								NT	NT			
778	エゾイトイ	○								CR	CR			
779	タカネイ	○								NT	CR			
780	クモマスズメノヒエ	○								NT				
781	タカネスズメノヒエ	○											指	
782	オカスズメノヒエ	○									EN			
783	ミヤマスズメノヒエ	○									VU			
784	ホシクサ	○								VU	VU			
785	クロイヌノヒゲ	○								NT	NT			
786	ホシクサ	○	○								VU			
787	オオムラホシクサ	○								EN	VU			
788	クロホシクサ	○								VU	EX			
789	ゴマシオホシクサ	○								EN				
790	イネ	○											指	
791	○	○											指	
792	○	○											指	
793	○	○								NT	CR			

表 8-4-2-9(16) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準								
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬
794	イネ	セトガヤ	○								EN		
795		ミヤマハルガヤ	○							VU	EN	指	
796		ミギワトダシバ	○							VU	CR		
797		イワタケソウ	○								VU		
798		ヒロハノコヌカグサ	○								EN		
799		ヒゲノガリヤス	○									指	
800		オオヒゲガリヤス	○								VU		
801		ミヤマノガリヤス	○									指	
802		チシマガリヤス	○								CR		
803		ヒロハヌマガヤ	○								VU		
804		ヤマムギ	○								CR		
805		エゾムギ	○							CR			
806		タカネウシノケグサ	○								EN		
807		ヤマオオウシノケグサ	○							EN	CR		
808		ムツオレグサ	○								CR		
809		ミヤマドジョウツナギ	○									指	
810		ウキガヤ	○								EN		
811		ミヤマコウボウ	○									指	
812		ハイチゴザサ	○								CR		
813		アシカキ	○	○							NT		
814		アゼガヤ	○								CR		
815		トウササクサ	○								CR		
816		タツノヒゲ×ヒロハヌマガヤ	○								RH		
817		チャボチヂミザサ	○								DD		
818		ヒロハノハネガヤ	○	○							EN		
819		ミヤマアワガエリ	○									指	
820		アワガエリ	○								CR		
821		タカネタチイチゴツナギ	○							VU	EN		
822		キタダケイチゴツナギ	○							CR		指	
823		ハクサンイチゴツナギ	○									指	
824		チョウセンタチイチゴツナギ	○								EN		
825		ミヤマイチゴツナギ	○									指	
826		イトイチゴツナギ	○								EN		
827		タニイチゴツナギ	○							DD	EN		
828		ヒエガエリ	○								DD		
829	ハマヒエガエリ	○								DD			
830	ヌメリグサ	○								NT			
831	フォーリーガヤ	○							CR	EN			
832	ウシクサ	○								EN			
833	ミヤマカニツリ	○							VU	EN	指		
834	リシリカニツリ	○							VU	NT	指		
835	キタダケカニツリ	○							EN	CR	指		
836	サトイモ	ヒトツバテンナンショウ	○	○							VU		
837		ユモトナムシグサ	○									指	
838		ウラシマソウ	○					指			VU		
839	ザゼンソウ	○						○					
840	ウキクサ	ヒンジモ	○							VU	CR		
841	ミクリ	ミクリ	○							NT	VU		
842		ヤマトミクリ	○							NT			
843		タマミクリ	○							NT	VU		
844		ヒメミクリ	○								VU	EN	
845	カヤツリグサ	クロカワズスゲ	○								EN		
846		クロボスゲ	○								EN	指	

表 8-4-2-9(17) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準											
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬			
847	カヤツリグサ	エゾアゼスゲ	○											指		
848		タカネヤガミスゲ	○								NT	NT		指		
849		アワボスゲ	○									CR				
850		ヒメカワズスゲ	○											指		
851		ヤマオオイトスゲ	○									DD				
852		アゼナルコ	○	○								EN				
853		ヒナスゲ	○	○								VU				
854		イトキンスゲ	○											指		
855		サヤマスゲ	○								VU	EN				
856		ハタバスゲ	○								EN	EN				
857		センジョウスゲ	○								CR	CR		指		
858		タチスゲ	○									CR				
859		ノゲヌカスゲ	○									NT				
860		ダケスゲ	○								VU	EN				
861		マンシュウクロカワスゲ	○								EN	CR				
862		マメスゲ	○									VU				
863		キンスゲ	○											指		
864		カラフトイワスゲ	○								EN	CR		指		
865		ゴンゲンスゲ	○									NT				
866		ミヤマアシボソスゲ	○											指		
867		タカネナルコ	○								VU	CR		指		
868		イワスゲ	○											指		
869		クモシバスゲ	○											指		
870		イッポンスゲ	○									CR		指		
871		オノエスゲ	○								VU	EN		指		
872		エゾハリスゲ	○								EN	VU				
873		ヌイオスゲ	○								VU	DD		指		
874		クグガヤツリ	○	○								NT				
875		ヌマガヤツリ	○									EN				
876		ヒゲハリスゲ	○								NT	VU		指		
877		ヒメマツカサススキ	○								VU	EN				
878		コシンジュガヤ	○									VU				
879		ラン	イワチドリ	○					特		EN	CR				
880			マメヅタラン	○							NT	CR				
881			ムギラン	○							NT	CR				
882			エビネ	○							NT	CR				
883			キンセイラン	○							VU	CR				
884			ナツエビネ	○							VU	CR				
885			キノエビネ	○							CR	CR		指		
886			サルメンエビネ	○							VU	CR				
887			ホテイラン	○							EN	CR		指		
888			ギンラン	○	○							NT				
889			キンラン	○						特		VU	EN			
890			タカネアオチドリ	○									CR			
891			アオチドリ	○											指	
892			コアツモリソウ	○						指		NT	CR		指	
893			キバナノアツモリソウ	○						指		VU	EN		指	
894			クマガイソウ	○						特		VU	CR			
895			ホテイアツモリ	○				国内		特		CR	CR		指	
896			アツモリソウ	○				国内		特		VU	CR		指	
897			イチヨウラン	○									NT		指	
898			セッコク	○									CR			
899			コイチヨウラン	○											指	

表 8-4-2-9(18) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬	
900	ラン	エゾスズラン	○										指	
901		カキラン	○								NT			
902		トラキチラン	○							EN	CR		指	
903		アオキラン	○							CR	CR		指	
904		ツチアケビ	○								VU			
905		オキノヤガラ	○										指	
906		アケボノシュスラン	○								VU			
907		ベニシュスラン	○								CR			
908		ツリシュスラン	○								CR			
909		ヒメミヤマウズラ	○								NT		指	
910		ミヤマウズラ	○										指	
911		ノビネチドリ	○										指	
912		テガタチドリ	○										指	
913		ミヤマモジズリ	○										指	
914		サギソウ	○					指		NT	CR			
915		ミズトンボ	○							VU	NT			
916		ムカゴソウ	○							EN	EX			
917		コハクラン	○							CR	CR			
918		スズムシソウ	○								CR			
919		フタバラン	○										指	
920		ヒメフタバラン	○								NT			
921		アオフタバラン	○	○							VU			
922		ミヤマフタバラン	○								VU		指	
923		タカネフタバラン	○								EN		指	
924		ホザキイチヨウラン	○										指	
925		アリドオシラン	○										指	
926		ヒメムヨウラン	○							VU	VU		指	
927		サカネラン	○							VU	CR		指	
928		ムカゴサイシン	○							EN				
929		ヨウラクラン	○								EN			
930		ハクサンチドリ	○										指	
931		ヒナチドリ	○							VU	CR			
932		カモメラン	○							NT	EN		指	
933		オノエラン	○								EN			
934		ウチョウラン	○	○						VU	EN		指	
935		ニョホウチドリ	○							NT	EN		指	
936		コケイラン	○	○							VU		指	
937		ミズチドリ	○					指			VU			
938		シロウマチドリ	○							VU	EN		指	
939		ツレサギソウ	○								CR			
940		タカネサギソウ	○								VU		指	
941		オオバノトンボソウ	○	○							NT			
942		オオキソチドリ	○								EN			
943		ナガバキソチドリ	○								EN			
944		キソチドリ	○										指	
945		ミヤマチドリ	○								EN		指	
946		ホソバノキソチドリ	○										指	
947		コバノトンボソウ	○								NT			
948		トキソウ	○					指		NT	VU			
949		ヤマトキソウ	○								EN			
950		ベニカヤラン	○								CR			
951		モミラン	○					指		VU	CR			
952		カヤラン	○	○				指			CR			

表 8-4-2-9(19) 植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑪	⑬	
953	ラン	クモラン	○									CR		
954		ヒロハトソウ	○							VU	EN			
955		ヤクシマヒメアリドオシラン	○	○					指		NT	EN		
956		キバナノショウキラン	○								EN			
957		シナノショウキラン	○								EN	EN		
958		ショウキラン	○									VU		
計	115 科	958 種	954 種	72 種	0 種	3 種	0 種	35 種	7 種	270 種	635 種	407 種	0 種	

注 1. 分類、配列等は「植物目録 1987」（昭和 62 年、環境庁）に準拠した。

注 2. 植物に係る重要な種の選定基準は以下のとおりである。

① 「文化財保護法」（昭和 25 年、法律第 214 号）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年、法律第 75 号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

④ 「長野県文化財保護条例」（昭和 50 年、長野県条例第 44 号）

県天：県指定天然記念物

⑤ 「長野県希少野生動植物保護条例」（平成 15 年、長野県条例第 32 号）

指：指定希少野生動植物、特：特別指定希少野生動植物

⑦ 「文化財保護条例」（大鹿村昭和 47 年条例第 21 号、豊丘村昭和 49 年条例第 17 号、

喬木村昭和 45 年条例第 19 号、高森町昭和 44 年条例第 25 号、飯田市昭和 41 年条例第 33 号、

阿智村昭和 42 年条例第 11 号、南木曾町昭和 51 年条例第 12 号）

○：市町村指定天然記念物

⑧ 「環境省第 4 次レッドリスト植物 I（維管束植物）及び植物 II（維管束植物以外）」（平成 24 年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨ 「長野県レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～維管束植物編」（平成 14 年、長野県）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN+VU：絶滅危惧、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、RH：希少雑種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑩ 「国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑－関東・中部（山岳）編－」（昭和 57 年、環境庁）

指：指定植物

⑬ 専門家の助言により選定した種

○：選定した種

注 3. 同定のポイントとなる花が確認できなかった為にヤマジャクヤクの一つとした。ベニバナヤマジャクヤク、ヤマジャクヤクのどちらかに該当する。

また、現地調査で確認された重要な種の確認地点を表 8-4-2-10 に示す。

表 8-4-2-10(1) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生育環境	確認位置		
			変更の 可能性の ある範囲	変更の 可能性の ある範囲 の近傍	相当 離れた 地域
1	スギラン	山林中の樹上、岩上			○
2	オオハナワラビ	山地林中のやや湿ったところ	○		○
3	イチョウシダ	石灰岩地で林中、やや裸出した岩陰			○
4	キヨスミヒメワラビ	山中で陰湿な林下			○
5	イワヘゴ	山地の溪側等の陰地林床		○	
6	チャボイノデ	山地の林床			○
7	クラガリシダ	深山の原生林中の樹幹		○	○
8	イワオモダカ	深山の林中で岩上、樹幹	○	○	○
9	オオクボシダ	山地の樹幹、岩上			○
10	ヒメバラモミ	亜高山帯林地			○
11	カワラハンノキ	丘陵の日当たりのよい河原、川岸		○	○
12	サクラバハンノキ	湿地			○
13	トキホコリ	山野の湿ったところ	○		
14	ヒメウワバミソウ	山地の陰湿地		○	
15	マツグミ	マツ、モミ等の針葉樹に寄生		○	○
16	オオビランジ	山地の崖		○	○
17	サネカズラ	山野の林縁	○	○	
18	フクジュソウ	落葉樹林下			○
19	ヒメカンアオイ	山地の林内			○
20	ヤマシャクヤクの一種	落葉広葉樹林下			○
21	ナガミノツルキケマン	山中の半日陰地	○		○
22	クモマナズナ	高山の岩上			○
23	ミチバタガラシ	日当たりの悪い庭のすみ、道端		○	
24	コウヤミズキ	山地の岩地			○
25	ツメレンゲ	岩上、屋根の上等	○	○	○
26	チチブベンケイ	亜高山帯の石灰岩地			○
27	ジンジソウ	山地の岩壁		○	○
28	ユズリハ	広葉樹林内			○
29	ミズマツバ	水田、湿地	○		○
30	トダイアカバナ	深山	○	○	○
31	シナノコザクラ	石灰岩の岩場		○	○
32	ホソバツルリンドウ	山地			○
33	スズサイコ	日当たりのよい草地			○
34	コムラサキ	山麓の湿地、湿った原野		○	○
35	タチキランソウ	山地	○	○	○
36	キセウタ	草原		○	
37	アオホオズキ	やや湿り気のある山地の木陰			○
38	サワトウガラシ	湿地	○		○
39	クチナシグサ	草地、乾いた林内		○	
40	カワヂシャ	田のあぜ、川岸、溝のふち等		○	○
41	ハグロソウ	山地の木陰			○
42	キキョウ	草地			○
43	アキノハハコグサ	やや乾いた山地		○	○
44	ツツザキヤマジノギク	天竜川流域の河原等			○
45	カワラニガナ	河原の礫地、砂地	○	○	○



表 8-4-2-10(2) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生育環境	確認位置		
			改変の 可能性の ある範囲	改変の 可能性の ある範囲 の近傍	相当 離れた 地域
46	カワラウスユキソウ	石灰岩の岩壁、岩礫斜面及び河原	○	○	○
47	シュウブソウ	山林	○	○	○
48	イナトウヒレン	蛇紋岩地			○
49	ウリカワ	水田	○	○	○
50	ササバモ	湖沼、河川及び水路等		○	○
51	ホソバミズヒキモ	ため池、水路等			○
52	ヤナギモ	河川、水路及び稀にため池等		○	○
53	イトモ	湖沼、ため池及び水路等			○
54	アイノコイトモ	河川、水路、稀に湖沼及びため池	○	○	○
55	ホッソモ	貧栄養のため池、山間の水田			○
56	ヤマユリ	山地、丘陵	○	○	○
57	ヒメシャガ	山地の岩石地	○	○	○
58	カキツバタ	水湿地	○		
59	ホシクサ	水田、湿地	○	○	○
60	アシカキ	水湿地			○
61	ヒロハノハネガヤ	山地の草原、林中			○
62	ヒトツバテンナンショウ	暗い林縁、林床			○
63	アゼナルコ	川岸や田のあぜ等の湿地	○		
64	ヒナスゲ	海岸、湖沼等の砂質の湿地	○		
65	クグガヤツリ	低地の路傍			○
66	ギンラン	林内		○	○
67	アオフタバラン	スギ林等			○
68	ウチョウラン	山地の湿った岩壁、人家の屋根		○	○
69	コケイラン	山地のやや湿った林内	○	○	○
70	オオバノトンボソウ	雑木林		○	○
71	カヤラン	樹幹			○
72	ヤクシマヒメアリドオシラン	常緑樹林内			○

## イ. 植物に係る植生

### 7) 植物に係る植生の状況

現地調査において、合計 43 の植物に係る群落及び土地利用が確認された。現地調査の結果概要を、表 8-4-2-11 及び図 8-4-2-2 に示す。

表 8-4-2-11 (1) 植物に係る群落及び土地利用の概要

No.	群落名	概要
1	イヌブナ群落	ブナクラス域における山地帯の尾根部等に成立する落葉広葉樹の自然林。 高さ 18m 程度、高木層はイヌブナが優占し、亜高木層はイヌブナ、ツガが多い。 調査地域では、大鹿村の標高 1,100m 以上の尾根上に分布していた。
2	イヌシデー アカシデ群落	ブナクラス域における山地帯に成立する落葉広葉樹の自然林。 高さ 16m 程度、高木層はイヌシデが優占し、トチノキ、ケヤキ等が混生していた。 調査地域では、大鹿村の標高 1,000m 以上の山地斜面に分布していた。
3	コカンスゲー ツガ群集	ブナクラス域における山地帯の尾根部等に成立する落葉広葉樹の自然林。 高さ 14m から 25m 程度、高木層はツガが優占し、下層がほとんどない林分と、スズタケが密生する林分が見られた。 調査地域では、大鹿村、飯田市、阿智村、南木曾町の標高 1,000m 付近の尾根筋に小面積で分布していた。
4	ヒノキ群落	ブナクラス域における山地帯に成立する常緑針葉樹の自然林。 高さ 23m 程度、高木層はヒノキ、モミが優占し、アスナロ、ホオノキが混生する。低木層はスズタケが密生していた。 調査地域では、南木曾町の標高 600m 以上の山地に分布していた。
5	ヒメコマツ群落	ブナクラス域における尾根部等の岩角地に成立する常緑針葉樹の自然林。 高さ 18m 程度、高木層はヒメコマツが優占し、コナラ、ツガが混生していた。 調査地域では、豊丘村の標高 800m から 1,000m 付近の尾根上に分布していた。
6	ミヤマクマワラビー シオジ群集	ブナクラス域における山地溪畔に成立する落葉広葉樹の溪畔林。 高さ 22m 程度、高木層はトチノキが優占し、サワグルミ、カツラが混生していた。 調査地域では、大鹿村の標高 1,000m 以上の谷沿いの斜面等に分布していた。
7	サクラバハンノキ群 落 (I V)	ブナクラス域における山地帯の湿地に成立する落葉広葉樹の沼沢林。 高さ 17m 程度、高木層はサクラバハンノキが優占し、下層の植物は疎であった。 調査地域では、豊丘村の標高 900m 付近の山間の湿地に小面積で分布していた。
8	ヤナギ低木群落 (I V)	ブナクラス域における低地帯から山地帯の河辺に成立する落葉広葉樹の河辺林。 高さ 7m から 8m 程度、低木層はヤマネコヤナギが優占し、ケヤマハンノキ、ヌルデ等が混生していた。 調査地域では、番木村、高森町を除く各地で、河川沿いに分布していた。
9	オニグルミ群落 (I V)	ブナクラス域における低地帯から山地帯の河辺に成立する落葉広葉樹の河辺林。 高さ 12m 程度、高木層はオニグルミが優占し、キハダ、ケヤキが混生していた。 調査地域では、大鹿村、豊丘村、南木曾町の河川沿い、山地斜面に分布していた。

表 8-4-2-11(2) 植物に係る群落及び土地利用の概要

No.	群落名	概要
10	ケヤマハンノキ群落	ブナクラス域における低地帯から山地帯の河辺に成立する落葉広葉樹の河辺林。 高さ 12m から 14m 程度、高木層、亜高木層ともにケヤマハンノキが優占していた。 調査地域では、大鹿村、豊丘村、飯田市の谷沿いに小面積で分布していた。
11	コナラ群落 (V)	ブナクラス域における低地帯から山地帯に成立する落葉広葉樹の二次林。 高さ 15m から 18m 程度、高木層はコナラが優占し、アベマキ、ミズナラ等が混生していた。草本層がほとんどない林分と、ササに被われる林分が見られた。 調査地域では、高森町を除く各地で見られ、豊丘村、飯田市で広く分布していた。
12	ミズナラ群落 (V)	ブナクラス域における低地帯から山地帯に成立する落葉広葉樹の二次林。 高さ 14m から 18m 程度、高木層はミズナラが優占し、コナラ、カシワなどが混生していた。 調査地域では、大鹿村、阿智村の標高 800m 以上の山地に見られ、阿智村では広く分布していた。
13	ケヤキ二次林	ブナクラス域における低地帯から山地帯に成立する落葉広葉樹の二次林。 高さ 18m 程度、高木層はケヤキが優占し、イタヤカエデ、エゾエノキが混生していた。 調査地域では、大鹿村の標高 800m 以上の山地斜面に分布していた。
14	アカマツ群落 (V)	ブナクラス域における低地帯から山地帯に成立する常緑針葉樹の二次林。 高さ 12 m から 20m 程度、高木層はアカマツが優占し、まれにコナラが混生していた。 調査地域では、喬木村、高森町を除く各地で見られ、豊丘村の一部では広く分布していた。
15	フサフジウツギ群落 (外来種低木群落)	ブナクラス域における低地帯から山地帯に成立する落葉広葉樹の低木群落。 高さ 4m 程度、低木層はフサフジウツギが優占し、タラノキ、ウツギが混生していた。 調査地域では、大鹿村の河川沿い等に小面積で分布していた。
16	クズ群落 (V)	耕作放棄地及び荒地に成立するつる植物の草本群落。 高さ 1m 程度、クズが優占し、セイタカアワダチソウ、ヨモギが混生していた。 調査地域では、大鹿村、阿智村を除く各地の河川沿い、荒地に小面積で分布していた。
17	クマイザサ群落	ブナクラス域における山地帯に成立する二次草原。 高さ 2m 程度、クマイザサが優占し、ススキ、ワラビ、ノイバラ等が混生していた。 調査地域では、南木曾町の送電線路線下に小面積で分布していた。
18	ススキ群落	ブナクラス域における低地帯から山地帯に成立する二次草原。 高さ 2m 程度、ススキが優占し、オギ、メマツヨイグサ、セイタカアワダチソウ等が混生していた。 調査地域では、高森町を除く各地に分布していた。
19	チガヤ群落 (V)	低茎草地に成立する草本群落。 高さ 0.3m 程度、チガヤが優占し、シロツメクサ、エゾノギシギシ、コハコベ等が混生していた。 調査地域では、豊丘村、喬木村、高森町、飯田市の天竜川の堤防法面に分布していた。

表 8-4-2-11 (3) 植物に係る群落及び土地利用の概要

No.	群落名	概要
20	伐採跡地群落 (V)	ブナクラス域における低地帯から山地帯に成立する伐採跡地群落。 高さ2mから7m程度、低木層はリョウブ、ヌルデが優占し、イヌシデ、ソヨゴ、バイカツツジ、シロモジ等が混生していた。 調査地域では、大鹿村、高森町を除く各地に分布していた。
21	セイタカ アワダチソウ (外来種二次草原)	耕作放棄地及び荒地に成立する草本群落。 高さ1.5m程度、セイタカアワダチソウが優占し、ヨモギ、アキノエノコログサ、メヒシバ等が混生していた。 調査地域では、喬木村、飯田市の荒地に小面積で分布していた。
22	ヒメガマ群落	池沼に成立する草本群落。 高さ1.5m程度、ヒメガマが優占し、ツルヨシが混生していた。 調査地域では、飯田市のため池に小面積で分布していた。
23	ツルヨシ群集	河川沿いに成立する草本群落。 高さ1mから2m程度、ツルヨシが優占し、カラハナソウ、クサソテツ等が混生していた。 調査地域では、大鹿村、豊丘村、喬木村、南木曾町の河川沿いに分布していた。
24	オギ群集	主に河川沿いに成立する草本群落。 高さ2mから3m程度、オギが優占し、セイタカアワダチソウ、ヘクソカズラ、カキドオシ等が混生していた。 調査地域では、阿智村を除く各地の河川沿いに分布していた。
25	カワラヨモギ 群落	河川の礫原に成立する草本群落。 高さ1m程度、カワラヨモギが優占し、オオキンケイギク、シナダレスズメガヤ、カラメドハギなどが混生していた。 調査地域では、豊丘村、喬木村、高森町、飯田市の天竜川の礫原に分布していた。
26	ヨモギーメドハギ 群落	河川沿いに成立する草本群落。 高さ0.5mから1.5m程度、メドハギが優占し、ヒメムカシヨモギ、ヒメジョオン、ヨモギ等が混生していた。 調査地域では、大鹿村、豊丘村、飯田市の河川沿い、荒地に小面積で分布していた。
27	オオイヌタデ群落	河川の礫原に成立する草本群落。 高さ1.2m程度、オオイヌタデが優占し、アキノエノコログサ、コセンダングサ、オオブタクサ等が混生していた。 調査地域では、豊丘村、喬木村の天竜川の礫原に分布していた。
28	イーミゾソバ群落	湿地に成立する草本群落。 高さ0.8m程度、イが優占し、ミゾソバ、コブナグサ、セリ等が混生していた。 調査地域では、大鹿村に小面積で分布していた。
29	岩壁植生	石灰岩の崖地に成立する岩壁植生。 高さ0.5m程度、イワデンダ、スゲ属の一種が優占し、ヒカゲツツジ、オオビランジ、クモマナズナ等が混生していた。 調査地域では、大鹿村の河川沿いの岸壁にごく小面積で分布していた。 小面積の為、植生図には図示していない。
30	スギ・ヒノキ・ サワラ植林	植栽された常緑針葉樹林。 高さ14mから22m程度、高木層は植栽されたスギ、ヒノキが優占していた。 調査地域では、全域の低地から山地に見られ、豊丘村、南木曾町では広く分布していた。
31	カラマツ植林	植栽された落葉針葉樹林。 高さ18mから30m程度、植栽されたカラマツが優占し、ホオノキ、アカマツ等が混生していた。 調査地域では、大鹿村、豊丘村、阿智村、南木曾町の山地に分布していた。

表 8-4-2-11(4) 植物に係る群落及び土地利用の概要

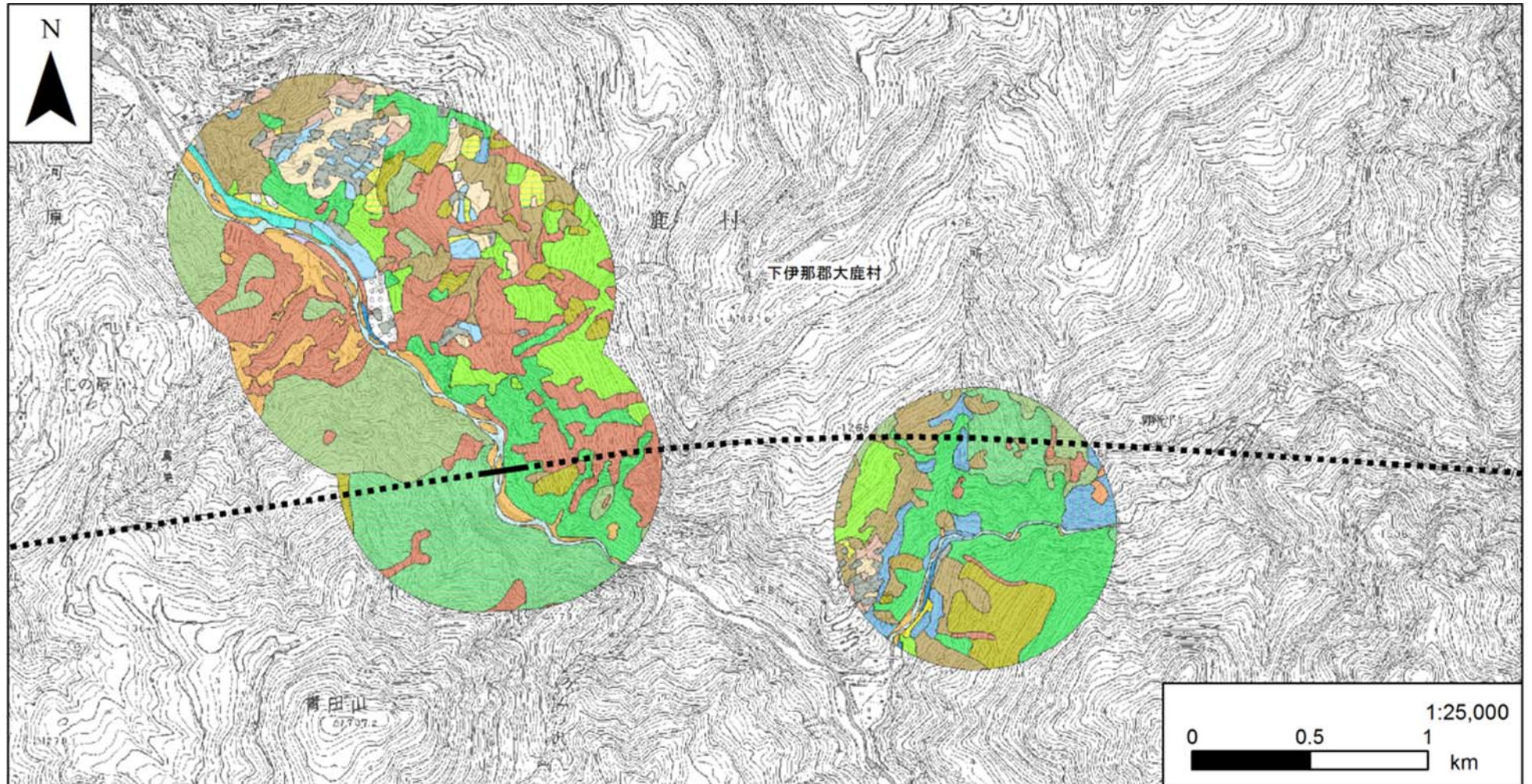
No.	群落名	概要
32	ニセアカシア（ハリエンジュ）群落	河川沿いに成立する外来種の落葉広葉樹林。 高さ 18m 程度、高木層はニセアカシア（ハリエンジュ）が優占し、オニグルミ、コゴメヤナギなどが混生していた。草本層は非常に豊富であった。 調査地域では、大鹿村、豊丘村、喬木村、飯田市の谷沿いの斜面等に小面積で分布していた。
33	キダチコマツナギ群落	植栽された落葉広葉樹の低木群落。 高さ 3m 程度、低木層は植栽されたキダチコマツナギが優占していた。 調査地域では、飯田市の法面に小面積で分布していた。
34	竹林	植栽された竹林。 高さ 7～9m 程度、高木層はモウソウチクが優占していた。 調査地域では、全域の人家周辺の低地から山地に分布していた。
35	ゴルフ場・芝地	ゴルフ場又は芝地である。
36	果樹園	果樹を植栽した落葉広葉樹林。 高さ 5m 程度、低木層にリンゴが優占し、草本層にスベリヒユ、エノキグサ、イヌガラシ、ハキダメギク等を確認した。 調査地域では、阿智村を除く各地の人家周辺で見られ、豊丘村、飯田市の一部では広く分布していた。
37	畑雑草群落	畑地に成立する雑草群落。 高さ 0.6m から 1m 程度、ワラビ、ヨモギ、チカラシバ、メヒシバ等が優占し、ムラサキツメクサ、キンエノコロ、スギナ等が混生していた。 調査地域では、全域の人家周辺に広く分布していた。
38	水田雑草群落	水田に成立する雑草群落。 高さ 0.1m から 1.4m 程度、ミゾソバ、アゼナ、ヒナガヤツリ等が優占し、チョウジタデ、トキンソウ、オモダカ、コナギ等が混生していた。 調査地域では、全域の人家周辺に見られ、天竜川周辺の低地に広く分布していた。
39	市街地	市街地である。
40	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	残存又は植栽樹群をもった公園、墓地等である。
41	造成地	造成された土地である。
42	開放水域	河川、池等で植生が成立していない水域である。
43	自然裸地	河原の砂礫地、急斜面地の崩壊地である。

注 1. 群落名は「自然環境保全基礎調査（環境省）・統一凡例」に準拠した。

凡例

 1 イヌブナ群落	 22 ヒメガマ群落
 2 イヌシデアカシデ群落	 23 ツルヨシ群集
 3 コカンスゲーツガ群集	 24 オギ群集
 4 ヒノキ群落	 25 カワラヨモギ群落
 5 ヒメコマツ群落	 26 ヨモギーメドハギ群落
 6 ミヤマクマワラビーシオジ群集	 27 オオイヌタデ群落
 7 サクラバハノキ群落(IV)	 28 イーミソバ群落
 8 ヤナギ低木群落(IV)	 29 スギ・ヒノキ・サワラ植林
 9 オニグルミ群落(IV)	 30 カラマツ植林
 10 ケヤマハノキ群落	 31 ニセアカシア(ハリエンジュ)群落
 11 コナラ群落(V)	 32 キダチコマツナギ群落
 12 ミズナラ群落(V)	 33 竹林
 13 ケヤキ二次林	 34 ゴルフ場・芝地
 14 アカマツ群落(V)	 35 果樹園
 15 フサフジウツギ群落(外来種低木群落)	 36 畑雑草群落
 16 クズ群落(V)	 37 水田雑草群落
 17 クマイザサ群落	 38 市街地
 18 ススキ群落	 39 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
 19 チガヤ群落(V)	 40 造成地
 20 伐採跡地群落(V)	 41 開放水域
 21 セイタカアワダチソウ(外来種二次草原)	 42 自然裸地

8-4-2-39

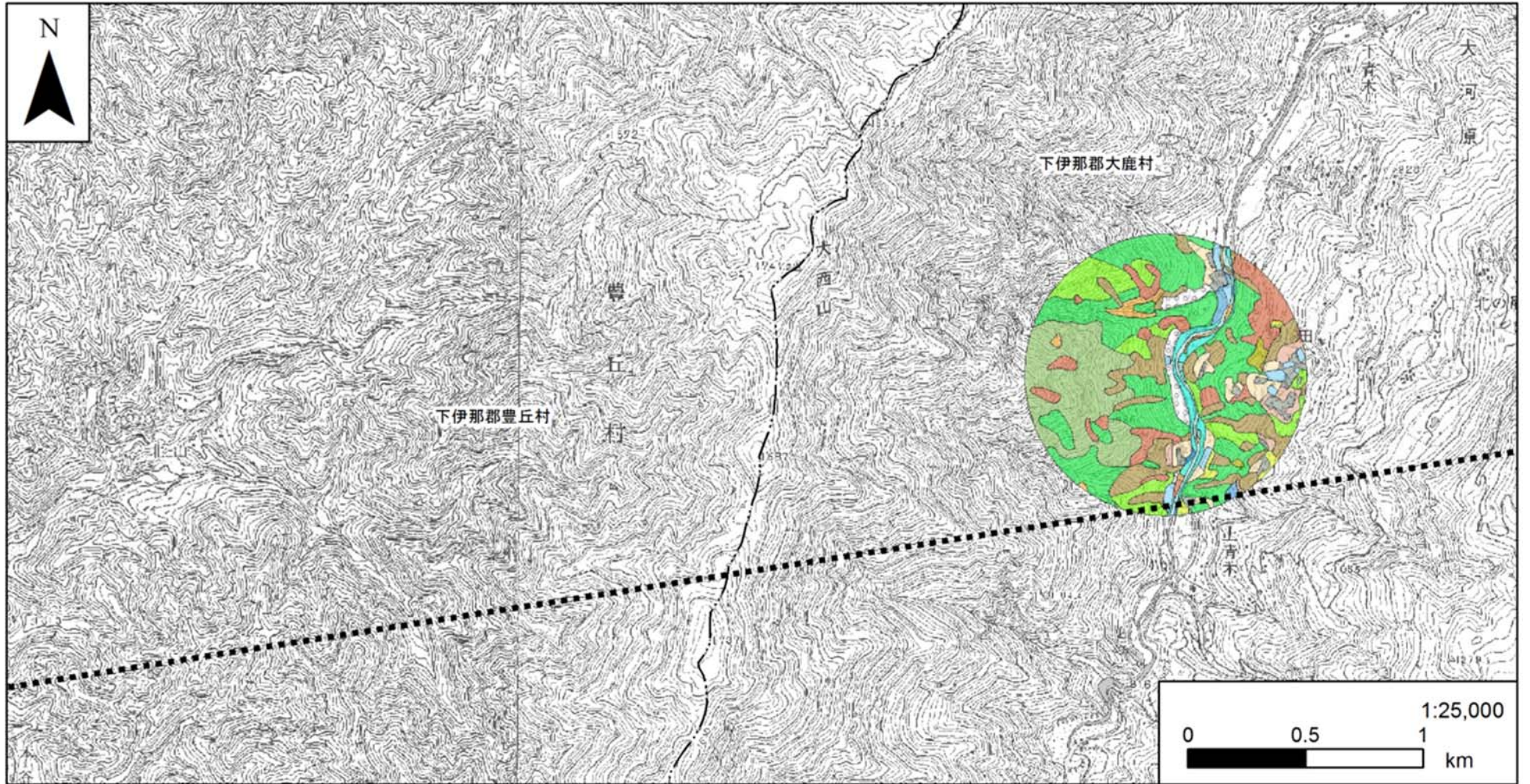


凡例

- 計画路線(地上部)
- ..... 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市町村境

図 8-4-2-2(1) 現存植生図

8-4-2-40

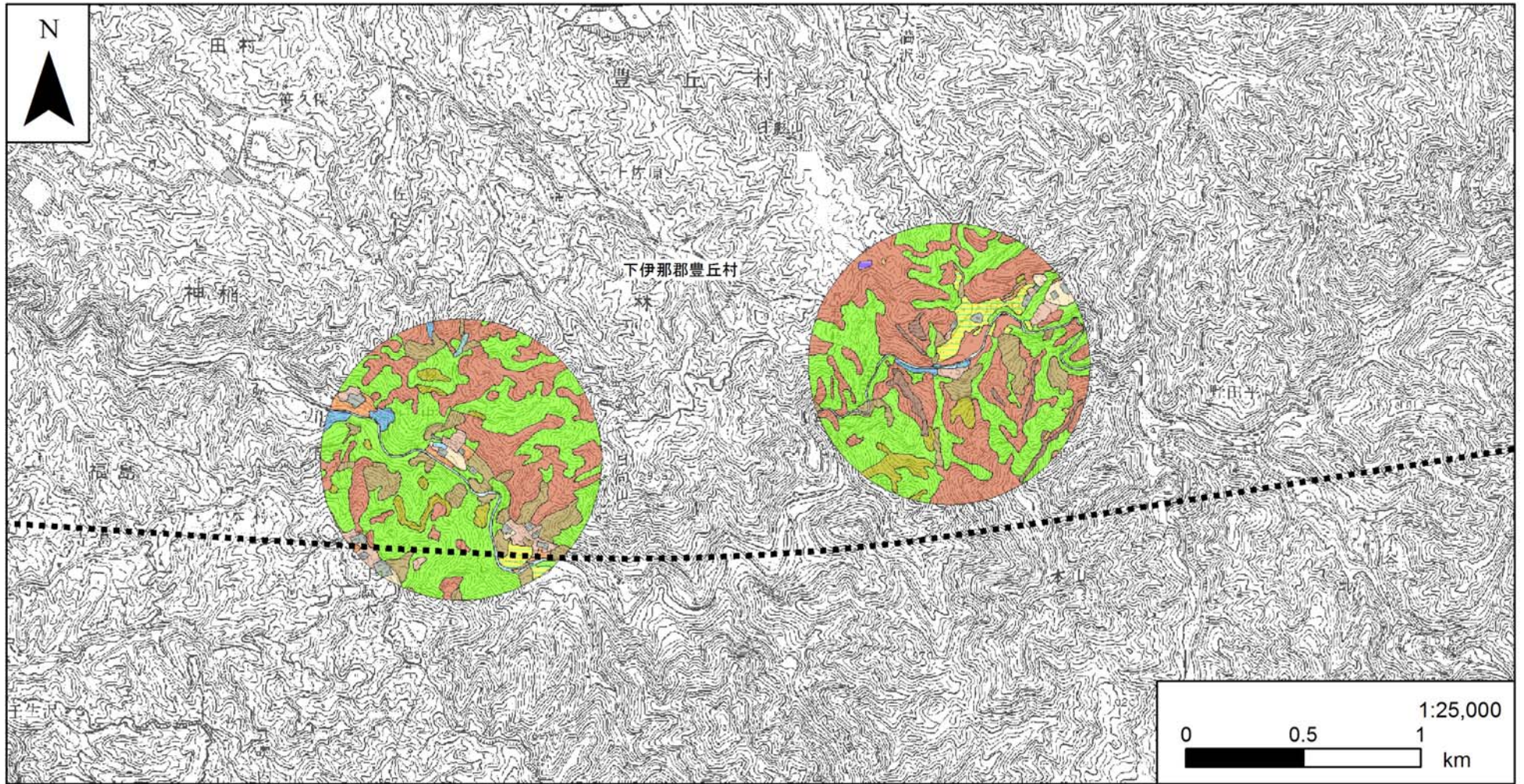


凡例

- 計画路線(地上部)
- ..... 計画路線(トンネル部)
- - - 県境
- 市町村境

図 8-4-2-2(2) 現存植生図

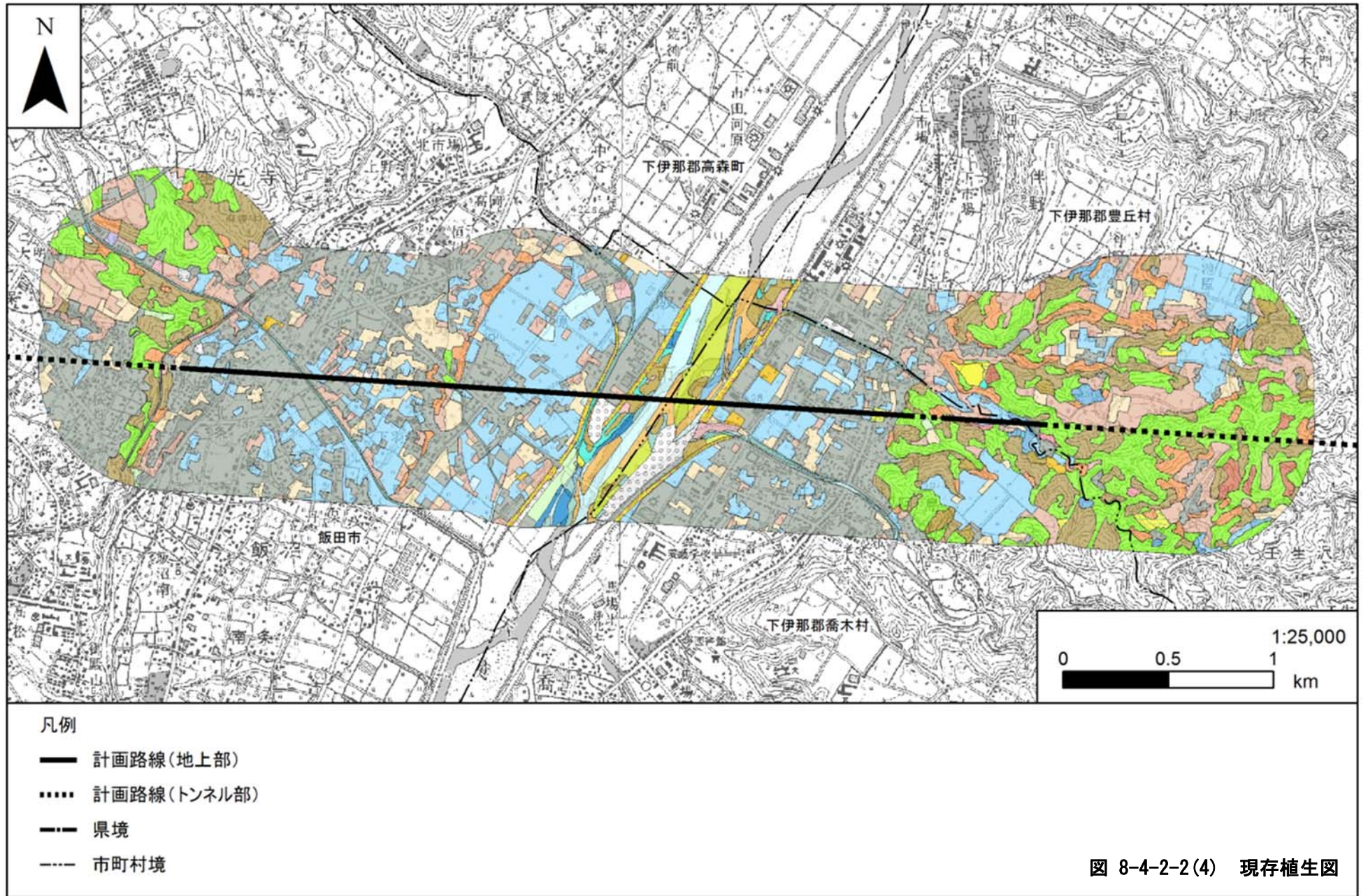


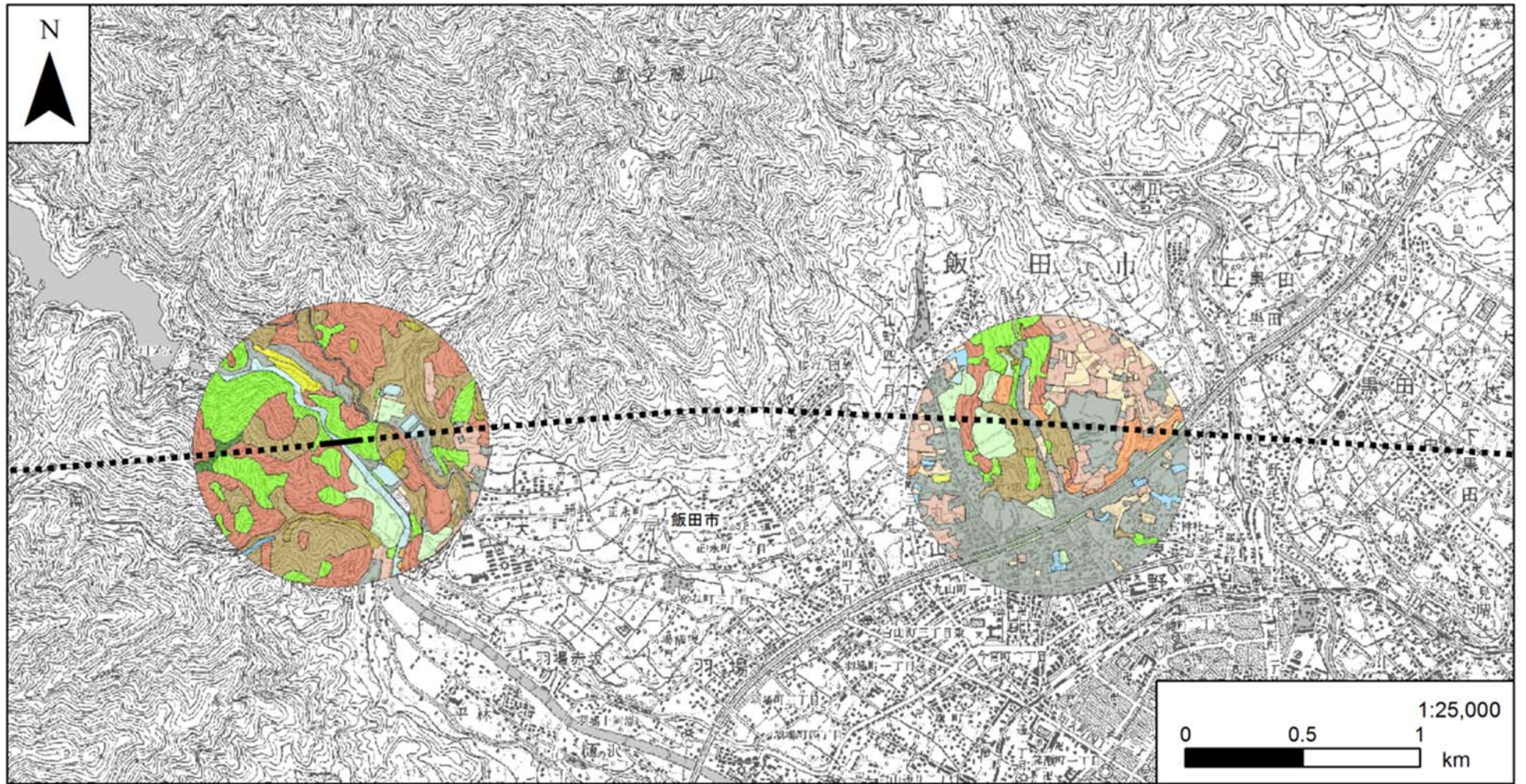


凡例

- 計画路線(地上部)
- ..... 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市町村境

図 8-4-2-2(3) 現存植生図

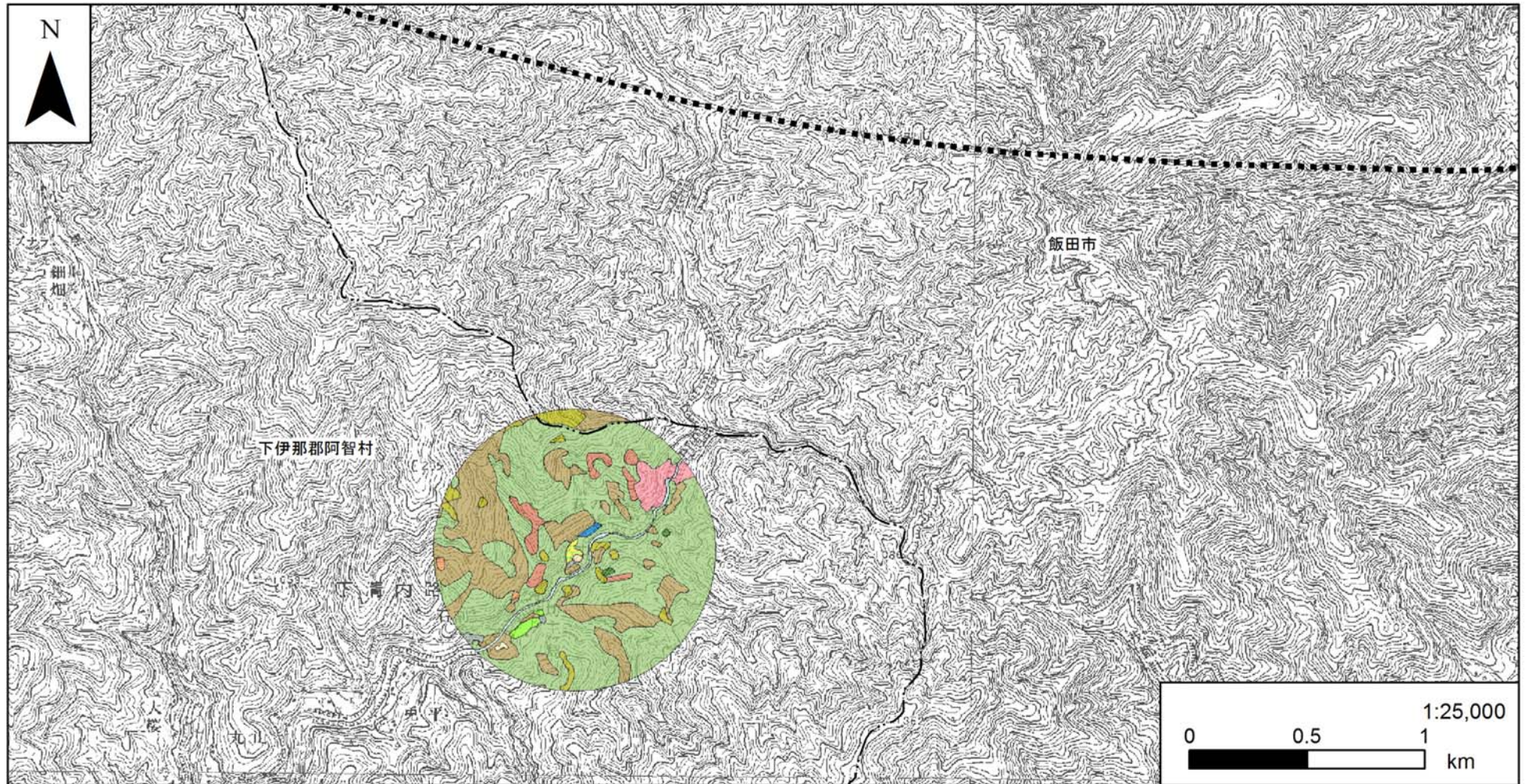




凡例

- 計画路線(地上部)
- ..... 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市町村境

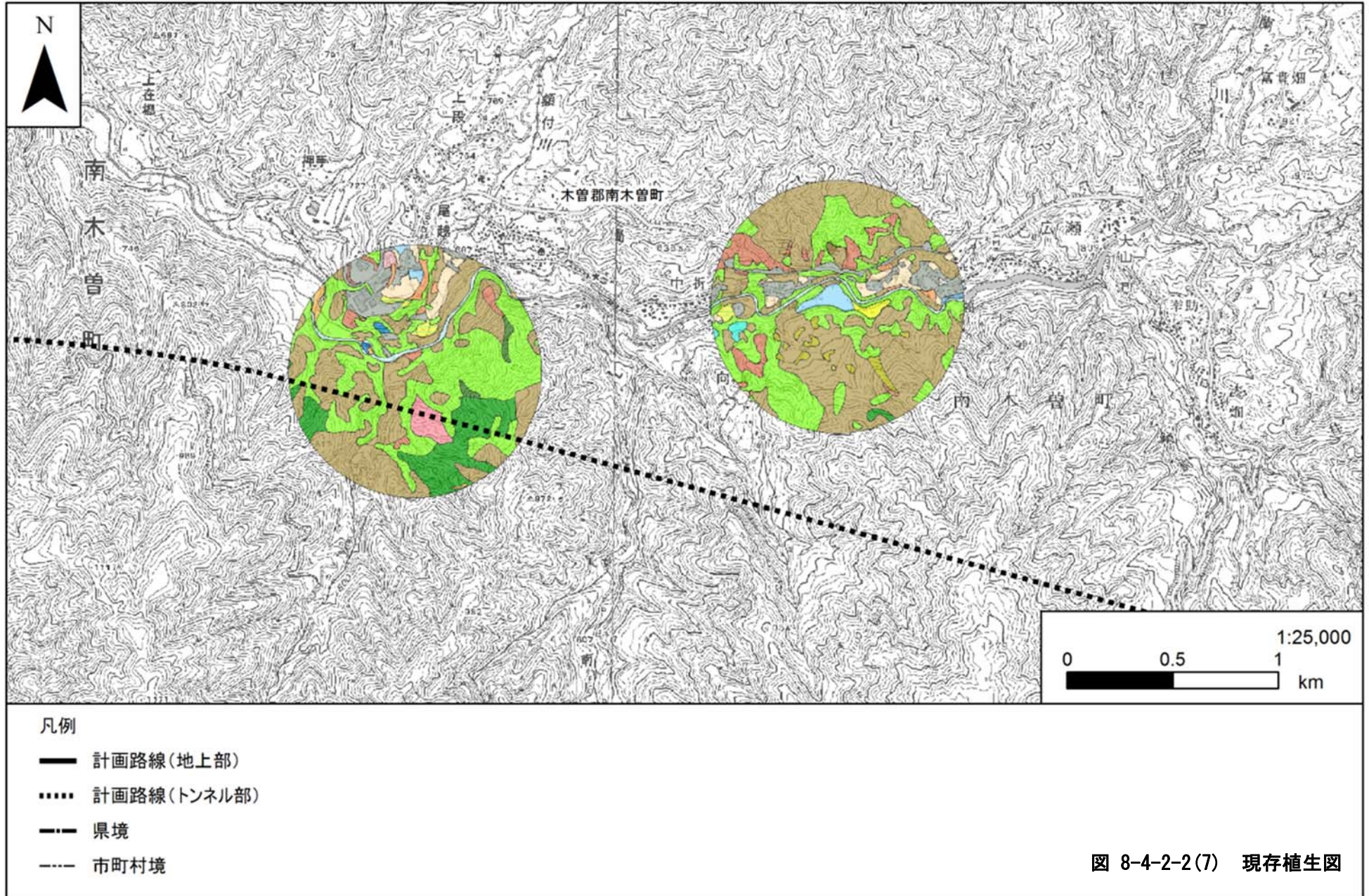
図 8-4-2-2(5) 現存植生図



凡例

- 計画路線(地上部)
- ..... 計画路線(トンネル部)
- +— 県境
- 市町村境

図 8-4-2-2(6) 現存植生図



#### 1) 植物に係る重要な群落の確認状況

文献調査及び現地調査により確認された植物に係る重要な群落は1群落であった。文献及び現地で確認された植物に係る重要な群落とその選定基準を表 8-4-2-12 に示す。

なお、重要な群落は現地調査において確認されなかった。

**表 8-4-2-12 植物に係る重要な群落確認一覧**

No.	群落名	確認状況		重要な群落の選定基準								
		文献	現地	①	③	④	⑥	⑦	⑨	⑩	⑫	⑬
1	赤石山脈の自然植生	○								1	指定	
計	1 群落	1 群落	0 群落	0 群落	0 群落	0 群落	0 群落	0 群落	0 群落	1 群落	1 群落	0 群落

注 1. 植物に係る重要な群落の選定基準は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)  
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ③ 「自然環境保全法」(昭和 47 年、法律第 85 号)  
○：指定の地域
- ④ 「長野県文化財保護条例」(昭和 50 年、長野県条例第 44 号)  
県天：県指定天然記念物
- ⑥ 「長野県自然環境保全条例」(昭和 46 年、長野県条例第 35 号)  
○：自然環境保全地域
- ⑦ 「文化財保護条例」(大鹿村昭和 47 年条例第 21 号、豊丘村昭和 49 年条例第 17 号、喬木村昭和 45 年条例第 19 号、高森町昭和 44 年条例第 25 号、飯田市昭和 41 年条例第 33 号、阿智村昭和 42 年条例第 11 号、南木曾町昭和 51 年条例第 12 号)  
○：市町村指定天然記念物
- ⑨ 「長野県レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～非維管束植物・植物群落編」(平成 17 年、長野県)  
A：総合評価 A ランク、B：総合評価 B ランク、C：総合評価 C ランク
- ⑩ 「植物群落レッドデータ・ブック」(平成 8 年、我が国における保護上重要な植物種及び植物群落研究委員会植物群落分科会)  
1：要注意、2：破壊の危惧、3：対策必要、4：緊急に対策が必要
- ⑫ 「第 2 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 甲信越版(新潟県・山梨県・長野県)」(昭和 55 年、環境庁)、  
「第 3 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 II 甲信越版(新潟県・山梨県・長野県)」(昭和 63 年、環境庁)、  
「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(平成 12 年、環境庁)  
指定：指定されている特定植物群落
- ⑬ 専門家の助言により選定した種  
○：選定した種

ウ. 蘚苔類

7) 蘚苔類に係る重要な種の確認状況

文献調査及び現地調査の結果、蘚苔類に係る重要な種は23科36種であった（「資料編15-2-2 蘚苔類」参照）。文献及び現地で確認された蘚苔類に係る重要な種とその選定基準を表8-4-2-13に示す。

表 8-4-2-13 蘚苔類に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準								
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑬	
1	ミズゴケ	オオミズゴケ		○							NT	CR+EN+VU	
2		ミズゴケ属	○									CR+EN+VU	
3	キセルゴケ	クマノチョウジゴケ	○									CR+EN+VU	
4	キヌシッポゴケ	コバノキヌシッポゴケ	○									CR+EN+VU	
5		ヒナキヌシッポゴケ	○									CR+EN+VU	
6		ハナシキヌシッポゴケ	○							VU		CR+EN+VU	
7		サンカクキヌシッポゴケ	○									CR+EN+VU	
8		コキヌシッポゴケ	○							CR+EN		CR+EN+VU	
9		ノグチゴケ (スガダイラゴケ)	○							CR+EN		CR+EN+VU	
10	シッポゴケ	タカネセンボンゴケ	○									CR+EN+VU	
11	センボンゴケ	ハリロカイゴケ	○									CR+EN+VU	
12		イトヒキフタゴゴケ	○									CR+EN+VU	
13		ナガハシリイシバイゴケ	○							CR+EN		CR+EN+VU	
14		ハリイシバイゴケ	○									CR+EN+VU	
15		ミヤマコネジレゴケ	○							CR+EN		CR+EN+VU	
16	ヤリカツギ	シナノセンボンゴケ	○									CR+EN+VU	
17		ミヤマヤリカツギ	○							CR+EN		CR+EN+VU	
18	ギボウシゴケ	コスナゴケ	○									CR+EN+VU	
19		コボレバギボウシゴケ	○									CR+EN+VU	
20	ハリガネゴケ	カサゴケモドキ	○	○						VU		CR+EN+VU	
21	チョウチンゴケ	シノブチョウチンゴケ	○							VU		CR+EN+VU	
22	クサスギゴケ	ミヤマクサスギゴケ	○							VU		CR+EN+VU	
23	タマゴケ	クモマタマゴケ	○									CR+EN+VU	
24	タチヒダゴケ	イボタチヒダゴケ	○	○							CR+EN	CR+EN+VU	
25		イブキキンモウゴケ	○	○						VU		CR+EN+VU	
26	イトヒバゴケ	シライワスズゴケ	○							CR+EN		CR+EN+VU	
27	イタチゴケ	ツヤダシタカネイタチゴケ	○							CR+EN		CR+EN+VU	
28	アブラゴケ	オクヤマツガゴケ	○							CR+EN		CR+EN+VU	
29	ヒゲゴケ	レイシゴケ		○						VU		CR+EN+VU	
30	シノブゴケ	ムチエダイトゴケ	○							VU		CR+EN+VU	
31	ツヤゴケ	ホソハツヤゴケ (タチミツヤゴケ)	○							VU		CR+EN+VU	
32	イワダレゴケ	オオシカゴケ	○							CR+EN		CR+EN+VU	
33	ヒシヤクゴケ	ムカシヒシヤクゴケ	○							VU		CR+EN+VU	
34	クサリゴケ	カビゴケ		○						NT			
35	アリソンゴケ	ミヤマミズゼニゴケ	○							VU		CR+EN+VU	
36	ウキゴケ	ウキゴケ		○								DD	
計	23科	36種	32種	7種	0種	0種	0種	0種	0種	22種		35種	0種

注1. 分類、配列等は原則として、「日本の野生植物・コケ」（平成13年、岩月善之助編）に準拠した。

種名等は原則として、「New Catalog of the Mosses of Japan」（平成16年、Iwatsuki, Z.）、及び「Catalog of the Hepatics of Japan」（平成18年、Iwatsuki, Z. & Yamada, K.）に準拠した。

注2. 蘚苔類に係る重要な種の選定基準は以下のとおりである。

① 「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）

- 特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）  
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ④「長野県文化財保護条例」（昭和50年、長野県条例第44号）  
県天：県指定天然記念物
- ⑤「長野県希少野生動植物保護条例」（平成15年、長野県条例第32号）  
指：指定希少野生動植物、特：特別指定希少野生動植物
- ⑦「文化財保護条例」（大鹿村昭和47年条例第21号、豊丘村昭和49年条例第17号、  
喬木村昭和45年条例第19号、高森町昭和44年条例第25号、飯田市昭和41年条例第33号  
阿智村昭和42年条例第11号、南木曾町昭和51年条例第12号）  
○：市町村指定天然記念物
- ⑧「環境省第4次レッドリスト植物Ⅰ（維管束植物）及び植物Ⅱ（維管束植物以外）」（平成24年、環境省）  
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類  
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個群
- ⑨「長野県レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～非維管束植物・植物群落編」（平成17年、長野県）  
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN+VU：絶滅危惧、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類  
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、RH：希少雑種、LP：絶滅のおそれのある地域個群
- ⑬専門家の助言により選定した種  
○：選定した種

また、現地調査で確認された重要な種の確認地点を表 8-4-2-14 に示す。

表 8-4-2-14 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生育環境	確認位置		
			変更の 可能性の ある範囲	変更の 可能性の ある範囲 の近傍	相当 離れた 地域
1	オオミズゴケ	山地の湿った地上、中間湿原			○
2	カサゴケモドキ	山地の林床下の腐植土上	○	○	
3	イボタチヒダゴケ	高山の山頂付近の岩上		○	
4	イブキキンモウゴケ	開けた場所の灌木の幹や枝等	○		
5	レイシゴケ	石灰岩露頭の岩隙			○
6	カビゴケ	溪谷等の生葉上			○
7	ウキゴケ	低地の湧水、貧栄養の用水路			○



## エ. 地衣類

### 7) 地衣類に係る重要な種の確認状況

文献調査及び現地調査により確認された地衣類に係る重要な種は6科10種であった(「資料編 15-2-3 地衣類」参照)。文献及び現地で確認された地衣類に係る重要な種とその選定基準を表 8-4-2-15 に示す。

表 8-4-2-15 地衣類に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		重要な種の選定基準								
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑨	⑬	
1	アナイボゴケ	アカウラカワイワタケ		○								NT	
2	ハナゴケ	ナナバケアカミゴケ	○									NT	
3	ウメノキゴケ	ホグロタテガミゴケ	○									NT	
4		シラチャウメノキゴケ		○								CR+EN+VU	
5		ヒカゲウチキウメノキゴケ		○								DD	
6		ヨコワサルオガセ	○									NT	
7		ヒゲサルオガセ	○									NT	
8		キゴケ	オオキゴケ		○								NT
9	ツメゴケ	フイリツメゴケ	○									NT	
10	イワタケ	イワタケ		○								NT	
計	6科	10種	5種	5種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	10種	0種	

注1. 分類、配列等は原則として、「Outline of Ascomycota - 2007」(H. Thorsten Lumbsch, 2007. Myconet/outline vol. 13) に準拠した。

種名等は原則として、「Checklist of Japanese lichens and allied fungi」(平成18年、S. Kurokawa & H. Kashiwadani, Nat. Sci. Mus. Monographs No. 33) に準拠した。

注2. 地衣類に係る重要な種の選定基準は以下のとおりである。

① 「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

④ 「長野県文化財保護条例」(昭和50年、長野県条例第44号)

県天：県指定天然記念物

⑤ 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成15年、長野県条例第32号)

指：指定希少野生動植物、特：特別指定希少野生動植物

⑦ 「文化財保護条例」(大鹿村昭和47年条例第21号、豊丘村昭和49年条例第17号、

喬木村昭和45年条例第19号、高森町昭和44年条例第25号、飯田市昭和41年条例第33号、阿智村昭和42年条例第11号、南木曾町昭和51年条例第12号)

○：市町村指定天然記念物

⑧ 「環境省第4次レッドリスト植物Ⅰ(維管束植物)及び植物Ⅱ(維管束植物以外)」(平成24年、環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨ 「長野県レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～非維管束植物・植物群落編」(平成17年、長野県)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN+VU：絶滅危惧、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、RH：希少雑種、LP：絶滅のおそれのある地域個群

⑬ 専門家の助言により選定した種

○：選定した種

また、現地調査で確認された重要な種の確認地点を表 8-4-2-16 に示す。

**表 8-4-2-16 現地調査で確認された重要な種の確認位置**

番号	種名	確認種の 生育環境	確認位置		
			改変の 可能性の ある範囲	改変の 可能性の ある範囲 の近傍	相当 離れた 地域
1	アカウラカワイワタケ	山地の窪み地形、沢沿いの岩上	○	○	
2	シラチャウメノキゴケ	低地の樹幹樹皮、低木の枝	○		○
3	ヒカゲウチキウメノキゴケ	低山地から平地の岩上、樹皮上	○	○	
4	オオキゴケ	低山地から山地帯の岩上		○	○
5	イワタケ	垂直面の石英質岩上	○		

## (2) 予測及び評価

### 1) 予測

#### ア. 予測項目

現地調査で確認された重要な種及び群落に対する工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地）の存在による影響について予測した。

#### イ. 予測の基本的な手法

既存の知見の引用又は解析により、重要な種及び地域個体群への影響の種類、影響の箇所、影響の程度について予測した。

#### ウ. 予測地域

対象事業実施区域及びその周囲の内、工事の実施、鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地）の存在に係る重要な種の生育地への影響が生じるおそれがあると認められる地域として、調査地域と同様とした。

#### エ. 予測対象時期

工事期間中及び鉄道施設の完成時とした。

#### オ. 予測対象種及び群落

予測対象種及び群落は、文献調査及び現地調査によって対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性が高いと考えられる重要な種及び群落とした。

重要な種及び群落の予測対象種を表 8-4-2-17 に示す。

表 8-4-2-17(1) 予測対象種及び群落

分類	区分	種名及び群落名
植物に係る 植物相 (重要な種)	現地調査で確認され た種 (72 種)	スギラン、オオハナワラビ、イチョウシダ、キヨスミヒメワラビ、イワ ヘゴ、チャボイノデ、クラガリシダ、イワオモダカ、オオクボシダ、ヒ メバラモミ、カワラハンノキ、サクラバハンノキ、トキホコリ、ヒメウ ワバミソウ、マツグミ、オオビランジ、サネカズラ、フクジュソウ、ヒ メカンアオイ、ヤマシャクヤクの種類、ナガミノツルクケマン、クモマ ナズナ、ミチバタガラシ、コウヤミズキ、ツメレンゲ、チチブベンケイ、 ジンジソウ、ユズリハ、ミズマツバ、トダイアカバナ、シナノコザクラ、 ホソバツルリンドウ、スズサイコ、コムラサキ、タチキランソウ、キセ ワタ、アオホオズキ、サワトウガラシ、クチナシグサ、カワヂシャ、ハ グロソウ、キキョウ、アキノハハコグサ、ツツザキヤマジノギク、カワ ラニガナ、カワラウスユキソウ、シュウブソウ、イナトウヒレン、ウ リカワ、ササバモ、ホソバミズヒキモ、ヤナギモ、イトモ、アイノコイ トモ、ホッスモ、ヤマユリ、ヒメシャガ、カキツバタ、ホシクサ、アシ カキ、ヒロハノハネガヤ、ヒトツバテンナンショウ、アゼナルコ、ヒナ スゲ、クグガヤツリ、ギンラン、アオフタバラン、ウチョウラン、コケ イラン、オオバノトンボソウ、カヤラン、ヤクシマヒメアリドオシラン
	文献調査において対 象事業実施区域及び その周囲に生育する 可能性が高いと考え られる重要な種の 内、現地調査で確認 されなかった種 (608 種)	ヒメスギラン、マンネンズギ、ヒモカズラ、ヤマハナワラビ、エゾフユ ノハナワラビ、コハナヤスリ、フタツキジノオ、ハイホラゴケ、チチブ ホラゴケ、キヨスミコケシノブ、オオフジシダ、アイフジシダ、ホラシ ノブ、イヌイワガネソウ、シシラン、ナカミシシラン、オオバノハチジ ョウシダ、マツザカシダ、セフリイノモトソウ、ヤマドリトラノオ、ヌ リトラノオ、シモツケヌリトラノオ、トキワトラノオ、オクタマシダ、 クモノスシダ、イヌチャセンシダ、アオチャセンシダ、クモイワトラノ オ、オオカナワラビ、ナンタイシダ、ツクシヤブソテツ、キノクニベニ シダ、イワカゲワラビ、エンシュウベニシダ、ハコネオオクジャク、タ カヤマナライシダ、カタイノデ、ヤシヤイノデ、トヨグチイノデ、フジ イノデ、オニイノデ、ヒメカナワラビ、ドウリョウイノデ、ハコネイノ デ、ハタジュクイノデ、フナコシイノデ、カタイノデモドキ、ナメライ ノデ、オンガタイノデ、ツヤナシイノデモドキ、タカオイノデ、ゴテン バイノデ、ホシダ、ヨコグラヒメワラビ、ツクシヤワラシダ、テバコワ ラビ、ユノツルイヌワラビ、ヘビヤマイヌワラビ、タカオシケチシダ、 ナヨシダ、ムクゲシケシダ、ウスバミヤマノコギリシダ、キタノミヤマ シダ、ヘラシダ、ノコギリシダ、ダンドシダ、ウサギシダ、オオエビラ シダ、ミヤマウラボシ、トヨグチウラボシ、ウロコノキシノブ、イナノ キシノブ、クリハラン、アオネカズラ、ヤツシロヒトツバ、デンジソウ、 サンショウモ、オオアカウキクサ、イイダモミ、イラモミ、ヒメマツハ ダ、コマイワヤナギ、ジゾウカンバ、アカガシ、ナラガシワ、ムクノキ、 タチゲヒカゲミズ、コケミズ、ミヤマツチトリモチ、ハルトラノオ、ウ ナギツカミ、ヒメタデ、ヤナギヌカボ、サデクサ、ヌカボタデ、ノダイ オウ、マルミノヤマゴボウ、タガソデソウ、センジュガンピ、エンビセ ンノウ、ビランジ、シラオイハコベ、エゾオオヤマハコベ、ミドリアカ ザ、イワアカザ、オオヤマレンゲ、ヤブニッケイ、シロダモ、レイジン ソウ、オンタケブシ、アズマレイジンソウ、ミチノクフクジュソウ、ヒ メイチゲ、ミスミソウ、イチリンソウ、アズマイチゲ、サンリンソウ、 レンゲショウマ、エンコウソウ、ミヤマハンショウヅル、カザグルマ、 オウレン、バイカオウレン、サバノオ、チチブシロカネソウ、トウゴク サバノオ、オキナグサ、ハイキツネノボタン、セツブソウ、マンセン カラマツ、ミヤマカラマツ、イワカラマツ、ヘビノボラズ、オオバメギ、 サンカヨウ、ジュンサイ、マツモ、マルバウマノスズクサ、ウマノスズ クサ、オオバウマノスズクサ、ヤマシャクヤク、ベニバナヤマシャクヤ ク、ヒメシャラ、アカテンオトギリ、アゼオトギリ、タコアシオトギリ、 エゾエンゴサク、ジロボウエンゴサク、ツルクケマン、ヘラハタザオ、 ミヤマハタザオ、イワハタザオ、ミツバコンロンソウ、キリシマミズキ、 アオベンケイ、マルバマンネングサ、ハナチダケサシ、キバナハナネコ ノメ、ハナネコノメ、ヒダボタン、タチネコノメソウ、シラヒゲソウ、 ウメバチソウ、ヤワタソウ、タコノアシ、ヤシヤビシヤク、エゾスグリ、

表 8-4-2-17(2) 予測対象種及び群落

分類	区分	種名及び群落名
植物に係る 植物相 (重要な種)	文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性が高いと考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (608種)	トガスグリ、エチゼンダイモンジソウ、ダイモンジソウ、ウチワダイモンジソウ、クロクモソウ、チョウセンキンミズヒキ、シモツケソウ、アカバナシモツケ、シロバナノヘビイチゴ、イワキンバイ、ミネザクラ、アカツキザクラ、リンボク、カシオザクラ、チチブザクラ、ナルサワザクラ、ニッコウザクラ、サナギイチゴ、キソキイチゴ、コガネイチゴ、ハスノハイチゴ、ミヤマモミジイチゴ、コジキイチゴ、モメンヅル、タヌキマメ、レンリソウ、イヌハギ、ミヤマタニワタシ、ヤマフジ、オオヤマカタバミ、グンナイフウロ、イヨフウロ、コフウロ、ビッチュウフウロ、マツバニンジン、ノウルシ、ニシキソウ、ヒメナツトウダイ、ヒナノキンチャク、シバタカエデ、ハナノキ、エンシュウツリフネソウ、キソオニツルツゲ、ムラサキマユミ、ゴンズイ、ツゲ、ミヤマクマヤナギ、アマヅル、チョウセンナニワズ、ヒメミヤマスマレ、キクバワカミヤスマレ、ヒラツカスマレ、アソキクバスマレ、キクバヒナスミレ、フギレサクラスマレ、ワカミヤスマレ、フギレアカネスマレ、ウンゼンスミレ、アルガスマレ、コワシミズスマレ、ヤシュウスミレ、キタザワスマレ、ミハシスマレ、サクラマルバスマレ、アカネマルバスマレ、オノスマレ、キリガミネスマレ、コミヤマスマレ、ナギソスマレ、ナガバタチツボスマレ、カクマスマレ、アカネノジスマレ、フギレミヤマスマレ、ミヤマスマレ、シコクスミレ、シナノスマレ、マルバヒナスミレ、オサカスマレ、フクザワスマレ、フイリヤシロスミレ、マキノヒナスミレ、ヒメスマレサイシン、フイリシハイマキノスマレ、フイリシハイヒナスミレ、サクラヒカゲスマレ、スワタチツボスマレ、スワキクバスマレ、コマガタケスマレ、スルガキクバスマレ、キソスマレ、アスマスマレ、スワスマレ、ニオイエゾノタチツボスマレ、マルバタチツボ、フイリカタツラギスマレ、オクハラスマレ、ミツモリスミレ、オクタマスマレ、フイリフギレシハイスミレ、カワギシスマレ、カラスウリ、ヒメキカシグサ、ミズキカシグサ、ヒメビシ、エゾアカバナ、タチモ、フサモ、スギナモ、ミヤマウコギ、イワニンジン、ミシマサイコ、ツボクサ、オオバチドメ、オオカサモチ、ヤマナシウマノミツバ、クロバナウマノミツバ、ナンカイイワカガミ、ヒメイワカガミ、ヤマイワカガミ、イワカガミ、オオイワカガミ、ウメガサソウ、シャクジョウソウ、ギンリョウソウ、ベニバナイチヤクソウ、エゾイチヤクソウ、マルバイイチヤクソウ、サラサドウダン、ベニドウダン、チチブドウダン、コアブラツツジ、イワナンテン、ウスギヨウラク、ウラジロヨウラク、アズマシャクナゲ、ミツバツツジ、サツキ、レンゲツツジ、ヒカゲツツジ、ダイセンミツバツツジ、アカヤシオ、シロヤシオ、オオヤマツツジ、コメツツジ、トウゴクミツバツツジ、ハンノウツツジ、ムサシミツバツツジ、ミヤコツツジ、クロマメノキ、ノジトラノオ、クリンソウ、サクラソウ、クロミノニシゴリ、ヒトツバタゴ、アイナエ、リンドウ、コケリンドウ、チチ布林ドウ、フナバラソウ、コバノカモメヅル、シロバナカモメヅル、ピンゴムグラ、ハナムグラ、フタバムグラ、ツルアリドオシ、サワリソウ、イヌムラサキ、ムラサキ、エゾムラサキ、ルリソウ、ハイルリソウ、カリガネソウ、カイジンドウ、ミヤマクマバナ、フトボナギナタコウジュ、シモバシラ、マネキグサ、ヤマジオウ、ミカエリソウ、ヤマジソ、アキチョウジ、タカクマヒキオコシ、イヌヤマハッカ、ナツノタムラソウ、ダンドタムラソウ、キソキバナアキギリ、エゾタツナミソウ、イブキジャコウソウ、オオマルバノホロシ、ハダカホオズキ、アブノメ、シライワコゴメグサ、ツクシコゴメグサ、イナコゴメグサ、キクモ、ウリクサ、タカネママコナ、ツシマママコナ、スズメハコベ、ハンカイシオガマ、トモエシオガマ、ゴマノハグサ、イナサツキヒナノウスツボ、オオヒキヨモギ、グンバイヅル、イヌノフグリ、クガイソウ、イワタバコ、オオナンバンギセル、ヤマウツボ、ケヤマウツボ、ハマウツボ、キヨスミウツボ、タヌキモ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、コタヌキモ、ヒメタヌキモ、イヌタヌキモ、ムラサキミミカキグサ、ベニバナノツクバネウツギ、スルガヒョウタンボク、クロミノウグイスカグラ、イボタヒョウタンボク、ニッコウヒョウタンボク、アラゲヒョウタンボク、ソクズ、ゴマギ、キバナウツギ、キンレイカ、ツルカノコソウ、

表 8-4-2-17(3) 予測対象種及び群落

分類	区分	種名及び群落名
植物に係る 植物相 (重要な種)	文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性が高いと考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (608 種)	フクシマシャジン、イワシャジン、ヤマホタルブクロ、バアソブ、タニギキョウ、ヌマダイコン、トダイハハコ、タテヤマギク、カワラノギク、シオン、カニコウモリ、ミヤマコウモリソウ、オクヤマコウモリ、テバコモミジガサ、ヒメガンクビソウ、リュウノウイワインチン、ハリカガノアザミ、リュウノウアザミ、ヒダアザミ、キセルアザミ、ワタムキアザミ、ホソバムカシヨモギ、アズマギク、フジバカマ、ヤマジノギク、スイラン、タカサゴソウ、キクバヂシバリ、オオユウガギク、カントウヨメナ、ムラサキニガナ、ウスユキソウ、マルバダケブキ、オタカラコウ、オオモミジガサ、ミヤマヨメナ、アカイシコウゾリナ、オオニガナ、コウシュウヒゴタイ、ホクチアザミ、マルバミヤコアザミ、アサマヒゴタイ、ヒメヒゴタイ、タカオヒゴタイ、キクアザミ、ホクチキクアザミ、コウリンカ、アオヤギバナ、ヤマボクチ、ヒロハタンポポ、ウスギタンポポ、オナモミ、サジオモダカ、アギナシ、スブタ、ヤナギスブタ、クロモ、ミズオオバコ、セキショウモ、ホソバヒルムシロ、コバノヒルムシロ、ヒロハノエビモ、イトトリゲモ、イバラモ、トリゲモ、シライトソウ、ツバメオモト、スズラン、ヒメアマナ、ショウジョウバカマ、ユウスゲ、イワギボウシ、ヒメユリ、ササユリ、コオニユリ、ホソバコオニユリ、クルマユリ、クルマバツクバネソウ、サクライソウ、ヒロハノユキザサ、オオバタケシマラン、イワショウブ、ホトトギス、イワホトトギス、タマガワホトトギス、エンレイソウ、シロバナエンレイソウ、アマナ、タカネアオヤギソウ、コバイケイソウ、ウラゲコバイケイ、ミカワバイケイソウ、ミズアオイ、オカスズメノヒエ、クロイヌノヒゲモドキ、クロイヌノヒゲ、オオムラホシクサ、ゴマシオホシクサ、エゾスカボ、ヒメコヌカグサ、セトガヤ、ミギワトダシバ、イワタケソウ、ヒロハノコヌカグサ、ヒゲノガリヤス、チシマガリヤス、ヒロハヌマガヤ、ヤマムギ、エゾムギ、ムツオレグサ、ミヤマドジョウツナギ、ウキガヤ、ハイチゴザサ、アゼガヤ、トウササクサ、タツノヒゲ×ヒロハヌマガヤ、チャボチヂミザサ、アワガエリ、イトイチゴツナギ、ヒエガエリ、ハマヒエガエリ、ヌメリグサ、フォーリーガヤ、ウシクサ、ユモトマムシグサ、ウラシマソウ、ザゼンソウ、ヒンジモ、ミクリ、ヤマトミクリ、タマミクリ、ヒメミクリ、クロカワズスゲ、アワボスゲ、ヤマオオイトスゲ、サヤマスゲ、ハタベスゲ、タチスゲ、ノゲヌカスゲ、マメスゲ、ゴンゲンスゲ、エゾハリスゲ、ヌマガヤツリ、ヒメマツカサススキ、コシンジュガヤ、イワチドリ、マメヅタラン、ムギラン、エビネ、キンセイラン、ナツエビネ、キソエビネ、サルメンエビネ、ホテイラン、キンラン、アオチドリ、コアツモリソウ、キバナノアツモリソウ、クマガイソウ、ホテイアツモリ、アツモリソウ、イチヨウラン、セッコク、コイチヨウラン、エゾスズラン、カキラン、トラキチラン、アオキラン、ツチアケビ、オニノヤガラ、アケボノシュスラン、ベニシュスラン、ツリシュスラン、ヒメミヤマウズラ、ミヤマウズラ、ノビネチドリ、テガタチドリ、ミヤマモジズリ、サギソウ、ミズトンボ、ムカゴソウ、セイタカスズムシソウ、スズムシソウ、フタバラン、ヒメフタバラン、ミヤマフタバラン、ホザキイチヨウラン、アリドオシラン、ヒメムヨウラン、サカネラン、ムカゴサイシン、ヨウラクラン、ヒナチドリ、オノエラン、ニョホウチドリ、ミズチドリ、ツレサギソウ、オオキソチドリ、ナガバキソチドリ、キソチドリ、コバノトンボソウ、トキソウ、ヤマトキソウ、ベニカヤラン、モミラン、クモラン、ヒロハトンボソウ、キバナノシウキラン、シナノシウキラン、シウキラン

表 8-4-2-17(4) 予測対象種及び群落

植物に係る 植生 (重要な群落)	現地調査で確認され た群落 (0 群落)	なし
	文献調査において対 象事業実施区域及び その周囲に生育する 可能性が高いと考え られる重要な群落の 内、現地調査で確認 されなかった群落 (1 群落)	赤石山脈の自然植生
蘚苔類 (重要な種)	現地調査で確認され た種 (7 種)	オオミズゴケ、カサゴケモドキ、イボタチヒダゴケ、イブキキンモウ ゴケ、レイシゴケ、カビゴケ、ウキゴケ
	文献調査において対 象事業実施区域及び その周囲に生育する 可能性が高いと考え られる重要な種の 内、現地調査で確認 されなかった種 (22 種)	ミズゴケ属、クマノチョウジゴケ、コバノキヌシッポゴケ、ヒナキヌ シッポゴケ、ハナシキヌシッポゴケ、サンカクキヌシッポゴケ、コキ ヌシッポゴケ、ハリロカイゴケ、イトヒキフタゴゴケ、ナガバハリイ シバイゴケ、ハリイシバイゴケ、ミヤマコネジレゴケ、シナノセンボ ンゴケ、シノブチョウチンゴケ、ミヤマクサスギゴケ、シライワスズ ゴケ、オクヤマツガゴケ、ムチエダイトゴケ、ホソバツヤゴケ (タチ ミツヤゴケ)、オオシカゴケ、ムカシヒシヤクゴケ、ミヤマミズゼニ ゴケ
地衣類 (重要な種)	現地調査で確認され た種 (5 種)	アカウラカワイワタケ、シラチャウメノキゴケ、ヒカゲウチキウメノ キゴケ、オオキゴケ、イワタケ
	文献調査において対 象事業実施区域及び その周囲に生育する 可能性が高いと考え られる重要な種の 内、現地調査で確認 されなかった種 (3 種)	ヨコワサルオガセ、ヒゲサルオガセ、フイリツメゴケ

## カ. 影響予測の手順

影響予測は図 8-4-2-3 に示す手順に基づき行った。

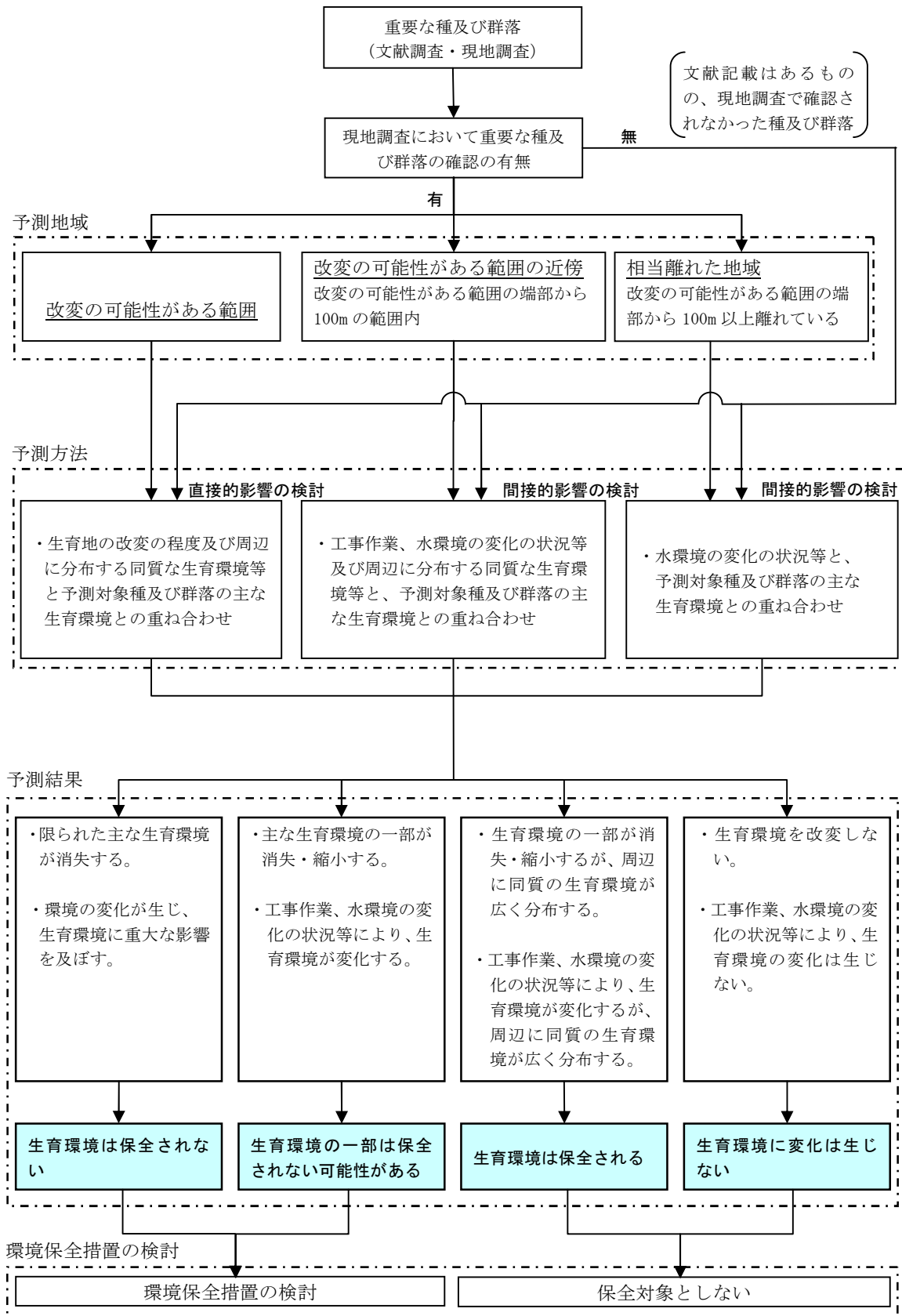


図 8-4-2-3 影響予測の手順



キ. 予測結果

7) 現地調査で確認された重要な種及び群落の生育環境への影響

現地調査で確認された重要な種を表 8-4-2-18 のとおり予測する。また、個別の種に対する詳細な予測結果を表 8-4-2-19 に示す。

なお、重要な群落は現地調査において確認されなかった。

表 8-4-2-18(1) 重要な種の予測結果の概要

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置			生育環境への影響
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	
1	スギラン	山林中の樹上、岩上			○	生育環境に変化は生じない
2	オオハナワラビ	山地林中のやや湿ったところ	○		○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
3	イチョウシダ	石灰岩地で林中、やや裸出した岩陰			○	生育環境に変化は生じない
4	キヨスミヒメワラビ	山中で陰湿な林下			○	生育環境に変化は生じない
5	イワヘゴ	山地の溪側等の陰地林床		○		生育環境は保全される
6	チャボイノデ	山地の林床			○	生育環境に変化は生じない
7	クラガリシダ	深山の原生林中の樹幹		○	○	生育環境は保全される
8	イワオモダカ	深山の林中で岩上、樹幹	○	○	○	生育環境は保全される
9	オオクボシダ	山地の樹幹、岩上			○	生育環境に変化は生じない
10	ヒメバラモミ	亜高山帯林地			○	生育環境に変化は生じない
11	カワラハンノキ	丘陵の日当たりのよい河原、川岸		○	○	生育環境は保全される
12	サクラバハンノキ	湿地			○	生育環境に変化は生じない
13	トキホコリ	山野の湿ったところ	○			生育環境は保全されない
14	ヒメウワバミソウ	山地の陰湿地		○		生育環境は保全される
15	マツグミ	マツ、モミ等の針葉樹に寄生		○	○	生育環境は保全される
16	オオビランジ	山地の崖		○	○	生育環境は保全される
17	サネカズラ	山野の林縁	○	○		生育環境の一部は保全されない可能性がある
18	フクジュソウ	落葉樹林下			○	生育環境に変化は生じない
19	ヒメカンアオイ	山地の林内			○	生育環境に変化は生じない

表 8-4-2-18(2) 重要な種の予測結果の概要

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置			生育環境への影響
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	
20	ヤマジャクヤクの種類	落葉広葉樹林下			○	生育環境に変化は生じない
21	ナガミノツルキケマン	山中の半日陰地	○		○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
22	クモマナズナ	高山の岩上			○	生育環境に変化は生じない
23	ミチバタガラシ	日当たりの悪い庭のすみ、道端		○		生育環境は保全される
24	コウヤミズキ	山地の岩地			○	生育環境に変化は生じない
25	ツメレンゲ	岩上、屋根の上等	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
26	チチブベンケイ	亜高山帯の石灰岩地			○	生育環境に変化は生じない
27	ジンジソウ	山地の岩壁		○	○	生育環境は保全される
28	ユズリハ	広葉樹林内			○	生育環境に変化は生じない
29	ミズマツバ	水田、湿地	○		○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
30	トダイアカバナ	深山	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
31	シナノコザクラ	石灰岩の岩場		○	○	生育環境は保全される
32	ホソバツルリンドウ	山地			○	生育環境に変化は生じない
33	スズサイコ	日当たりのよい草地			○	生育環境に変化は生じない
34	コムラサキ	山麓の湿地、湿った原野		○	○	生育環境は保全される
35	タチキランソウ	山地	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
36	キセワタ	草原		○		生育環境は保全される
37	アオホオズキ	やや湿り気のある山地の木陰			○	生育環境に変化は生じない
38	サワトウガラシ	湿地	○		○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
39	クチナシグサ	草地、乾いた林内		○		生育環境は保全される
40	カワヂシャ	田のあぜ、川岸、溝のふち等		○	○	生育環境は保全される

表 8-4-2-18(3) 重要な種の予測結果の概要

番号	種名	確認種の 生育環境	確認位置			生育環境への 影響
			変更の 可能性の ある範囲	変更の 可能性の ある範囲 の近傍	相当 離れた 地域	
41	ハグロソウ	山地の木陰			○	生育環境に変化は生じない
42	キキョウ	草地			○	生育環境に変化は生じない
43	アキノハハコグサ	やや乾いた山地		○	○	生育環境は保全される
44	ツツザキヤマジノギク	天竜川流域の河原等			○	生育環境に変化は生じない
45	カワラニガナ	河原の礫地、砂地	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
46	カワラウスユキソウ	石灰岩の岩壁、岩礫斜面及び河原	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
47	シュウブソウ	山林	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
48	イナトウヒレン	蛇紋岩地			○	生育環境に変化は生じない
49	ウリカワ	水田	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
50	ササバモ	湖沼、河川及び水路等		○	○	生育環境は保全される
51	ホソバミズヒキモ	ため池、水路等			○	生育環境に変化は生じない
52	ヤナギモ	河川、水路及び稀にため池等		○	○	生育環境は保全される
53	イトモ	湖沼、ため池及び水路等			○	生育環境に変化は生じない
54	アイノコイトモ	河川、水路、稀に湖沼及びため池	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
55	ホッスモ	貧栄養のため池、山間の水田			○	生育環境に変化は生じない
56	ヤマユリ	山地、丘陵	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
57	ヒメシヤガ	山地の岩石地	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
58	カキツバタ	水湿地	○			生育環境は保全されない
59	ホシクサ	水田、湿地	○	○	○	生育環境は保全されない
60	アシカキ	水湿地			○	生育環境に変化は生じない

表 8-4-2-18(4) 重要な種の予測結果の概要

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置			生育環境への影響
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	
61	ヒロハノハネガヤ	山地の草原、林中			○	生育環境に変化は生じない
62	ヒトツバテンナンショウ	暗い林縁、林床			○	生育環境に変化は生じない
63	アゼナルコ	川岸や田のあぜ等の湿地	○			生育環境は保全されない
64	ヒナスゲ	海岸、湖沼等の砂質の湿地	○			生育環境は保全されない
65	クグガヤツリ	低地の路傍			○	生育環境に変化は生じない
66	ギンラン	林内		○	○	生育環境は保全される
67	アオフタバラン	スギ林等			○	生育環境に変化は生じない
68	ウチョウラン	山地の湿った岩壁、人家の屋根		○	○	生育環境は保全される
69	コケイラン	山地のやや湿った林内	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある
70	オオバノトンボソウ	雑木林		○	○	生育環境は保全される
71	カヤラン	樹幹			○	生育環境に変化は生じない
72	ヤクシマヒメアリドオシラン	常緑樹林内			○	生育環境に変化は生じない
73	オオミズゴケ	山地の湿った地上、中間湿原			○	生育環境に変化は生じない
74	カサゴケモドキ	山地の林床下の腐植土上	○	○		生育環境の一部は保全されない可能性がある
75	イボタチヒダゴケ	高山の山頂付近の岩上		○		生育環境は保全される
76	イブキキンモウゴケ	開けた場所の灌木の幹や枝等	○			生育環境は保全されない
77	レイシゴケ	石灰岩露頭の岩隙			○	生育環境に変化は生じない
78	カビゴケ	溪谷等の生葉上			○	生育環境に変化は生じない
79	ウキゴケ	低地の湧水、貧栄養の用水路			○	生育環境に変化は生じない
80	アカウラカワイワタケ	山地の窪み地形、沢沿いの岩上	○	○		生育環境の一部は保全されない可能性がある
81	シラチャウメノキゴケ	低地の樹幹樹皮、低木の枝	○		○	生育環境の一部は保全されない可能性がある

表 8-4-2-18 (5) 重要な種の予測結果の概要

番号	種名	確認種の 生育環境	確認位置			生育環境への 影響
			改変の 可能性の ある範囲	改変の 可能性の ある範囲 の近傍	相当 離れた 地域	
82	ヒカゲウチキウメノ キゴケ	低山地から平地の 岩上、樹皮上	○	○		生育環境の一部 は保全されない 可能性がある
83	オオキゴケ	低山地から山地帯 の岩上		○	○	生育環境は保全 される
84	イワタケ	垂直面の石英質岩 上	○			生育環境は保全 されない

表 8-4-2-19 (1) 重要な種の予測結果

スギラン (ヒカゲノカズラ科)		
一般生態	北海道東部から屋久島にかけて分布する。山林中の樹上、まれに岩上に着生する常緑の草本。茎は径 3mm から 5mm、わら色か緑色、長さは大いものでは 30cm をこえる。和名は杉蘭で、全形がスギの小枝を思わせる。	
確認状況	大鹿村において合計 3 地点で確認された。 大鹿村においては、早春季及び春季調査時に合計 3 地点 13 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (2) 重要な種の予測結果

オオハナワラビ (ハナヤスリ科)		
一般生態	屋久島、三宅島以北、東北地方中部以南に分布する。暖帯から温帯下部で、秋から冬にかけて生じる冬緑性の多年生シダ。山地林中のやや湿ったところに普通に生じる。葉は年に 1 枚でて、高さ 30cm から 50cm。	
確認状況	大鹿村、豊丘村において合計 4 地点で確認された。 大鹿村においては、早春季調査時に合計 1 地点 1 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 豊丘村においては、早春季及び春季調査時に合計 3 地点 17 個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で 1 地点 10 個体、相当離れた地域で 2 地点 7 個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1 地点は改変の可能性のある範囲、3 地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (3) 重要な種の予測結果

イチョウシダ (チャセンシダ科)		
一般生態	北海道から九州までの各地に分布する。石灰岩地で、林中又はやや裸出した岩陰に生じる常緑性のシダ。葉は単羽状で、倒卵形で左右相称の裂片をイチョウの葉に見立てて、この名がある。珍しいうえ、おもしろい形が好まれてよく採取され、絶滅したのではないかと推定されるところも多い。	
確認状況	大鹿村において合計 1 地点で確認された。 大鹿村においては、夏季調査時に合計 1 地点約 20 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (4) 重要な種の予測結果

キヨスミヒメワラビ (オシダ科)		
一般生態	本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。暖地の山中でやや陰湿な林下に生じる常緑性のシダ。	
確認状況	南木曾町において合計 2 地点で確認された。 南木曾町においては、夏季調査時に合計 2 地点 2 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (5) 重要な種の予測結果

イワヘゴ (オシダ科)		
一般生態	本州（山形県、新潟県で珍しく、関東地方南部以西）、四国、九州に分布する。暖地の山地の溪側等の陰地の林床に生じる常緑性のシダ。	
確認状況	南木曾町において合計 1 地点で確認された。 南木曾町においては、早春季調査時に合計 1 地点 2 個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は改変の可能性のある範囲の近傍の 1 地点のみであった。ただし、改変の可能性のある範囲から相当程度離れており、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (6) 重要な種の予測結果

チャボイノデ (オシダ科)		
一般生態	本州 (関東から近畿地方)、四国、九州 (宮崎県) に分布する。山地の林床に生育する常緑性のシダ。日本固有種。	
確認状況	大鹿村において合計 1 地点で確認された。 大鹿村においては、春季調査時に合計 1 地点 1 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (7) 重要な種の予測結果

クラガリシダ (ウラボシ科)		
一般生態	本州 (能登半島、長野・静岡・愛知・岐阜 4 県の接する付近、近畿地方、中国地方西部)、四国 (愛媛県)、九州 (大分県耶馬溪) に分布する。深山の原生林中の樹幹に生じる常緑性のシダ。	
確認状況	阿智村、南木曾町において合計 3 地点で確認された。 阿智村においては、春季調査時に合計 1 地点 1 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 南木曾町においては、春季及び秋季調査時に合計 2 地点 8 個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で 1 地点 2 個体、相当離れた地域で 1 地点 6 個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、2 地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍における確認地点は道路沿いであり、改変の可能性のある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・トンネルの工事および鉄道施設 (トンネル) の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (8) 重要な種の予測結果

イワオモダカ (ウラボシ科)		
一般生態	北海道から九州まで広く分布する。深山の深い林中で岩上や樹幹に着生する常緑性のシダ。栽培品として古来珍重される。	
確認状況	大鹿村、豊丘村において合計 30 地点で確認された。 大鹿村においては、早春季、春季、夏季及び秋季調査時に合計 25 地点 100 個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で 3 地点約 76 個体、改変の可能性のある範囲の近傍で 2 地点 3 個体、相当離れた地域で 20 地点 100 個体以上確認された。 豊丘村においては、早春季、春季及び夏季調査時に合計 5 地点 96 個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で 1 地点 8 個体、相当離れた地域で 4 地点 88 個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、4 地点は改変の可能性のある範囲、2 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、24 地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布しており、また影響が生じない箇所が多く確認されている。</li> <li>したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (9) 重要な種の予測結果

オオクボシダ (ヒメウラボシ科)		
一般生態	本州 (関東地方以西)、四国、九州の暖地に分布する。山地の樹幹、岩上に稀に産する常緑性のシダ。	
確認状況	阿智村、南木曾町において合計 4 地点で確認された。 阿智村においては、秋季調査時に合計 1 地点 12 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 南木曾町においては、春季及び秋季調査時に合計 3 地点 100 個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (10) 重要な種の予測結果

ヒメバラモミ (マツ科)		
一般生態	本州中部 (八ヶ岳西岳、南アルプス仙丈ヶ岳及びその周辺) の亜高山帯に分布し、他では知られていない稀種。常緑の高木で、幹は高さ約 30m、径 1m 内外になる。花期は、5 月から 6 月。毬果は 10 月に熟し、無柄で下垂し、楕円状円筒形で、長さ 3cm から 6cm、径 1.5cm 内外、先は丸く、黄褐色で光沢がある。	
確認状況	大鹿村において合計 1 地点で確認された。 大鹿村においては、春季調査時に合計 1 地点 1 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>



表 8-4-2-19 (11) 重要な種の予測結果

カワラハンノキ (カバノキ科)		
一般生態	本州（東海・近畿地方以西）、四国、九州（宮崎県）に分布する。丘陵の日当たりのよい河原、川岸に生える落葉低木から小高木。下部からよく枝分かれして高さ 5m から 7m になる。日本固有種。花は 2 月から 3 月、葉の展開前に開花する。雄花序は長さ 6cm から 8cm、柄があり、枝の先に 2～5 個垂れ下がる。雌花序は雄花序の下方に上向きにつく。	
確認状況	阿智村、南木曾町において合計 3 地点で確認された。 阿智村においては、秋季調査時に合計 1 地点 1 個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。 南木曾町においては、秋季調査時に合計 2 地点 8 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、2 地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍の確認地点は川の対岸であり、工事の実施による影響は及ばない。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (12) 重要な種の予測結果

サクラバハンノキ (カバノキ科)		
一般生態	本州（茨城・栃木・新潟県以西）、九州（宮崎県）に分布する。湿地にまれに生える落葉高木。高さ 10m から 15m、直径 20cm 程になる。花は 2～3 月に葉に先立って開く。雄花序は枝の先に 4 個から 5 個ついて下垂する。雌花序はその下方に 3～5 個つき、短い柄がある。	
確認状況	豊丘村において合計 2 地点で確認された。 豊丘村においては、夏季及び秋季調査時に合計 2 地点 100 個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (13) 重要な種の予測結果

トキホコリ (イラクサ科)		
一般生態	北海道西南部、本州（中部地方以北）に分布する。山野の湿ったところに生える一年草。高さは10cmから25cm。花期は9月から10月、雌雄同株で、雄花と雌花は同花序につき、雄花は花被片、雄しべとも4個。雌花の花被片は3個から5個。	
確認状況	豊丘村において合計1地点で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。これは改変の可能性のある範囲で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は、改変の可能性のある範囲の1地点のみであった。そのため、工事の実施により生育環境が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境は保全されない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (14) 重要な種の予測結果

ヒメウワバミソウ (イラクサ科)		
一般生態	本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。山地の陰湿地に生える多年草。高さ20cmから30cm、花期は、3月から5月。雄雌異株で、雄花期は、長さ1cmから3cmの柄があり、花被片、雄しべとも4個。雌花期は、無柄。	
確認状況	南木曾町において合計1地点で確認された。 南木曾町においては、秋季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。これは改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は改変の可能性のある範囲の近傍の1地点のみであった。この確認地点は道路沿いであり、改変の可能性のある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (15) 重要な種の予測結果

マツグミ (ヤドリギ科)		
一般生態	本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄に分布する。マツ、モミ、ツガ等の針葉樹に寄生する高さ30cmから50cmの常緑小低木。花期は、7月から8月。葉液に赤い筒状の花が1個から4個集まってつく。果実は液果で、翌年の3月から5月に赤色に熟す。	
確認状況	豊丘村、飯田市において合計13地点で確認された。 豊丘村においては、早春季及び夏季調査時に合計10地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で9地点100個体以上確認された。 飯田市においては、春季及び夏季調査時に合計3地点100個体以上が確認された。これは相当離れた範囲で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、12地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍における確認地点は工事の実施による影響の及ばない箇所であり、生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (16) 重要な種の予測結果

オオビランジ (ナデシコ科)		
一般生態	本州中部に分布する。山地の崖に生え、直立するか、しばしば垂れ下がる多年草。茎は細く、長さ 20cm から 60cm になる。花期は 7 月から 9 月。2 出集散花序状にまばらにつき、小花柄は 1cm から 1.5cm。花弁は紅紫色。	
確認状況	大鹿村において合計 7 地点で確認された。 大鹿村においては、夏季及び秋季調査時に合計 7 地点 100 個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で 2 地点約 20 個体、相当離れた地域で 5 地点約 90 個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、2 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、5 地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍における確認地点は岩壁であり、改変の可能性のある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (17) 重要な種の予測結果

サネカズラ (マツブサ科)		
一般生態	本州 (関東地方以西)、四国、九州、沖縄に分布する。山野の林縁に生える常緑つる性木本。雄雌別株又は同株。花期は 8 月。葉腋に直径約 1.5cm の黄白色の花をつける。果実は 11 月に赤く熟す。	
確認状況	飯田市において合計 2 地点で確認された。 飯田市においては、春季及び秋季調査時に合計 2 地点 5 個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で 1 地点 1 個体、改変の可能性のある範囲の近傍で 1 地点 4 個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1 地点は改変の可能性のある範囲、1 地点は改変の可能性のある範囲の近傍であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (18) 重要な種の予測結果

フクジュソウ (キンボウゲ科)		
一般生態	北海道から九州に点々と分布するが、西日本には少ない。温帯の落葉樹林下に生える多年草。花期は 3 月から 4 月。普通、開花後に茎が伸び、葉が広がる。まわりの樹木の葉、大型の草が茂る 5 月下旬には実を結んで活動を終える。江戸時代の始めから既に観賞用として栽培されており、元日草とも言われる。	
確認状況	大鹿村において合計 1 地点で確認された。 大鹿村においては、早春季調査時に合計 1 地点 100 個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (19) 重要な種の予測結果

ヒメカンアオイ (ウマノスズクサ科)		
一般生態	本州 (愛知県・岐阜県・長野県・石川県・富山県・紀伊半島)、四国 (高知県南東部) に分布する。山地の林内に生える常緑多年草。花期は 11 月から 3 月。花は淡紫褐色で直径約 1.5cm。	
確認状況	飯田市において合計 2 地点で確認された。 飯田市においては、夏季及び秋季調査時に合計 2 地点 14 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (20) 重要な種の予測結果

ヤマシヤクヤクの一つ (ボタン科)		
一般生態	(ヤマシヤクヤクの情報を記述) 本州 (関東地方以西)、四国、九州に分布する。主として落葉広葉樹林の下に生える多年草。石灰岩地を好む傾向がある。花期は 4 月から 6 月。茎頂に直径 4cm から 5cm で白色の花を上向きに半開する。	
確認状況	大鹿村、阿智村において合計 6 地点で確認された。 大鹿村においては、春季及び夏季調査時に合計 4 地点 23 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 阿智村においては、春季及び夏季調査時に合計 2 地点 2 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (21) 重要な種の予測結果

ナガミノツルキケマン (ケシ科)		
一般生態	北海道、本州、九州に分布する。山中の半日陰地にややまれに生える 1 年から越年草※。花期は 8 月から 10 月。花は、母種のツルケマンより濃い黄色で、密につく。 ※母種のツルケマンの情報を引用	
確認状況	大鹿村、南木曾町において合計 10 地点で確認された。 大鹿村においては、夏季及び秋季調査時に合計 6 地点約 64 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 南木曾町においては、夏季及び秋季調査時に合計 4 地点約 12 個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で 2 地点 7 個体、相当離れた地域で 2 地点 5 個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、2 地点は改変の可能性のある範囲、8 地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (22) 重要な種の予測結果

クモマナズナ (アブラナ科)		
一般生態	本州 (中部地方) に分布する。高山の岩上に生える多年草。花期は6月から7月。茎は株状で、高さは9cm から15cm ほどになる。花は白色。果実は短角果で、毛はない。	
確認状況	大鹿村において合計3地点で確認された。 大鹿村においては、春季調査時に合計3地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (23) 重要な種の予測結果

ミチバタガラシ (アブラナ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。日当たりの悪い庭のすみ、道端等が多い多年草。花期は5月から8月。花には普通花弁がなく、果実はまっすぐで湾曲しない。	
確認状況	大鹿村において合計1地点で確認された。 大鹿村においては、夏季調査時に合計1地点約80個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は改変の可能性のある範囲の近傍の1地点のみであった。この確認地点は改変の可能性のある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (24) 重要な種の予測結果

コウヤミズキ (マンサク科)		
一般生態	本州 (中部地方以西)、四国、九州に分布する。山地の岩地に生える落葉低木。花期は3月から4月。花は黄色で、葉が展開する前に開花する。	
確認状況	豊丘村において合計5地点で確認された。 豊丘村においては、早春季、春季及び夏季調査時に合計5地点17個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (25) 重要な種の予測結果

ツメレンゲ (バンケイソウ科)		
一般生態	本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。暖地の岩上、屋根の上等に生える多年草。花期は9月から11月。葉は細長く、先端が棘状に尖っている。	
確認状況	大鹿村、喬木村において合計10地点で確認された。 大鹿村においては、早春季、春季、夏季及び秋季調査時に合計9地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2地点約70個体、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点100個体以上、相当離れた地域で4地点100個体以上確認された。 喬木村においては、早春季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、2地点は改変の可能性のある範囲、3地点は改変の可能性のある範囲の近傍、5地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (26) 重要な種の予測結果

チチブバンケイ (バンケイソウ科)		
一般生態	本州の亜高山帯の石灰岩地に生える多年草。花期は8月。花は淡緑色又は淡黄色。よく似たチチブバンケイの葉に見られる赤色の小硬点が、本種の葉にはない。胎芽を腋生する。	
確認状況	大鹿村において合計1地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計1地点1個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (27) 重要な種の予測結果

ジンジソウ (ユキノシタ科)	
一般生態	本州 (関東地方以西)、四国、九州に分布する。山地の岩壁に生える多年草。花期は9月から11月。花弁は5個、白色で、上側3個は小さく、下側2個は長楕円形で、長さ1.2cmから2.5cm。
確認状況	大鹿村において合計3地点で確認された。 大鹿村においては、夏季及び秋季調査時に合計3地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点約100個体、相当離れた地域で2地点100個体以上確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、2地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍での確認地点は改変の可能性のある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・トンネルの工事および鉄道施設 (トンネル) の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (28) 重要な種の予測結果

ユズリハ (ユズリハ科)	
一般生態	本州 (東北地方南部以南)、四国、九州、琉球に分布する。暖地の広葉樹林内に生える常緑高木。花期は5月から6月。葉は互生し、枝先に集まってつく。
確認状況	飯田市において合計1地点で確認された。 飯田市においては、春季調査時に合計1地点1個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (29) 重要な種の予測結果

ミズマツバ (ミソハギ科)		
一般生態	本州 (中南部)、四国、九州に分布する。水田、湿地に生える高さ 3cm から 10 cm の 1 年草。花期は 8 月から 10 月。名は 3 個から 4 個ずつ輪生した葉を松の葉にたとえたもの。	
確認状況	大鹿村、飯田市、南木曾町において合計 8 地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計 3 地点 100 個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 飯田市においては、秋季調査時に合計 4 地点 100 個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で 1 地点約 100 個体、相当離れた地域で 3 地点 100 個体以上確認された。 南木曾町においては、秋季調査時に合計 1 地点約 10 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、1 地点は改変の可能性のある範囲、7 地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>トンネルの工事および鉄道施設 (トンネル) の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (30) 重要な種の予測結果

トダイアカバナ (アカバナ科)		
一般生態	本州 (長野県以西)、四国の深山に生える小さな多年草。茎は高さ 7cm から 35 cm になり、曲がった毛がある。葉は線形から披針形で先は鋭形、長さ約 1cm から 4 cm、幅 1.5mm から 5 mm、縁に細鋸歯がある。	
確認状況	大鹿村において合計 9 地点で確認された。 大鹿村においては、夏季及び秋季調査時に合計 9 地点 100 個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で 4 地点 100 個体以上、改変の可能性のある範囲の近傍で 2 地点 48 個体、相当離れた地域で 3 地点 40 個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、4 地点は改変の可能性のある範囲、2 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、3 地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>トンネルの工事および鉄道施設 (トンネル) の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>



表 8-4-2-19 (31) 重要な種の予測結果

シナノコザクラ (サクラソウ科)		
一般生態	中部地方南部の石灰岩の岩場に生える多年草。花期は4月から6月。花は紅紫色で、5cmから10cmの花茎の先に1個から5個を散形につける。イワザクラの変種である。	
確認状況	大鹿村において合計5地点で確認された。 大鹿村においては、早春季及び夏季調査時に合計5地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点100個体以上、相当離れた地域で2地点100個体以上確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、3地点は改変の可能性のある範囲の近傍、2地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍での確認地点は改変の可能性のある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>トンネルの工事および鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (32) 重要な種の予測結果

ホソバツルリンドウ (リンドウ科)		
一般生態	北海道、本州、四国に分布する。山地に生えるつる性の多年草。花は9月から10月で葉腋にふつう1個つく。葉は長さ2cmから5cm、幅5mmから10mmの披針形で、先が長く尖る。	
確認状況	大鹿村において合計4地点で確認された。 大鹿村においては、夏季及び秋季調査時に合計4地点12個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (33) 重要な種の予測結果

スズサイコ (ガガイモ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。日当たりのよいやや乾いた草地に生える多年草。花期は7月から8月。茎の先、上部の葉腋から花序を出し、直径1cmから2cmの黄褐色の花をまばらにつける。	
確認状況	南木曾町において合計1地点で確認された。 南木曾町においては、夏季調査時に合計1地点3個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (34) 重要な種の予測結果

コムラサキ (クマツヅラ科)		
一般生態	本州、四国、九州、沖縄に分布する。山麓の湿地、湿った原野に生える落葉低木。花期は7月から8月。ムラサキシキブと称して庭等に植えられているものの多くは本種である。	
確認状況	大鹿村、喬木村において合計2地点で確認された。 大鹿村においては、春季調査時に合計1地点1個体が確認された。これは改変の可能性がある範囲の近傍で確認された。 喬木村においては、春季調査時に合計1地点2個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性がある範囲の近傍、1地点は相当離れた地域であった。改変の可能性がある範囲の近傍の確認地点は河川沿いであり、改変の可能性がある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (35) 重要な種の予測結果

タチキランソウ (シソ科)		
一般生態	本州（関東西南部～東海地方）に分布する。山地に生える多年草。花期は4月から6月。花はるり色で上部の葉腋に数個ずつつき、長さ約15mm、上唇は直立し長さ2mmから3mmあって2裂する。	
確認状況	大鹿村、豊丘村、飯田市において合計35地点で確認された。 大鹿村においては、早春季、春季及び夏季調査時に合計31地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性がある範囲で3地点17個体、改変の可能性がある範囲の近傍で7地点100個体以上、相当離れた地域で21地点100個体以上確認された。 豊丘村においては、春季調査時に合計2地点3個体が確認された。その内、改変の可能性がある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で1地点2個体確認された。 飯田市においては、春季調査時に合計2地点2個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、3地点は改変の可能性がある範囲、8地点は改変の可能性がある範囲の近傍、24地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (36) 重要な種の予測結果

キセワタ (シソ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州の山地の草原に生える高さ 0.6m から 1m の多年草。花期は 8 月から 9 月。葉は洋紙質で粗い毛があり、長さ 5cm から 9 cm の狭卵形。上部の葉腋に淡紅紫色の唇形花を数個ずつつける。	
確認状況	大鹿村において合計 2 地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計 2 地点 37 個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は、改変の可能性のある範囲の近傍の 2 地点のみであった。ただし、この確認地点は草地であり、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (37) 重要な種の予測結果

アオホオズキ (ナス科)		
一般生態	本州と四国に分布する。やや湿り気のある山地の木陰に生える、高さ 30cm から 60 cm の多年草。花期は 6 月から 7 月。液果は楕円形で淡緑色、長さ 1cm から 1.3 cm。萼は花のあと先の開いた壺形となり、液果を包む。	
確認状況	南木曾町において合計 1 地点で確認された。 南木曾町においては、春季調査時に合計 1 地点 3 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (38) 重要な種の予測結果

サウトウガラシ (ゴマノハグサ科)		
一般生態	本州、四国、九州の湿地に生える1年草。花期は8月から10月。茎は直立して高さ5cmから20cm。葉は柔らかく線状披針形で先がとがり、長さ5mmから10mm、幅1mmから2mm。紅紫色の正常花の他、茎の中部以下に閉鎖花をつけることが多い。	
確認状況	大鹿村、豊丘村、飯田市、南木曾町において合計6地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計1地点6個体が確認された。これは改変の可能性がある範囲で確認された。 飯田市においては、秋季調査時に合計2地点100個体以上が確認された。これは改変の可能性がある範囲で確認された。 南木曾町においては、秋季調査時に合計2地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、3地点は改変の可能性がある範囲、3地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>トンネルの工事および鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (39) 重要な種の予測結果

クチナシグサ (ゴマノハグサ科)		
一般生態	本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。草地、乾いた林内に生える半寄生の越年草。花期は5月から6月。葉腋に淡紅紫色を帯びた唇形花を開く。	
確認状況	南木曾町において合計1地点で確認された。 南木曾町においては、春季調査時に合計1地点2個体が確認された。これは改変の可能性がある範囲の近傍で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であるが、この確認地点は工事の実施による影響の及ばない箇所であり、生育環境への影響は及ばない。</li> <li>したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (40) 重要な種の予測結果

カワヂシャ (ゴマノハグサ科)		
一般生態	本州、四国、九州、沖縄に分布する。田のあぜ、川岸及び溝のふち等、湿ったところに生える高さ 10cm から 50 cm の 2 年草。花期は 5 月から 6 月。葉腋から長さ 5cm から 15 cm の細い総状花序をだし、直径 3mm から 4 mm の小さな花を多数つける。	
確認状況	喬木村、飯田市において合計 2 地点で確認された。 喬木村においては、夏季調査時に合計 1 地点 1 個体が確認された。これは改変の可能性がある範囲の近傍で確認された。 飯田市においては、春季調査時に合計 1 地点 25 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1 地点は改変の可能性がある範囲の近傍、1 地点は相当離れた地域であった。改変の可能性がある範囲の近傍における確認地点は工事の実施による影響の及ばない箇所であり、生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (41) 重要な種の予測結果

ハグロソウ (キツネノマゴ科)		
一般生態	本州 (関東以西)、四国、九州に分布する。山地の木陰に生える多年草。花期は 9 月から 10 月。葉は暗緑色。枝の先又は上部の葉腋に花柄をだし、その先に 2 個の葉状の苞に包まれた紅紫色の花をつける。	
確認状況	飯田市において合計 1 地点で確認された。 飯田市においては、夏季調査時に合計 1 地点 100 個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (42) 重要な種の予測結果

キキョウ (キキョウ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。日当たりのよい草地に生える、高さ 0.5m から 1m の多年草。花期は 7 月から 9 月。葉は互生し、長さ 4cm から 7 cm の狭卵形で鋭い鋸歯がある。茎の先に青紫色の花が数個つく。	
確認状況	喬木村において合計 1 地点で確認された。 喬木村においては、夏季調査時に合計 1 地点 2 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (43) 重要な種の予測結果

アキノハハコグサ (キク科)		
一般生態	本州、四国、九州のやや乾いた山地に生える1年草。花期は9月から11月。茎は高さ30cmから60cmとなり、上部で枝分かれます。葉は披針形で長さ4cmから5cm、裏面は綿毛が密生して白いが、表面は緑色である。	
確認状況	豊丘村において合計4地点で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計4地点30個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点15個体、相当離れた地域で3地点15個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、3地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍における確認地点は道路沿いであり、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (44) 重要な種の予測結果

ツツガキヤマジノギク (キク科)		
一般生態	長野県の天竜川流域に生える、ヤマジノギクの変種の2年草。花期は8月から11月。舌状花が筒状になったり、不規則に切れこんだり不安定な点、舌状花が変冠毛である点がヤマジノギクと異なる。	
確認状況	喬木村において合計1地点で確認された。 喬木村においては、秋季調査時に合計1地点1個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (45) 重要な種の予測結果

カワラニガナ (キク科)		
一般生態	本州（中部地方以北）に分布する。河原の礫地、砂地に生える、高さ 15cm から 30 cm の多年草。全体に毛はなく、白っぽい。上部の枝先に直径 1.5～2 cm の淡黄色の頭花をつける。	
確認状況	大鹿村、喬木村において合計 11 地点で確認された。 大鹿村においては、春季、夏季及び秋季調査時に合計 10 地点 100 個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で 3 地点 100 個体以上、改変の可能性のある範囲の近傍で 2 地点 30 個体、相当離れた地域で 5 地点 100 個体以上確認された。 喬木村においては、春季調査時に合計 1 地点 32 個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、3 地点は改変の可能性のある範囲、3 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、5 地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (46) 重要な種の予測結果

カワラウスユキソウ (キク科)		
一般生態	長野県の石灰岩の岩壁、岩礫斜面、河原に生える多年草。花期は 7 月から 8 月。葉の両面に綿毛が密生するウスユキソウの石灰岩変型で、茎の高さは 9cm から 40 cm になる。	
確認状況	大鹿村において合計 14 地点で確認された。 大鹿村においては、春季、夏季及び秋季調査時に合計 14 地点 100 個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で 1 地点約 80 個体、改変の可能性のある範囲の近傍で 5 地点 100 個体以上、相当離れた地域で 8 地点 100 個体以上確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点のうち、1 地点は改変の可能性のある範囲、5 地点は改変の可能性のある範囲の近傍、8 地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (47) 重要な種の予測結果

シュウブソウ (キク科)		
一般生態	本州（関東以西）、四国、九州、沖縄の山林に生える多年草。花期は8～10月。茎は高さ50cmから100cm、主幹は立ち、先の生長がとまって、2本から4本の枝に分かれて開出する。	
確認状況	南木曾町において合計4地点で確認された。 南木曾町においては、秋季調査時に合計4地点21個体が確認された。その内、改変の可能性がある範囲で1地点3個体、改変の可能性がある範囲の近傍で1地点10個体、相当離れた地域で2地点8個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性がある範囲、1地点は改変の可能性がある範囲の近傍、2地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (48) 重要な種の予測結果

イナトウヒレン (キク科)		
一般生態	長野県下伊那郡の蛇紋岩地に特産する高さ85cmほどの多年草。花期は9月。根生葉、茎の下部の葉は葉柄をもつ線状披針形。茎の中から上部の葉も線状披針形だが、葉柄が不明瞭で茎に狭く沿下する。	
確認状況	大鹿村において合計7地点で確認された。 大鹿村においては、春季及び秋季調査時に合計7地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>



表 8-4-2-19 (49) 重要な種の予測結果

ウリカワ (オモダカ科)		
一般生態	<p>全国に分布する。主に水田に生育する沈水～抽水性～湿生の小形の多年草。花期は7月から9月。葉は根生し、長さ4cmから18cm、幅3mmから10mmの線形でやや厚みがある。</p>	
確認状況	<p>大鹿村、豊丘村、喬木村、飯田市において合計27地点で確認された。</p> <p>大鹿村においては、夏季及び秋季調査時に合計9地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で5地点100個体以上、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点100個体以上、相当離れた地域で2地点100個体以上確認された。</p> <p>豊丘村においては、夏季及び秋季調査時に合計5地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。</p> <p>喬木村においては、秋季調査時に合計4地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点100個体以上、相当離れた地域で3地点100個体以上確認された。</p> <p>飯田市においては、夏季及び秋季調査時に合計9地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2地点100個体以上、改変の可能性のある範囲の近傍で4地点100個体以上、相当離れた地域で3地点約80個体確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、7地点は改変の可能性のある範囲、7地点は改変の可能性のある範囲の近傍、13地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・トンネルの工事および鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (50) 重要な種の予測結果

ササバモ (ヒルムシロ科)		
一般生態	<p>北海道、本州、四国、九州に分布する。湖沼、河川、水路等に群生する沈水から浮葉植物。花期は7月から9月。葉身は長楕円状線形から狭披針形、長さ5cmから30cm、幅1cmから2.5cm。水が引いても陸生形を形成してよく生育する。</p>	
確認状況	<p>豊丘村、喬木村において合計8地点で確認された。</p> <p>豊丘村においては、秋季調査時に合計5地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。</p> <p>喬木村においては、夏季及び秋季調査時に合計3地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点100個体以上、相当離れた地域で2地点100個体以上確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、7地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍における確認地点は水路であり、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (51) 重要な種の予測結果

ホソバミズヒキモ (ヒルムシロ科)		
一般生態	全国に分布する。ため池、水路などに群生する小型の浮葉植物。花期は、6月から9月。花茎12mmから20mm、花穂は長さ9mmから13mm、花は間隔をあけて3段から4段につき、4心皮。	
確認状況	飯田市、阿智村において合計2地点で確認された。 飯田市においては、夏季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 阿智村においては、秋季調査時に合計1地点12個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (52) 重要な種の予測結果

ヤナギモ (ヒルムシロ科)		
一般生態	全国に分布する。河川、水路、稀にため池等にも生育する常緑性の沈水植物。花期は5月から9月。花茎の長さ2cmから5cm、花穂の長さ6mmから12mm、密花、4心皮。開花は普通だが、結実する場所は限られる。	
確認状況	番木村において合計2地点で確認された。 番木村においては、春季及び秋季調査時に合計2地点40個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点20個体、相当離れた地域で1地点20個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、1地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍における確認地点は水路であり、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (53) 重要な種の予測結果

イトモ (ヒルムシロ科)		
一般生態	全国の湖沼、ため池、水路等に生育する小型の沈水植物。西日本では稀。花期は、6月から8月。花茎の長さ1cmから2.5cm、花穂の長さは3mmから5mm、花は2段に分かれず固まって付く。しばしば水中で自家受粉して結実する。	
確認状況	豊丘村において合計1地点で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (54) 重要な種の予測結果

アイノコイトモ (ヒルムシロ科)		
一般生態	全国に分布する。河川、水路、稀に湖沼、ため池にも生育する沈水植物。花期は7月から9月。花茎の長さ1cmから2cm、花穂の長さ2mmから5mmで数花。ただし、花は開かない場合が多く、開いても花粉が不稔で結実しない。	
確認状況	豊丘村、喬木村、飯田市において合計10地点で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 喬木村においては、秋季調査時に合計2地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性がある範囲の近傍で1地点100個体以上、相当離れた地域で1地点20個体確認された。 飯田市においては、夏季及び秋季調査時に合計7地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性がある範囲で2地点54個体、改変の可能性がある範囲の近傍で1地点2個体、相当離れた地域で4地点100個体以上確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、2地点は改変の可能性がある範囲、2地点は改変の可能性がある範囲の近傍、6地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・トンネルの工事および鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (55) 重要な種の予測結果

ホッソモ (イバラモ科)		
一般生態	北海道(稀)、本州、四国、九州の貧栄養のため池、山間の水田に多い沈水植物。花期は、7月から9月。雄花、雌花とも苞鞘に包まれず裸出している。	
確認状況	豊丘村において合計1地点で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計1地点約50個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (56) 重要な種の予測結果

ヤマユリ (ユリ科)		
一般生態	本州(近畿地方以北)に分布する。山地、丘陵に生える多年草。花期は、7月から8月。花は数個から多いものでは20個程が横向きに開く。	
確認状況	豊丘村、飯田市において合計18地点で確認された。 豊丘村においては、春季、夏季及び秋季調査時に合計17地点44個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で5地点8個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で11地点35個体確認された。 飯田市においては、秋季調査時に合計1地点1個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、5地点は改変の可能性のある範囲、2地点は改変の可能性のある範囲の近傍、11地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (57) 重要な種の予測結果

ヒメシャガ (アヤメ科)		
一般生態	北海道(西南部)、本州、四国、九州に分布する。山地の岩石地に生える多年草。花期は、5月から6月。花茎は高さ約30cm。花は直径約4cm、淡紫色で、外花被片に黄色の斑紋と紫色の脈がある。	
確認状況	大鹿村において合計8地点で確認された。 大鹿村においては、春季調査時に合計8地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点約100個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点100個体以上、相当離れた地域で6地点100個体以上確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性のある範囲、1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、6地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (58) 重要な種の予測結果

カキツバタ (アヤメ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。稀に水湿地に生える多年草。花期は、6月。花茎は高さ30cmから90cm、紫色の花を2個から3個つける。	
確認状況	豊丘村において合計1地点で確認された。 豊丘村においては、夏季調査時に合計1地点約60個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点は、改変の可能性のある範囲の1地点のみであった。そのため、工事の実施により生育環境が消失する可能性がある。</li> <li>したがって、生育環境は保全されない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (59) 重要な種の予測結果

ホシクサ (ホシクサ科)		
一般生態	本州、四国、九州、沖縄に分布する。水田、湿地に生える1年草。花期は、8月から9月。花茎は高さ4cmから15cmになり、先端に灰白色から淡灰褐色の頭花を1個つける。	
確認状況	大鹿村、豊丘村、飯田市、南木曾町において合計6地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計1地点5個体が確認された。これは改変の可能性がある範囲の近傍で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。これは改変の可能性がある範囲で確認された。 飯田市においては、秋季調査時に合計2地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性がある範囲で1地点約30個体、相当離れた地域で1地点100個体以上確認された。 南木曾町においては、秋季調査時に合計2地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点の内、2地点は改変の可能性がある範囲、1地点は改変の可能性がある範囲の近傍、3地点は相当離れた地域であった。豊丘村内での確認地点は改変の可能性がある範囲の1地点のみであり、工事の実施により生育環境が消失する可能性がある。</li> <li>したがって、生育環境は保全されない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>トンネルの工事および鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (60) 重要な種の予測結果

アシカキ (イネ科)		
一般生態	本州、四国、九州、琉球に分布する。水湿地に生える多年草。花期は、8月から10月。円錐花序は直立、長さ5cmから10cmのものが多く、それぞれの節に1本ずつ、計数本から10本内外の枝を分け、それぞれの枝は基部近くから先まで計8個から15個のほどの小穂をつける。	
確認状況	飯田市において合計1地点で確認された。 飯田市においては、夏季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>トンネルの工事および鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (61) 重要な種の予測結果

ヒロハノハネガヤ (イネ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。山地の草原、林中に生える多年草。花期は8月から9月。円錐花序は直立し、長さ10cmから25cm、少数の枝を分けるが枝は直立、小穂は花軸に圧着するので、時には総状花序の様に見える。	
確認状況	豊丘村において合計2地点で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計2地点約40個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (62) 重要な種の予測結果

ヒトツバテンナンショウ (サトイモ科)		
一般生態	本州(中部地方以東)に分布する。暗い林縁、林床に分布する多年草。花期は5月から6月。仏炎苞は淡緑色で光沢があり、舷部の内側中央に山形又は八字形の濃紫色の横縞がある。	
確認状況	豊丘村において合計2地点で確認された。 豊丘村においては、春季調査時に合計2地点2個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (63) 重要な種の予測結果

アゼナルコ (カヤツリグサ科)		
一般生態	本州、四国、九州、沖縄に分布する。川岸、田のあぜ等の湿地に生える多年草。花期は5月から6月。小穂は4個から6個つき、長さ3cmから6cmの円柱形。頂小穂は、上部に雌花、下部に雄花がつき、雄花の部分は細い。他の小穂には雌花だけつく。	
確認状況	大鹿村において合計1地点で確認された。 大鹿村においては、夏季調査時に合計1地点9個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は、改変の可能性のある範囲の1地点のみであった。そのため、工事の実施により生育環境が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境は保全されない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (64) 重要な種の予測結果

ヒナスゲ (カヤツリグサ科)	
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。海岸、湖沼等の砂質の湿地に生育する多年草。果期は5月から7月。小穂は雌雄性で上部に雄花、基部に雌花をつけ、長さ5mmから8mm。
確認状況	豊丘村において合計1地点で確認された。 豊丘村においては、早春季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。これは改変の可能性のある範囲で確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は、改変の可能性のある範囲の1地点のみであった。そのため、工事の実施により生育環境が消失する可能性がある。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全されない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (65) 重要な種の予測結果

クグガヤツリ (カヤツリグサ科)	
一般生態	本州 (関東、中部地方以西)、四国、九州、琉球列島、小笠原に分布する。低地の路傍に生育する1年草。花期は8月から10月。
確認状況	南木曾町において合計1地点で確認された。 南木曾町においては、秋季調査時に合計1地点1個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (66) 重要な種の予測結果

ギンラン (ラン科)	
一般生態	本州、四国、九州に分布する。林内に生える多年草。花期は5月から6月。茎は高さ10cmから25cmで、茎頂に白色の花を数個つける。
確認状況	大鹿村、阿智村において合計3地点で確認された。 大鹿村においては、春季及び夏季調査時に合計2地点3個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で1地点2個体確認された。 阿智村においては、春季調査時に合計1地点2個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、2地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍における確認地点は、改変の可能性のある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (67) 重要な種の予測結果

アオフトバラン (ラン科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。クリ帯のスギ林等に生える多年草。花期は7月から8月。花茎は10cmから25cmで、花は淡緑色。	
確認状況	南木曾町において合計1地点で確認された。 南木曾町においては、春季調査時に合計1地点約30個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (68) 重要な種の予測結果

ウチョウラン (ラン科)		
一般生態	本州 (関東地方以西)、四国、九州に分布する。山地の湿った岩壁、人家の屋根等に生える。花期は6月から8月。茎は高さ7cmから20cmで、茎上部に紅紫色、時に白色の花を数個、一方に向けてつける。	
確認状況	大鹿村において合計7地点で確認された。 大鹿村においては、夏季調査時に合計7地点20個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で6地点19個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、6地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍における確認地点は岩壁であり、改変の可能性のある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・トンネルの工事および鉄道施設 (トンネル) の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (69) 重要な種の予測結果

コケイラン (ラン科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。山地のやや湿った林内に生える多年草。花期は5月から6月。花茎は高さ30cmから40cmで、多数の花を総状につける。	
確認状況	阿智村、南木曾町において合計7地点で確認された。 阿智村においては、春季調査時に合計4地点22個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点2個体、相当離れた地域で3地点20個体確認された。 南木曾町においては、春季及び秋季調査時に合計3地点12個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点6個体、相当離れた地域で2地点6個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性のある範囲、1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、5地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>



表 8-4-2-19 (70) 重要な種の予測結果

オオバノトンボソウ (ラン科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。シイ・カン帯からクリ帯の雑木林に生える多年草。花期は6月から7月。茎は高さ30cmから60cmで、花は淡黄緑色。	
確認状況	豊丘村、飯田市、南木曾町において合計20地点で確認された。 豊丘村においては、春季及び夏季調査時に合計7地点26個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 飯田市においては、春季及び夏季調査時に合計11地点41個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点10個体、相当離れた地域で9地点31個体確認された。 南木曾町においては、春季及び秋季調査時に合計2地点12個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、2地点は改変の可能性のある範囲の近傍、18地点は相当離れた地域であった。改変の可能性のある範囲の近傍における確認地点は改変の可能性のある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (71) 重要な種の予測結果

カヤラン (ラン科)		
一般生態	本州 (岩手県以南)、四国、九州に分布する。基部から多数の根をだし、樹幹に着生する常緑性の多年草。花期は4月から5月。葉腋から細い花茎を出し、数個の黄色花を総状につける。	
確認状況	南木曾町において合計1地点で確認された。 南木曾町においては、早春季調査時に合計1地点8個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (72) 重要な種の予測結果

ヤクシマヒメアリドオシラン (ラン科)		
一般生態	本州、九州、琉球列島 (徳之島、沖縄島) に分布する。常緑樹林内に生える多年草。花期は8月。	
確認状況	南木曾町において合計1地点で確認された。 南木曾町においては、夏季調査時に合計1地点8個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (73) 重要な種の予測結果

オオミズゴケ (ミズゴケ科)		
一般生態	北海道から九州まで全国に広く分布する。山地の湿った地上、中間湿原に大きな群落を作る。ミズゴケ属としては大型、茎は一般に長さ 10cm 以上で、頂端に多数の枝が集まる。	
確認状況	豊丘村において合計 2 地点で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計 2 地点 100 個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 ミズゴケ類は、長野県レッドデータブックでは属として指定されている。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (74) 重要な種の予測結果

カサゴケモドキ (ハリガネゴケ科)		
一般生態	国内では北海道から九州に分布する。一般には、山地の林床下の腐植土上に群落を作る。地下を伸びる匍匐茎から直立茎が仮軸分枝状に立ち上がる。直立茎は上部で傘状に多数の葉をつける。	
確認状況	大鹿村、南木曾町において合計 3 地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計 1 地点 3 個体が確認された。これは改変の可能性がある範囲の近傍で確認された。 南木曾町においては、秋季調査時に合計 2 地点約 60 個体が確認された。これは改変の可能性がある範囲で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、2 地点は改変の可能性がある範囲、1 地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (75) 重要な種の予測結果

イボタチヒダゴケ (タチヒダゴケ科)		
一般生態	国内では本州に分布する。高山の山頂付近の岩上に生育する。植物体は長さ 4cm ほど、枝分かかれは少ない。上部の葉は基部は卵形で上部は披針形、先端は長くとがり、長さ 3.5mm 程度。	
確認状況	豊丘村において合計 1 地点で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計 1 地点 100 個体以上が確認された。これは改変の可能性がある範囲の近傍で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は、改変の可能性がある範囲の近傍の 1 地点のみであった。この確認地点は河原の裸地であり、改変の可能性がある範囲から相当程度離れているため、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (76) 重要な種の予測結果

イブキンモウゴケ (タチヒダゴケ科)		
一般生態	国内に本州中部以西から九州に分布する。開けた場所の灌木の幹、枝、時に山間溪流沿いの樹幹に、密で小さな群落をつくって生育する。全形はカラフトキンモウゴケに似ている。蒴柄が短く 1mm ほどしかないことが特徴。	
確認状況	大鹿村において合計 1 地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計 1 地点 100 個体以上が確認された。これは改変の可能性のある範囲で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は、改変の可能性のある範囲の 1 地点のみであった。そのため、工事の実施により生育環境が消失する可能性がある。</li> <li>・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することにより、本種の生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全されない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (77) 重要な種の予測結果

レイシゴケ (ヒゲゴケ科)		
一般生態	国内では北海道から九州に分布する。石灰岩露頭の岩隙に小さな群落をつくって生育する。常緑性。冷温帯性。植物体は小形で糸状。まばらに、あるいは密に絡まった灰緑色の塊となる。	
確認状況	大鹿村において合計 2 地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計 2 地点 100 個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (78) 重要な種の予測結果

カビゴケ (クサリゴケ科)		
一般生態	国内では本州 (福島県以南) から琉球に分布する。太平洋側の常緑樹林で溪谷等の生葉上に着生する。淡緑色。茎は長さ 5mm から 10mm。背片は離生し、背側に偏向し、長楕円形、長さ約 0.4mm。花被は側枝につく。	
確認状況	南木曾町において合計 1 地点で確認された。 南木曾町においては、秋季調査時に合計 1 地点 100 個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (79) 重要な種の予測結果

ウキゴケ (ウキゴケ科)		
一般生態	国内では北海道から九州・沖縄に分布する。低地の湧水、貧栄養の水が流れる用水路等で半ば水に浸ったようにして、あるいは湿った土上等に生育する。葉状体は幅の狭い葉状で緑色、規則的に二叉状に枝分かれして長く伸びる。	
確認状況	豊丘村において合計 1 地点で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計 1 地点 100 個体以上が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境に変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (80) 重要な種の予測結果

アカウラカワイワタケ (アナイボゴケ科)		
一般生態	北半球に広く分布し、北海道、本州、四国、九州に分布する。多くは山地の窪み地形、沢沿いの岩上に着生する。地衣体は葉状かつ単葉でほぼ円形に広がり径 2~4 cm となる。背面はやや灰色の粉霜を被り、腹面は淡赤褐色で偽根がない。	
確認状況	大鹿村において合計 2 地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計 2 地点 3 コロニーが確認された。その内、改変の可能性のある範囲で 1 地点 2 コロニー、改変の可能性のある範囲の近傍で 1 地点 1 コロニー確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1 地点は改変の可能性のある範囲、1 地点は改変の可能性のある範囲の近傍であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (81) 重要な種の予測結果

シラチャウメノキゴケ (ウメノキゴケ科)		
一般生態	本州から九州（四国を除く）まで広範囲に分布している。暖温帯の低地の樹幹樹皮、低木の枝に着生する。地衣体は灰白又は白茶色で、周辺部は浅く（5～10mm）切れ込んで列片状になる。	
確認状況	豊丘村、喬木村、飯田市において合計3地点で確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計1地点2個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲で確認された。 喬木村においては、秋季調査時に合計1地点2個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。 飯田市においては、秋季調査時に合計1地点3個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1地点は改変の可能性のある範囲、2地点は相当離れた地域であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (82) 重要な種の予測結果

ヒカゲウチキウメノキゴケ (ウメノキゴケ科)		
一般生態	本種を異名としたコナウチキウメノキゴケは、北アメリカ、日本国内の本州から九州まで分布する。現在の独立種としての国内分布、県内分布域には、詳しいデータがない。低山地帯から平地の岩上、樹皮上に着生する。地衣体は葉状で、径10cmにも達し、多数の裂片からなる。	
確認状況	大鹿村、豊丘村、喬木村において合計4地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計1地点約1個体が確認された。これは、改変の可能性のある範囲で1地点1個体確認された。 豊丘村においては、秋季調査時に合計1地点13個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲で確認された。 喬木村においては、秋季調査時に合計2地点7個体が確認された。これは改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、2地点は改変の可能性のある範囲、2地点は改変の可能性のある範囲の近傍であった。そのため、工事の実施により生育環境の一部が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (83) 重要な種の予測結果

オオキゴケ (キゴケ科)		
一般生態	台湾、中国大陸、フィリピンに分布。国内では本州（関東以南）から九州まで分布する。低山地から山地帯にかけての岩上に着生する。地衣体は樹枝状、擬子柄は直立する。	
確認状況	飯田市、阿智村において合計 2 地点で確認された。 飯田市においては、秋季調査時に合計 1 地点 3 個体が確認された。これは改変の可能性がある範囲の近傍で確認された。 阿智村においては、秋季調査時に合計 1 地点 2 個体が確認された。これは相当離れた地域で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点の内、1 地点は改変の可能性がある範囲の近傍、1 地点は相当離れた地域であった。改変の可能性がある範囲の近傍における確認地点は岩壁であり、工事の実施による生育環境への影響は及ばない。</li> <li>・したがって、生育環境は保全される。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

表 8-4-2-19 (84) 重要な種の予測結果

イワタケ (イワタケ科)		
一般生態	東アジアの温帯域の中国、朝鮮半島、ロシア（沿海州）、さらに北海道から九州まで分布する。山地から低山地の、主として垂直面の石英質岩上面に着生する。地衣体は葉状かつ単葉で灰褐色。腹面は暗黒色。	
確認状況	大鹿村において合計 1 地点で確認された。 大鹿村においては、秋季調査時に合計 1 地点 1 コロニーが確認された。これは改変の可能性がある範囲で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の 1 地点のみであった。そのため、工事の実施により生育環境が消失する可能性がある。</li> <li>・したがって、生育環境は保全されない。</li> </ul>
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生育環境の変化は生じない。</li> <li>・したがって、生育環境に変化は生じない。</li> </ul>

#### 1) 文献でのみ記載がある重要な種及び群落の生育環境への影響

文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性が高いと考えられる重要な種及び群落の内、現地調査で確認されなかった重要な種は、植物で 608 種類、群落で 1 群落、蘚苔類で 22 種類、地衣類で 3 種類であった。

このうち、ヒメスギラン、マンネンスギ、ヤマハナワラビ、エゾフユノハナワラビ、フタツキジノオ、ハイホラゴケ、チチブホラゴケ、キヨスミコケシノブ、オオフジシダ、アイフジシダ、ホラシノブ、イヌイワガネソウ、シシラン、ナカミシシラン、オオバノハチジョウシダ、マツザカシダ、セフリイノモトソウ、ヤマドリトラノオ、ヌリトラノオ、オクタマシダ、イヌチャセンシダ、アオチャセンシダ、クモイワトラノオ、オオカナワラビ、ナンタイシダ、ツクシヤブソテツ、キノクニベニシダ、イワカゲワラビ、エンシュウベニシダ、ハコネオオクジャク、タカヤマナライシダ、カタイノデ、ヤシャイノデ、トヨグチ

イノデ、フジイノデ、オニイノデ、ヒメカナワラビ、ドウリョウイノデ、ハコネイノデ、ハタジュクイノデ、フナコシイノデ、カタイノデモドキ、ナメライノデ、オンガタイノデ、ツヤナシイノデモドキ、タカオイノデ、ゴテンバイノデ、ホシダ、ヨコグラヒメワラビ、ツクシヤワラシダ、テバコワラビ、ユノツルイヌワラビ、ヘビヤマイヌワラビ、タカオシケチシダ、ナヨシダ、ムクゲシケシダ、ウスバミヤマノコギリシダ、キタノミヤマシダ、ヘラシダ、ノコギリシダ、ダンドシダ、ウサギシダ、オオエビラシダ、ミヤマウラボシ、ウロコノキシノブ、イナノキシノブ、クリハラン、アオネカズラ、ヤツシロヒトツバ、イイダモミ、イラモミ、ヒメマツハダ、ジゾウカンバ、アカガシ、ナラガシワ、ムクノキ、タチゲヒカゲミズ、コケミズ、ミヤマツチトリモチ、ハルトラノオ、マルミノヤマゴボウ、タガソデソウ、センジュガンピ、エンビセンノウ、シラオイハコベ、エゾオオヤマハコベ、ミドリアカザ、オオヤマレンゲ、ヤブニッケイ、シロダモ、レイジンソウ、オンタケブシ、アズマレイジンソウ、ミチノクフクジュソウ、ヒメイチゲ、ミスミソウ、イチリンソウ、アズマイチゲ、サンリンソウ、レンゲショウマ、ミヤマハンショウヅル、カザグルマ、オウレン、バイカオウレン、サバノオ、チチブシロカネソウ、トウゴクサバノオ、ハイキツネノボタン、セツブンソウ、マンセンカラマツ、ミヤマカラマツ、ヘビノボラス、オオバメギ、サンカヨウ、マルバウマノスズクサ、オオバウマノスズクサ、ヤマシャクヤク、ベニバナヤマシャクヤク、ヒメシャラ、タコアシオトギリ、エゾエンゴサク、ツルキケマン、ミツバコンロンソウ、キリシマミズキ、アオベンケイ、キバナハナネコノメ、ハナネコノメ、ヒダボタン、タチネコノメソウ、ヤワタソウ、ヤシヤビシャク、エゾスグリ、トガスグリ、チョウセンキンミズヒキ、ミネザクラ、アカツキザクラ、リンボク、カシオザクラ、チチブザクラ、ナルサワザクラ、ニッコウザクラ、サナギイチゴ、キソキイチゴ、コガネイチゴ、ハスノハイチゴ、ミヤマモミジイチゴ、コジキイチゴ、ミヤマタニワタシ、ヤマフジ、オオヤマカタバミ、コフウロ、ヒメナツトウダイ、エンシュウツリフネソウ、キソオニツルツゲ、ムラサキマユミ、ゴンズイ、ツゲ、アマヅル、ヒメミヤマスミレ、キクバワカミヤスミレ、ヒラツカスミレ、アソキクバスミレ、キクバヒナスミレ、フギレサクラスミレ、ワカミヤスミレ、フギレアカネスミレ、ウンゼンスミレ、コワシミズスミレ、キタザワスミレ、サクラマルバスミレ、アカネマルバスミレ、オノスミレ、コミヤマスミレ、ナギソスミレ、ナガバタチツボスミレ、カクマスミレ、アカネノジスミレ、フギレミヤマスミレ、ミヤマスミレ、シコクスミレ、シナノスミレ、マルバヒナスミレ、オサカスミレ、フクザワスミレ、フィリヤシロスミレ、マキノヒナスミレ、ヒメスミレサイシン、フィリシハイマキノスミレ、フィリシハイヒナスミレ、サクラヒカゲスミレ、スワタチツボスミレ、スワキクバスミレ、コマガタケスミレ、スルガキクバスミレ、キソスミレ、アスマスミレ、スワスミレ、ニオイエゾノタチツボスミレ、マルバタチツボ、フィリカツラギスミレ、オクハラスミレ、ミツモリスミレ、オクタマスミレ、フィリフギレシハイスミレ、カワギシスミレ、カラスウリ、ミヤマウコギ、ツボクサ、オオバチドメ、オオカサモチ、ヤマナシウマノミツバ、クロバナウマノミツバ、ナンカイイワカガミ、オオイワカガミ、ウメガサソウ、シャクジョウソウ、ギンリョウソウ、ベニバナイチヤクソウ、エゾイチヤクソウ、マルバイイチヤクソウ、サラサドウダン、ベニドウダン、チチブドウダン、コアブラ

ツツジ、イワナンテン、ウスギヨウラク、ウラジロヨウラク、アズマシャクナゲ、ミツバツツジ、サツキ、レンゲツツジ、ヒカゲツツジ、ダイセンミツバツツジ、アカヤシオ、シロヤシオ、オオヤマツツジ、コメツツジ、トウゴクミツバツツジ、ハンノウツツジ、ムサシミツバツツジ、ミヤコツツジ、クロマメノキ、ヒトツバタゴ、チチブリンドウ、ビンゴムグラ、ツルアリドオシ、サワルリソウ、エゾムラサキ、ルリソウ、ハイルリソウ、カリガネソウ、カイジンドウ、フトボナギナタコウジュ、シモバシラ、マネキグサ、ヤマジオウ、ミカエリソウ、ヤマジソ、アキチョウジ、タカクマヒキオコシ、イヌヤマハッカ、ナツノタムラソウ、ダンドタムラソウ、キソキバナアキギリ、エゾタツナミソウ、ハダカホオズキ、タカネママコナ、ツシマママコナ、ハンカイシオガマ、イナサツキヒナノウスツボ、オオヒキヨモギ、クガイソウ、ヤマウツボ、ケヤマウツボ、キヨスミウツボ、ベニバナノツクバネウツギ、スルガヒョウタンボク、クロミノウグイスカグラ、イボタヒョウタンボク、ニッコウヒョウタンボク、アラゲヒョウタンボク、ソクズ、ゴマギ、キバナウツギ、キンレイカ、ツルカノコソウ、フクシマシャジン、イワシャジン、ヤマホタルブクロ、バアソブ、タニギキョウ、タテヤマギク、カニコウモリ、ミヤマコウモリソウ、オクヤマコウモリ、テバコモミジガサ、ヒメガンクビソウ、リュウノウイワインチン、ハリカガノアザミ、リョウノウアザミ、ヒダアザミ、ワタムキアザミ、ムラサキニガナ、マルバダケブキ、オオモミジガサ、ミヤマヨメナ、アサマヒゴタイ、タカオヒゴタイ、ヤマボクチ、シライトソウ、ツバメオモト、スズラン、ショウジョウバカマ、ササユリ、クルマユリ、クルマバツクバネソウ、サクライソウ、ヒロハノユキザサ、オオバタケシマラン、ホトトギス、タマガワホトトギス、エンレイソウ、シロバナエンレイソウ、オカスズメノヒエ、イワタケソウ、ヒロハノコヌカグサ、ヒゲノガリヤス、ヒロハヌマガヤ、ヤマムギ、エゾムギ、トウササクサ、チャボチヂミザサ、フォーリーガヤ、ユモトマムシグサ、ウラシマソウ、ザゼンソウ、アワボスゲ、ヤマオオイトスゲ、サヤマスゲ、ゴンゲンスゲ、マメヅタラン、ムギラン、エビネ、キンセイラン、ナツエビネ、キソエビネ、サルメンエビネ、ホテイラン、キンラン、アオチドリ、コアツモリソウ、キバナノアツモリソウ、クマガイソウ、ホテイアツモリ、アツモリソウ、イチヨウラン、セッコク、コイチヨウラン、エゾスズラン、カキラン、トラキチラン、アオキラン、ツチアケビ、オニノヤガラ、アケボノシュスラン、ベニシュスラン、ツリシュスラン、ヒメミヤマウズラ、ミヤマウズラ、ノビネチドリ、ミヤマモジズリ、セイタカスズムシソウ、スズムシソウ、フタバラン、ヒメフタバラン、ミヤマフタバラン、ホザキイチヨウラン、アリドオシラン、ヒメムヨウラン、サカネラン、ムカゴサイシン、ヨウラクラン、ヒナチドリ、ツレサギソウ、オオキノチドリ、ナガバキノチドリ、キノチドリ、ベニカヤラン、モミラン、クモラン、ヒロハトンボソウ、キバナノショウキラン、シナノショウキラン、ショウキラン、クマノチョウジゴケ、ムチエダイトゴケ、ムカシヒシヤクゴケ、ミヤマミズゼニゴケ、ヨコワサルオガセ、ヒゲサルオガセ、フイリツメゴケの401種（植物394種、蘚苔類4種、地衣類3種）は、山地や里地・里山の樹林が主な生育環境である。

コハナヤスリ、ウナギツカミ、ヒメタデ、ヤナギヌカボ、サデクサ、ヌカボタデ、ノダイオウ、エンコウソウ、オキナグサ、イワカラマツ、ウマノスズクサ、アカテンオトギリ、



アゼオトギリ、ジロボウエンゴサク、ミヤマハタザオ、ハナチダケサシ、シラヒゲソウ、ウメバチソウ、タコノアシ、シモツケソウ、アカバナシモツケ、シロバナノヘビイチゴ、モメンヅル、タヌキマメ、レンリソウ、イヌハギ、グンナイフウロ、イヨフウロ、ビッチュウフウロ、マツバニンジン、ノウルシ、ニシキソウ、ヒナノキンチャク、シバタカエデ、ハナノキ、アルガスミレ、ヤシュウスミレ、ミハシスミレ、キリガミネスミレ、ヒメキカシグサ、ミズキカシグサ、エゾアカバナ、ミシマサイコ、ノジトラノオ、クリンソウ、サクラソウ、クロミノニシゴリ、アイナエ、リンドウ、コケリンドウ、フナバラソウ、コバノカモメヅル、シロバナカモメヅル、ハナムグラ、フタバムグラ、イヌムラサキ、ムラサキ、ミヤマクマバナ、イブキジャコウソウ、オオマルバノホロシ、アブノメ、ツクシコゴメグサ、イナコゴメグサ、キクモ、ウリクサ、スズメハコベ、トモエシオガマ、ゴマノハグサ、イヌノフグリ、オオナンバンギセル、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ヌマダイコン、シオン、キセルアザミ、アズマギク、フジバカマ、ヤマジノギク、スイラン、タカサゴソウ、キクバヂシバリ、オオユウガギク、カントウヨメナ、ウスユキソウ、オタカラコウ、アカイシコウゾリナ、オオニガナ、ホクチアザミ、マルバミヤコアザミ、ヒメヒゴタイ、キクアザミ、ホクチキクアザミ、コウリンカ、ヒロハタンポポ、ウスギタンポポ、オナモミ、サジオモダカ、アギナシ、スブタ、ヤナギスブタ、ミズオオバコ、ホソバヒルムシロ、コバノヒルムシロ、ヒロハノエビモ、イトトリゲモ、イバラモ、トリゲモ、ヒメアマナ、ユウスゲ、ヒメユリ、コオニユリ、イワショウブ、アマナ、タカネアオヤギソウ、コバイケイソウ、ウラゲコバイケイ、ミカワバイケイソウ、ミズアオイ、クロイヌノヒゲモドキ、クロイヌノヒゲ、オオムラホシクサ、ゴマシオホシクサ、エゾヌカボ、ヒメコヌカグサ、セトガヤ、チシマガリヤス、ムツオレグサ、ミヤマドジョウツナギ、ウキガヤ、ハイチゴザサ、アゼガヤ、タツノヒゲ×ヒロハヌマガヤ、アワガエリ、イトイチゴツナギ、ヒエガエリ、ハマヒエガエリ、ヌメリグサ、ウシクサ、ミクリ、ヤマトミクリ、タマミクリ、ヒメミクリ、クロカワズスゲ、ハタベスゲ、タチスゲ、ノゲヌカスゲ、マメスゲ、エゾハリスゲ、ヌマガヤツリ、ヒメマツカサススキ、コシンジュガヤ、テガタチドリ、サギソウ、ミズトンボ、ムカゴソウ、オノエラン、ニョホウチドリ、ミズチドリ、コバノトンボソウ、トキソウ、ヤマトキソウ、ミズゴケ属の163種(植物162種、蘚苔類1種)は、山地や里地・里山の草地や湿地が主な生育環境である。

イワハタザオ、シライワコゴメグサ、グンバイヅル、ハマウツボ、トダイハハコ、カララノギク、ホソバムカシヨモギ、ミギワトダシバの8種(植物8種)は、裸地が主な生育環境である。

ヒモカズラ、シモツケヌリトラノオ、トキワトラノオ、クモノスシダ、トヨグチウラボシ、コマイワヤナギ、ビランジ、イワアカザ、ヘラハタザオ、マルバマンネングサ、エチゼンダイモンジソウ、ダイモンジソウ、ウチワダイモンジソウ、クロクモソウ、イワキンバイ、ミヤマクマヤナギ、チョウセンナニワズ、イワニンジン、ヒメイワカガミ、ヤマイワカガミ、イワカガミ、イワタバコ、コウシュウヒゴタイ、アオヤギバナ、イワギボウシ、ホソバコオニユリ、イワホトトギス、イワチドリ、コバノキヌシッポゴケ、ヒナキヌシッポゴケ、ハナシキヌシッポゴケ、サンカクキヌシッポゴケ、コキヌシッポゴケ、ハリロカ

イゴケ、イトヒキフタゴゴケ、ナガバハリイシバイゴケ、ハリイシバイゴケ、ミヤマコネジレゴケ、シナノセンボンゴケ、シノブチョウチンゴケ、ミヤマクサスギゴケ、シライワズゴケ、オクヤマツガゴケ、ホソバツヤゴケ（タチミツヤゴケ）、オオシカゴケの 45 種(植物 28 種、蘚苔類 17 種)は、岩場が主な生育環境である。

デンジソウ、サンショウモ、オオアカウキクサ、ジュンサイ、マツモ、ヒメビシ、タチモ、フサモ、スギナモ、タヌキモ、コタヌキモ、ヒメタヌキモ、イヌタヌキモ、クロモ、トチカガミ、セキショウモ、ヒンジモの 16 種(植物 16 種)は、水域が主な生育環境である。

「赤石山脈の自然植生」に係る特定植物群落生育地域の一部は対象事業実施区域に含まれるが、トンネルで通過する。

このため、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）又は鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地）の存在により、重要な種及び群落の生育環境の一部が消失、縮小する可能性が考えられるが、周辺に同質の生育環境が広く分布すること、工事に伴う排水は必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することから生育環境の消失、縮小は一部にとどめられる。また、事業実施区域の多くの植物は雨水起源の土壌水で生育していると考えられるため、地下水位の変化による生育環境への影響は及ばない。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な種及び群落の生育環境は保全されると予測される。

## 2) 環境保全措置の検討

### ア. 環境保全措置の検討の状況

本事業では、計画の立案の段階において、植物に係る環境影響を回避又は低減するため「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」「林縁保護植栽等による重要な種の生育環境の確保」について検討した。さらに、事業者により実行可能な範囲内で、工事の実施（切土工又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地）の存在による植物に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。

検討にあたっては、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」を基本とした上で、さらに影響を低減させる措置を実施する。また、その結果を踏まえ、必要な場合には、損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を検討した。

環境保全措置の検討の状況を表 8-4-2-20 に示す。

なお、「長野県版レッドリスト植物編」（平成 26 年改訂予定）が改訂された際は、専門家の助言等も踏まえ生育環境への影響が生じるおそれがある場合は、適切な環境保全措置を検討する。

表 8-4-2-20(1) 環境保全措置の検討の状況

環境保全措置	保全対象種	実施の 適否	適否の理由
工事に伴う改変区域をできる限り小さくする	オオハナワラビ、トキホコリ、サネカズラ、ナガミノツルキケマン、ツメレンゲ、ミズマツバ、トダイアカバナ、タチキランソウ、サワトウガラシ、カワラニガナ、カワラウスユキソウ、シュウブソウ、ウリカワ、アイノコイトモ、ヤマユリ、ヒメシヤガ、カキツバタ、ホシクサ、アゼナルコ、ヒナスゲ、コケイラン、カサゴケモドキ、イブキキンモウゴケ、アカウラカワイワタケ、シラチヤウメノキゴケ、ヒカゲウチキウメノキゴケ、イワタケ	適	工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、生育環境の改変をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。
林縁保護植栽等による重要な種の生育環境の確保	オオハナワラビ、トキホコリ、サネカズラ、ナガミノツルキケマン、ツメレンゲ、ミズマツバ、トダイアカバナ、タチキランソウ、サワトウガラシ、カワラニガナ、カワラウスユキソウ、シュウブソウ、ウリカワ、アイノコイトモ、ヤマユリ、ヒメシヤガ、カキツバタ、ホシクサ、アゼナルコ、ヒナスゲ、コケイラン、カサゴケモドキ、イブキキンモウゴケ、アカウラカワイワタケ、シラチヤウメノキゴケ、ヒカゲウチキウメノキゴケ、イワタケ	適	改変された区域の一部に周辺の植生を考慮したうえで、定期的の下刈りを行うなど、適切に管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することで、自然環境を確保できることから、環境保全措置として採用する。
工事従事者への講習・指導	オオハナワラビ、トキホコリ、サネカズラ、ナガミノツルキケマン、ツメレンゲ、ミズマツバ、トダイアカバナ、タチキランソウ、サワトウガラシ、カワラニガナ、カワラウスユキソウ、シュウブソウ、ウリカワ、アイノコイトモ、ヤマユリ、ヒメシヤガ、カキツバタ、ホシクサ、アゼナルコ、ヒナスゲ、コケイラン、カサゴケモドキ、イブキキンモウゴケ、アカウラカワイワタケ、シラチヤウメノキゴケ、ヒカゲウチキウメノキゴケ、イワタケ	適	工事区域外への不必要な立ち入り等を制限することで、踏みつけ等による重要な種への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。
放流時の放流箇所及び水温の調整	トンネルからの湧水を放流する河川を生育環境とする保全対象種全般	適	トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、水生生物への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。
外来種の拡大抑制	—	適	資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努める。また作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。

表 8-4-2-20(2) 環境保全措置の検討の状況

環境保全措置	保全対象種	実施の 適否	適否の理由
重要な種の移植・播種	オオハナワラビ、トキホコリ、サネカズラ、ミズマツバ、トダイアカバナ、サワトウガラシ、カワラニガナ、カワラウスユキソウ、ウリカワ、アイノコイトモ、ヒメシヤガ、カキツバタ、ホシクサ、アゼナルコ、ヒナスゲ、コケイラン	適	回避、低減のための措置を講じても生育環境の一部がやむを得ず消失する場合において、重要な種を移植・播種することで、種の消失による影響を低減できることから環境保全措置として採用する。

工事計画を検討するにあたり、重要な種の生育状況を踏まえ、専門家の助言等を踏まえ、環境影響を可能な限り回避又は低減し、必要な場合には損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を講じていく。

重要な種の移植・播種にあたっては、専門家等の助言を踏まえ、対象種ごとに、移植・播種の場所、時期、方法、監視方法等を含む実施計画を作成のうえ、実施する。

イ. 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容

本事業では、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地）の存在による植物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」「林縁保護植栽等による重要な種の生育環境の確保」「工事従事者への講習・指導」「放流時の放流箇所及び水温の調整」「外来種の拡大抑制」及び「重要な種の移植・播種」を実施する。

環境保全措置の内容を表 8-4-2-21 に示す。

表 8-4-2-21(1) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	工事に伴う改変区域をできる限り小さくする
	保全対象種	オオハナワラビ、トキホコリ、サネカズラ、ナガミノツルキケマン、ツメレンゲ、ミズマツバ、トダイアカバナ、タチキランソウ、サワトウガラシ、カワラニガナ、カワラウスユキソウ、シュウブソウ、ウリカワ、アイノコイトモ、ヤマユリ、ヒメシヤガ、カキツバタ、ホシクサ、アゼナルコ、ヒナスゲ、コケイラン、カサゴケモドキ、イブキキンモウゴケ、アカウラカワイワタケ、シラチャウメノキゴケ、ヒカゲウチキウメノキゴケ、イワタケ
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	工事ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより、生育環境の改変をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-21 (2) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	林縁保護植栽等による重要な種の生育環境の確保
	保全対象種	オオハナワラビ、トキホコリ、サネカズラ、ナガミノツルキケマン、ツメレンゲ、ミズマツバ、トダイアカバナ、タチキランソウ、サワトウガラシ、カワラニガナ、カワラウスユキソウ、シュウブソウ、ウリカワ、アイノコイトモ、ヤマユリ、ヒメジャガ、カキツバタ、ホシクサ、アゼナルコ、ヒナスゲ、コケイラン、カサゴケモドキ、イブキキンモウゴケ、アカウラカワイワタケ、シラチャウメノキゴケ、ヒカゲウチキウメノキゴケ、イワタケ
	時期・期間	鉄道施設の完成後
環境保全措置の効果	改変された区域の一部に周辺の植生を考慮したうえで、定期的の下刈りを行うなど、適切に管理しながら林縁保護植栽等を図り、その効果を確認することで、自然環境を確保できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-21 (3) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	工事従事者への講習・指導
	保全対象種	オオハナワラビ、トキホコリ、サネカズラ、ナガミノツルキケマン、ツメレンゲ、ミズマツバ、トダイアカバナ、タチキランソウ、サワトウガラシ、カワラニガナ、カワラウスユキソウ、シュウブソウ、ウリカワ、アイノコイトモ、ヤマユリ、ヒメジャガ、カキツバタ、ホシクサ、アゼナルコ、ヒナスゲ、コケイラン、カサゴケモドキ、イブキキンモウゴケ、アカウラカワイワタケ、シラチャウメノキゴケ、ヒカゲウチキウメノキゴケ、イワタケ
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	工事区域外への不必要な立ち入り等を制限することで、踏みつけ等による重要な種への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-21 (4) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	放流時の放流箇所及び水温の調整
	保全対象種	トンネルからの湧水を放流する河川を生育環境とする保全対象種全般
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、水生生物への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-21(5) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	外来種の拡大抑制
	保全対象種	—
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努める。また作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-21(6) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	重要な種の移植・播種
	保全対象種	オオハナワラビ、トキホコリ、サネカズラ、ミズマツバ、トダイアカバナ、サワトウガラシ、カワラニガナ、カワラウスユキソウ、ウリカワ、アイノコイトモ、ヒメシャガ、カキツバタ、ホシクサ、アゼナルコ、ヒナスゲ、コケイラン
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	非常口（山岳部）、地上部及び変電施設の位置や形状の観点から、そこに生育する重要な種の一部は、やむを得ず消失することとなるため、代償措置として、消失する環境の近傍において、消失する環境に類似した環境（植生、光及び水分等の条件等）を持つ場所へ移植を行うことで、重要な種の生育環境への影響を代償することができる。 なお、重要な種の移植・播種は工事实施前に対象個体を確定し、生育環境の詳細な調査（コドラート調査等）を実施した上で、専門家の技術的助言を踏まえながら、対象種に係る移植・播種地や手法等の検討を行う。また、移植・播種後においても、生育状況の確認を行うことから、効果が期待できる。	
効果の不確実性	あり	
他の環境への影響	なし	

ウ. 環境保全措置の効果及び当該環境保全措置を講じた後の環境の変化の状況

環境保全措置の効果は表 8-4-2-21 に示すとおりである。環境保全措置を実施することで、植物に係る環境影響が回避又は低減される。

3) 事後調査

ア. 事後調査を行うこととした理由

本事業の実施による植物への影響は、環境保全措置を実施することにより影響を回避又は低減できるものと予測する。

しかし、重要な種の移植、播種は、環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。

## イ. 事後調査の項目及び手法

実施する事後調査の内容を表 8-4-2-22 に示す。なお、移植・播種の事例については資料編に示すとおりである。

表 8-4-2-22 事後調査の概要

調査項目	調査内容	実施主体
移植・播種した植物の生育状況	○調査時期・期間 各種の生活史及び生育特性等に応じて設定 ○調査地域・地点 移植・播種を講じた植物の移植・播種先生育地 ○調査方法 現地調査（任意観察）による確認	東海旅客鉄道株式会社

## ウ. 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応の方針

事後調査の結果について、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、その原因の解明に努めるとともに、専門家の助言も踏まえ、必要な場合には種の特性に合わせた改変時期の設定や改変期間の短縮についても検討し、改善を図るものとする。

## エ. 事後調査の結果の公表方法

事後調査の結果の公表は、原則として事業者が行うものとするが、公表時期・方法等は、関係機関と連携しつつ適切に実施するものとする。

## 4) 評価

### ア. 評価の手法

#### ア) 回避又は低減に係る評価

植物に係る環境影響が、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減がなされているか、見解を明らかにすることにより評価を行った。

### イ. 評価結果

#### ア) 回避又は低減に係る評価

本事業では、計画段階において、大部分をトンネル構造にする等して、改変面積を極力小さくする計画とし、植物に係る環境影響の回避又は低減を図っている。

一部の種は、生育環境の一部が保全されない可能性があるかと予測されたが、「林縁保護植栽等による重要な種の生育環境の確保」等の環境保全措置を確実に実施することで、環境影響の回避又は低減に努める。

なお、「重要な種の移植・播種」は、環境保全措置の効果に不確実性があることから、事後調査を実施する。また、予測し得ない影響が生じた場合は、専門家の助言等を踏まえて、別途対策を検討する。

このことから、植物に係る環境影響の回避又は低減が図られていると評価する。

